

(様式4)

一般社団法人薬学教育評価機構

(調書)

## 薬学教育評価 基礎資料

(平成25年5月1日)

就実大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況・休学退学者数・学士課程修了状況	9
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	12
基礎資料 4	カリキュラムマップ	64
基礎資料 5	語学教育の要素	68
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	69
基礎資料 7	学生受入状況	78
基礎資料 8	教員・事務職員数	79
基礎資料 9	専任教員年齢構成	80
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	81
基礎資料11	卒業研究の配属状況	92
基礎資料12	講義室等の数と面積	93
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	94
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	95
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	97

		1年次						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(択) 人権の現代的課題	後期	166	1	1	コ		2
	(択) 社会学の世界と歴史	前期	158	1	3	コ		2
	(択) 社会学概論	後期	135	1	2	コ		2
	(択) 経済学概論	後期	125	1	2	コ		2
	(択) 基礎経営論	前期	28	1	13	コ		2
	(択) 基礎マーケティング論 a・b	後期	53	2	31	コ		2
	(択) 健康と食品 a・b	前期	148	2	75	コ		2
	(択) 健康と栄養 a・b	後期	147	2	88	コ		2
	(択) 化学の世界と歴史	後期	101	1	42	コ		2
	(択) 化学と環境問題	前期	37	1	12	コ		2
	(択) 生命機能のシステム	前期	58	1	34	コ		2
	(択) 生命と自然環境	前期	111	1	9	コ		2
	(択) 人体の構造と機能	後期	88	1	33	コ		2
	(択) 生命機能のプログラム	前期	184	1	66	コ		2
	(択) こころの健康科学	後期	160	1	41	コ		2
	(択) 現代人とこころの障害 a・b	前期	174	2	67	コ		2
	(択) スポーツと健康 a・b	前期	146	2	60	コ		2
	(択) スポーツと社会	後期	57	1	13	コ		2
	(択) スポーツ 1h・i・j	前期	30	3	88	エ		1
	(択) スポーツ 2 d	後期	25	1	3	エ		1
	(択) スポーツ 4 a・b	後期	35	2	3	エ		1
	(択) 生命と生活の化学	後期	11	1	6	コ		2
	(択) 病気と環境	後期	271	1	77	コ		2
	(択) いきものと物質	後期	62	1	12	コ		2
	(択) くすりと社会	前期	92	1	59	コ		2
	(必) 情報処理演習 a・b・c	前期	45	3	135	エ		1
	(選) 基礎数学	前期	137	1	135	コ		2
	(選) 基礎物理学	前期	135	1	135	コ		2
	(選) 基礎生物学	前期	140	1	138	コ		2
	(必) 基礎化学	前期	136	1	136	コ		2
	(択) 漢詩文の表現と思想	後期	60	1	10	コ		2
	(択) 日本文化論 2	後期	99	1	5	コ		2
	(択) 日本人の思想	後期	95	1	14	コ		2
	(択) ヨーロッパ人の思想	後期	143	1	11	コ		2
	(択) 西洋美術史	前期	191	1	26	コ		2
	(択) 東洋美術史	前期	162	1	18	コ		2
	(択) 死生観の歴史	前期	181	1	52	コ		2
	(択) 現代の哲学と思想	後期	66	1	15	コ		2
	(択) 人類学の世界と歴史	前期	87	1	12	コ		2
	(択) アジアの民族誌	後期	100	1	18	コ		2
	(択) 地理学の世界と歴史	前期	108	1	8	コ		2
	(択) 現代都市の魅力診断	前期	155	1	7	コ		2
	(択) 心理学 2	後期	90	1	1	コ		2
	(択) 現代人の倫理と価値観	前期	51	1	9	コ		2
	(択) 女性の生活と歴史	前期	85	1	2	コ		2
	(択) 現代の女性環境	後期	111	1	3	コ		2
	(択) 口頭表現 e	後期	28	1	8	コ		2
	(択) English Reading I f・g・h	前期	44	3	132	エ		1
	(択) English Reading II f・g・h	後期	44	3	133	エ		1
	(択) Oral Communication I f・g・h	前期	45	3	135	エ		1
	(択) Oral Communication II f・g・h	後期	45	3	137	エ		1
	(択) English Composition I f・g・h	前期	44	3	132	エ		1
	(択) English Composition II f・g・h	後期	44	3	133	エ		1
	(択) フランス語文法入門 1 c	前期	60	1	34	エ		1
	(択) フランス語講読入門 2 c	後期	60	1	34	エ		1
(択) 中国語文法入門 1 c	前期	56	1	30	エ		1	
(択) 中国語講読入門 2 c	後期	55	1	30	エ		1	
(択) ハンゲル文法入門 1 c	前期	60	1	39	エ		1	
(択) ハンゲル講読入門 2 c	後期	60	1	39	エ		1	
薬学専門教育	(必) 薬学への招待	前期	135	1	135	コ	S	2
	(必) 薬学への招待							
	(必) 薬学への招待							
	(必) 薬学への招待							
	(選) 医療倫理学	後期	137	1	137	コ		1
	(選) 分子の構造と化学結合	後期	140	1	137	コ		2
	(選) 化学平衡	前期	144	1	138	コ		2
	(選) 化学物質の検出と定量	後期	144	1	138	コ		2
	(選) 薬化学	後期	143	1	139	コ		2
(選) 天然物化学	後期	149	1	139	コ		2	
(選) 生化学 I (細胞の生化学)	後期	115	1	139	コ		2	
演習	(必) 教養対話演習	後期	137	1	137	エ	S	1
	(必) 教養対話演習							
	(必) 教養対話演習							
	(必) 教養対話演習							
単位数の合計						(必修科目)		6
						(選) = (選択必修科目)		19
						(択) = (選択科目)		93
						合計		118

(凡例)

講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。

		2年次						
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数
教養教育・語学教育	(択) 生命機能のシステム	前期	58	1	1	コ		2
	(択) 現代人とこころの障害a	前期	285	1	1	コ		2
	(選) 基礎数学	前期	137	1	1	コ		2
	(選) 基礎生物学	前期	140	1	2	コ		2
	(択) 漢詩文の表現と心	前期	65	1	10	コ		2
	(択) 漢詩文の表現と思想	後期	90	1	1	コ		2
	(択) 人類学の世界と歴史	前期	87	1	1	コ		2
	(択) 倫理と価値観の諸相	後期	45	1	1	コ		2
	(択) Oral Communication I g	前期	46	1	1	エ		1
	(択) EnglishComposition I h	前期	47	1	2	エ		1
	(択) ドイツ語文法入門1	前期	50	1	3	エ		1
	(択) ドイツ語文法入門2	後期	47	1	3	エ		1
薬学専門教育	(選) 分子の構造と化学結合	後期	140	1	3	コ		2
	(選) 溶液の性質と化学反応速度論	前期	112	1	110	コ		2
	(選) 熱力学と物理平衡	後期	115	1	115	コ		2
	(選) 化学平衡	前期	144	1	5	コ		2
	(選) 化学物質の検出と定量	後期	144	1	6	コ		2
	(選) 分析技術の臨床応用	前期	109	1	109	コ		2
	(選) 薬化学	後期	143	1	3	コ		2
	(選) 有機構造解析学	前期	116	1	111	コ		2
	(選) 有機薬化学Ⅰ(基礎有機化学)	前期	113	1	109	コ		2
	(選) 有機薬化学Ⅱ(反応有機化学)	後期	119	1	112	コ		2
	(選) 天然物化学	後期	149	1	10	コ		2
	(選) 薬用植物学	前期前半	112	1	110	コ		1
	(選) 生薬学Ⅰ(生薬成分化学)	後期	115	1	114	コ		2
	(選) 生化学Ⅰ(細胞の生化学)	後期	161	1	22	コ		2
	(選) 生化学Ⅱ(構造と触媒作用)	前期	133	1	117	コ		2
	(選) 生化学Ⅲ(生体エネルギーと代謝)	後期	127	1	118	コ		2
	(選) 生体情報化学	後期	115	1	114	コ		2
	(選) 基礎免疫学	前期	118	1	115	コ		2
	(選) 臨床免疫学	後期	114	1	113	コ		2
	(選) 放射薬品化学	前期	110	1	108	コ		2
(選) 分子生物学Ⅰ(分子生物学の基礎)	前期	111	1	111	コ		2	
(選) 分子生物学Ⅱ(分子生物学の応用)	後期	110	1	110	コ		2	
(選) 薬理学Ⅰ(分子薬理学)	後期	135	1	117	コ		2	
(選) 人体構成学Ⅰ(解剖生理)	前期	118	1	116	コ		2	
(選) 人体構成学Ⅱ(生理機能の連携)	後期	115	1	113	コ		2	
実習	(必) 基礎科学実習	前期	15	-	105	エ		1
	(必) 物理系薬学実習(分析・物理化学実習)	前期	14	-	105	ジ		1
	(必) 化学系薬学実習(有機化学・生薬学実習)	前期	14	-	105	ジ		1
	(必) 生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)	後期	22	-	107	ジ		2
演習	(選) 基礎薬学英語	後期	20-30	-	107	エ		1
	(選) 物理系薬学演習	後期	111	1	111	エ	S	1
単位数の合計	(必修科目)							5
	(選) = (選択必修科目)							55
	(択) = (選択科目)							16
	合計							76

(凡例)  
講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。

		3年次						
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数
教養教育・語学教育	(択) 化学の世界と歴史	後期	101	1	1	コ		2
	(択) いきものと物質	後期	62	1	1	コ		2
	(択) 現代の哲学と思想	後期	58	1	1	コ		2
	(択) ドイツ語文法入門1	前期	50	1	1	エ		1
	(択) ドイツ語文法入門2	後期	47	1	1	エ		1
薬学専門教育	(選) 溶液の性質と化学反応速度論	前期	112	1	2	コ		2
	(選) 化学平衡	前期	144	1	1	コ		2
	(選) 薬化学	後期	143	1	1	コ		2
	(選) 有機構造解析学	前期	116	1	5	コ		2
	(選) 有機薬化学Ⅰ (基礎有機化学)	前期	113	1	4	コ		2
	(選) 有機薬化学Ⅱ (反応有機化学)	後期	119	1	7	コ		2
	(選) 有機薬化学Ⅲ (応用有機化学)	前期	91	1	91	コ		2
	(選) 医薬品化学	後期	99	1	98	コ		2
	(選) 薬用植物学	前期前半	112	1	2	コ		1
	(選) 生薬学Ⅰ (生薬成分化学)	後期	115	1	1	コ		2
	(選) 生薬学Ⅱ (応用生薬学)	前期	92	1	92	コ		1
	(選) 生化学Ⅱ (構造と触媒作用)	前期	133	1	15	コ		2
	(選) 生化学Ⅲ (生体エネルギーと代謝)	後期	127	1	9	コ		2
	(選) 生体情報化学	後期	115	1	1	コ		2
	(選) 基礎免疫学	前期	118	1	3	コ		2
	(選) 臨床免疫学	後期	114	1	1	コ		2
	(選) 微生物薬品化学	前期	96	1	92	コ		2
	(選) 放射薬品化学	前期	110	1	2	コ		2
	(選) 遺伝子工学	前期	90	1	90	コ		1
	(選) 分子生物学Ⅲ (バイオ医薬品)	前期	111	1	89	コ		1
	(選) 衛生化学Ⅰ (栄養化学)	前期	109	1	95	コ		2
	(選) 衛生化学Ⅱ (食品衛生学)	後期	95	1	95	コ		1
	(選) 公衆衛生学	前期	94	1	93	コ		2
	(選) 健康化学	後期	97	1	97	コ		1
	(選) 地球環境学	前期	94	1	94	コ		1
	(選) 薬理学Ⅰ (分子薬理学)	後期	135	1	18	コ		2
	(選) 薬理学Ⅱ (細胞薬理学)	前期	106	1	98	コ		2
	(選) 薬理学Ⅲ (薬効解析学)	後期	95	1	95	コ		2
	(選) 薬物治療学Ⅰ (概論および疾患別各)	後期	98	1	96	コ		2
	(選) 人体構成学Ⅰ (解剖生理)	前期	118	1	2	コ		2
	(選) 人体構成学Ⅱ (生理機能の連携)	後期	115	1	2	コ		2
	(選) 病態生理学Ⅰ (症候論)	前期	95	1	93	コ		2
	(選) 病態生理学Ⅱ (疾患論)	後期	104	1	101	コ		2
	(選) 物理薬剤学	前期	99	1	99	コ		2
(選) 生物薬剤学	後期	98	1	98	コ		2	
(選) 薬物動態学	後期	101	1	101	コ		2	
(選) 日本薬局方概論	前期	92	1	92	コ		2	
(選) 薬物代謝学	後期	102	1	101	コ		2	
(選) 医療統計学	前期	92	1	92	コ		2	
(選) 医薬品情報学	後期	96	1	95	コ		2	
(選) 薬局管理学	前期	86	1	86	コ		1	
(選) 調剤学	後期	105	1	100	コ		2	
実習	(必) 生物系薬学実習Ⅱ (遺伝子・微生物学)	後期	23	-	91	ジ	S	1
	(必) 衛生薬学実習	後期	23	-	92	ジ		1
演習	(必) 薬学対話演習	後期	92	1	92	エ	S	1
	(必) 薬学対話演習							
	(必) 薬学対話演習							
	(必) 薬学対話演習	後期	96	1	96	エ		1
	(選) 医療薬学英語 a・b・c	前期	30	3	92	エ		1
単位数の合計	(必修科目)							4
	(選) = (選択必修科目)							77
	(択) = (選択科目)							8
	合計							89

(凡例)  
講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。

		4年次						
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数
薬学専門教育	(選) 看護学概論	前期	78	1	78	コ		1
	(選) 医薬品化学	後期	99	1	1	コ		2
	(選) 生化学Ⅱ (構造と触媒作用)	前期	133	1	1	コ		2
	(選) 微生物薬品化学	前期	96	1	4	コ		2
	(選) 臨床微生物学	前期	88	1	88	コ		2
	(選) 感染症予防学	後期	89	1	89	コ		2
	(選) 衛生化学Ⅰ (栄養化学)	前期	109	1	14	コ		2
	(選) 公衆衛生学	前期	94	1	1	コ		2
	(選) 環境毒性学	前期	90	1	90	コ		2
	(選) 環境衛生学	後期	90	1	90	コ		2
	(選) 薬理学Ⅱ (細胞薬理学)	前期	106	1	8	コ		2
	(選) 薬理学Ⅳ (応用薬理学)	前期	91	1	91	コ		2
	(選) 薬物治療学Ⅰ (概論および疾患別各)	後期	98	1	2	コ		2
	(選) 薬物治療学Ⅱ (疾患別各論Ⅱ) (茶から無へ)	前期	88	1	88	コ		2
	(選) 薬物治療学Ⅲ (疾患別各論Ⅲ)	後期	89	1	89	コ		2
	(選) 病態生理学Ⅰ (症候論)	前期	95	1	2	コ		2
	(選) 病態生理学Ⅱ (疾患論)	後期	104	1	3	コ		2
	(選) 製剤学	前期	88	1	88	コ		2
	(選) 製剤機能論	後期	90	1	90	コ		2
	(選) 薬物代謝学	後期	102	1	1	コ		2
	(選) 医薬品安全性学	前期	90	1	90	コ		2
	(選) 薬事関係法規	前期	88	1	88	コ		2
	(選) 新薬開発論	後期	90	1	90	コ		2
	(選) 医薬品情報学	後期	96	1	1	コ		2
	(選) 調剤学	後期	105	1	5	コ		2
	(選) 医療薬学	前期	90	1	90	コ		2
	(選) 薬剤師職能論	後期	78	1	78	コ		1
	(選) 処方解析学Ⅰ	前期	89	1	89	コ		2
(選) 処方解析学Ⅱ	後期	91	1	91	コ		2	
実習	(必) 医療系薬学実習Ⅰ (薬理・病態生理系実習) (茶から無へ)	前期	18	-	86	ジ		2
	(必) 医療系薬学実習Ⅱ (薬剤学実習) (茶から無へ)	前期	15	-	86	ジ	S	1
	(必) 実務実習事前学習	後期	24	-	95	ジ	S	2
	(必) 実務実習事前学習							
	(必) 実務実習事前学習							
(必) 実務実習事前学習								
演習	(必) 薬学対話演習Ⅱ	前期	3	1	3	エ	S	1
	(必) 薬学対話演習Ⅱ							
	(必) 薬学対話演習Ⅱ							
	(必) 薬学対話演習Ⅱ							
	(必) 応用薬学総合演習	前期	83	1	83	エ	S	1
(必) 応用薬学総合演習								
(必) 応用薬学総合演習								
(必) 応用薬学総合演習								
単位数の合計	(必修科目)							7
	(選) = (選択必修科目)							56
	合計							63

(凡例)  
講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

		5年次						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
薬学専門教育	(択) 病態と薬物治療	前期	76	1	76	コ		1
	(択) チーム医療	前期	76	1	76	コ		1
	(択) チーム医療							
	(択) チーム医療							
	(択) 医療現場における最先端分析技術	後期	26	1	26	コ		1
	(択) 創薬化学	後期	6	1	6	コ		1
	(択) 細胞生物学	後期	38	1	38	コ		1
	(択) 医療化学	後期	7	1	7	コ		1
	(択) 臨床栄養学	前期	69	1	69	コ		1
	(択) 未病薬学	後期	33	1	33	コ		1
	(択) 環境遺伝学	後期	18	1	18	コ		1
	(択) 免疫薬理学	後期	7	1	7	コ		1
	(択) 精神神経科学	後期	53	1	53	コ		1
	(択) 症例検討/CPC	後期	7	1	8	コ	S	1
	(択) 化粧品科学	後期	35	1	34	コ		1
	(択) 専門薬剤師概論Ⅰ	前期	76	1	76	コ		1
	(択) 専門薬剤師概論Ⅱ	前期	59	1	59	コ		1
	(択) 薬剤管理指導概論	前期	14	1	14	コ	S	1
	(択) 医薬品等評価学	前期	7	1	7	コ		1
	(択) 漢方薬学	前期	75	11	75	コ		1
実習	(必) 病院・薬局実務実習	通年	1-3	-	76	ジ	S	20
	(必) 病院・薬局実務実習							
	(必) 病院・薬局実務実習							
	(必) 病院・薬局実務実習							
	(必) 卒業論文実習	通年	3-6	-	80	ジ	S	5
	(必) 卒業論文実習							
演習	(択) 薬学海外研修	前期	10-20	1	10	エ		2
単位数の合計							(必修科目)	25
							(択) = (選択科目)	20
							合計	45

(凡例)  
講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。



6年次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	(必) 卒業特別講義 a・b	通年・前期	45-50	2	99	コ			6
実習	(必) 卒業論文実習	前期	3-6	-	80	ジ	S		5
	(必) 卒業論文実習								
単位数の合計						(必修科目)			11
						(択) = (選択科目)			0
						合計			11

(凡例)

講義=コ 演習=エ 実習=ジ PBL/SGD=S

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-7) 学年別授業科目

(基礎資料 1-1) から (基礎資料 1-6) までの結果から下記の (1) および (2) を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	12	37
教養教育科目	50	95
語学教育科目	17	18
医療安全教育科目	16	43
生涯学習の意欲醸成科目	15	41
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	9	31

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数			
	必須科目	選択必修科目	選択科目	合計
1 年 次	6	19	93	118
2 年 次	5	55	16	76
3 年 次	4	77	8	89
4 年 次	7	56	0	63
5 年 次	25	0	20	45
6 年 次	11	0	0	11
合計	58	207	137	402

## (基礎資料2-1) 修学状況

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	120	120	120	150	150	150	810	A	
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	B	
	入学者数	135	105	100	96	73	100	609		
基準日 における	各学年の在籍学生数	140	118	101	94	76	80	609	C	
	編入学生数(内)	0	2	6	7	3	3	21	D	
	留年者数(内)	5	20	20	24	21	17	107		
	留年者の 入学年度	平成18年度	0				2	1	3	
		平成19年度	0			6	2	16	24	
		平成20年度	0	1	1	7	17		26	
		平成21年度	0	1	4	11			16	
		平成22年度	0	3	15				18	
		平成23年度	1	15					16	
		平成24年度	4						4	
平成25年度							0			
C / (A + B)		0.75								
D / B		0								

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2 - 2) 休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
総在籍学生数	554		460		503		592		604		637	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
1年次	4	5	2	3	4	7	2	6		6		
2年次	2	6	1	2		1	1	3	2	7	4	3
3年次	1		3	2	1		2	5	1	1	2	
4年次						1	1	1				
5年次												
6年次												
合計	7	11	6	7	5	9	6	15	3	14	6	3

[注] 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月 卒業)	平成24年度 (平成25年3月 卒業)	平成25年度 (平成26年3月 卒業)	平成26年度 (平成27年3月 卒業)	平成27年度 (平成28年3月 卒業)	平成28年度 (平成29年3月 卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		84 名	81 名	61 名	名	名	名			
卒業生の入学 年度内訳	平成18年度入学者	84 名	21 名	1 名	名	名	名	平成18年度	139 名	60.4%
	平成19年度入学者	名	60 名	6 名	名	名	名	平成19年度	114 名	52.6%
	平成20年度入学者	名	名	54 名	名	名	名	平成20年度	100 名	54.0%
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成21年度	73 名	0.0%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	96 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	100 名	0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ</b>						
<b>(1) 生と死</b>						
<b>【生命の尊厳】</b>						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	医療倫理学 教養対話演習			実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	医療倫理学 教養対話演習			実務実習事前学習		
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	医療倫理学 教養対話演習			実務実習事前学習		
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	医療倫理学 教養対話演習			実務実習事前学習		
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)	薬学への招待 教養対話演習					
<b>【医療の目的】</b>						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。				実務実習事前学習 新薬開発論		
<b>【先進医療と生命倫理】</b>						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。				実務実習事前学習		
<b>(2) 医療の担い手としてのこころ構え</b>						
<b>【社会の期待】</b>						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	薬学への招待 教養対話演習		薬学対話演習			
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	教養対話演習		薬学対話演習	実務実習事前学習		
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	教養対話演習 薬学への招待		薬学対話演習	実務実習事前学習		
<b>【医療行為に関わるこころ構え】</b>						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療倫理学			実務実習事前学習	医薬品等評価学	
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	教養対話演習			実務実習事前学習		
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	薬学への招待 医療倫理学			医療薬学 実務実習事前学習 新薬開発論		
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)	薬学への招待					
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)				新薬開発論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【研究活動に求められるところ構え】</b>						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	薬学への招待			新薬開発論		
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	薬学への招待			新薬開発論		
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)			薬学対話演習	新薬開発論		
<b>【医薬品の創製と供給に関わるところ構え】</b>						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	薬学への招待		薬学対話演習	新薬開発論		
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)			薬学対話演習	新薬開発論		
<b>【自己学習・生涯学習】</b>						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)	教養対話演習	物理系薬学実習 化学系薬学実習 生物系薬学実習 I	生物系薬学実習 II 衛生薬学実習	医療系薬学実習 実務実習事前学習		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	教養対話演習		薬理学III 生物系薬学実習 II	薬物治療学 II		
<b>(3) 信頼関係の確立を目指して</b>						
<b>【コミュニケーション】</b>						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	薬学への招待 教養対話演習		薬学対話演習	実務実習事前学習		
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	薬学への招待 教養対話演習		薬学対話演習	実務実習事前学習		
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	教養対話演習		薬学対話演習	実務実習事前学習		
<b>【相手の気持ちに配慮する】</b>						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	教養対話演習		薬学対話演習		薬剤管理指導概論	
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)	教養対話演習		薬学対話演習	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	薬学への招待 教養対話演習				薬剤管理指導概論	
<b>【患者の気持ちに配慮する】</b>						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。			薬学対話演習	実務実習事前学習		
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)			薬学対話演習	実務実習事前学習		
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)			薬学対話演習	実務実習事前学習		
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)	薬学への招待		薬学対話演習			
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	薬学への招待 教養対話演習					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【チームワーク】</b>						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。	教養対話演習		薬学対話演習	看護学概論	薬剤管理指導概論 卒業論文実習	卒業論文実習
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)	薬学への招待 教養対話演習		薬学対話演習	医療系薬学実習 I 看護学概論	薬剤管理指導概論 卒業論文実習	卒業論文実習
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)	薬学への招待 教養対話演習		薬学対話演習		薬剤管理指導概論 卒業論文実習	卒業論文実習
<b>【地域社会の人々との信頼関係】</b>						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	薬学への招待		薬学対話演習	薬剤師職能論		
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)	薬学への招待		薬学対話演習	薬剤師職能論		
<b>B インTRODクシヨN</b>						
(1) 薬学への招待						
<b>【薬学の歴史】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学への招待					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学への招待					
<b>【薬剤師の活動分野】</b>						
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。	薬学への招待			薬剤師職能論		
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学への招待			薬剤師職能論 看護学概論		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学への招待		医薬品情報学	薬剤師職能論		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	薬学への招待			薬剤師職能論		
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	薬学への招待			薬剤師職能論		
<b>【薬について】</b>						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	くすりと社会 薬学への招待					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	くすりと社会 薬学への招待					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	くすりと社会 薬学への招待			新薬開発論		
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。	くすりと社会 薬学への招待					
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	くすりと社会		薬学対話演習	新薬開発論		
<b>【現代社会と薬学との接点】</b>						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	くすりと社会 薬学への招待		薬理学Ⅲ	新薬開発論	医療現場における最先端 分析技術	
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	くすりと社会 薬学への招待					
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	くすりと社会 教養対話演習		薬学対話演習	新薬開発論		
<b>【日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	化学平衡		日本薬局方概論			



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【総合演習】</b>						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学への招待 教養対話演習					
化学平衡		物理系薬学実習				
<b>(2) 早期体験学習</b>						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学への招待					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	薬学への招待					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)				新薬開発論	医療現場における最先端 分析技術	
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	薬学への招待				病院・薬局実務実習	
<b>C 薬学専門教育</b>						
<b>[物理系薬学を学ぶ]</b>						
<b>C1 物質の物理的性質</b>						
<b>(1) 物質の構造</b>						
<b>【化学結合】</b>						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 軌道の混成について説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【分子間相互作用】</b>						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	分子の構造と化学結合	物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【原子・分子】</b>						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	分子の構造と化学結合	有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	分子の構造と化学結合	有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	分子の構造と化学結合	有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 偏光および旋光性について説明できる。		有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 散乱および干渉について説明できる。		有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。		有機構造解析学 物理系薬学演習				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【放射線と放射能】</b>						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		放射薬品化学 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 電離放射線の種類を列举し、それらの物質との相互作用について説明できる。		放射薬品化学 物理系薬学演習		環境毒性学		卒業特別講義
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		放射薬品化学 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		放射薬品化学 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 放射線の測定原理について説明できる。		放射薬品化学 物理系薬学演習		環境毒性学		卒業特別講義
<b>(2) 物質の状態 I</b>						
<b>【総論】</b>						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【エネルギー】</b>						
1) 系、外界、境界について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 仕事および熱の概念を説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) エンタルピーについて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 熱力学第二法則について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 熱力学第三法則について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 自由エネルギーについて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>(3) 物質の状態 II</b>						
<b>【物理平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 相平衡と相律について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学実習				卒業特別講義
6) 界面における平衡について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 吸着平衡について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学実習 物理系薬学演習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【溶液の化学】</b>						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 活量と活量係数について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) イオン強度について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【電気化学】</b>						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 標準電極電位について説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) Nernstの式が誘導できる。		熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 濃淡電池について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 生体情報化学 物理系薬学演習				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
(4) 物質の変化	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> <b>【反応速度】</b> </div>											
1) 反応次数と速度定数について説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 衝突理論について概説できる。								溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 遷移状態理論について概説できる。								溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。								溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【物質の移動】</b>							<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> <b>【物質の移動】</b> </div>					
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義						
2) 沈降現象について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義						
3) 流動現象および粘度について説明できる。		溶液の性質と化学反応速度論 熱力学と物理平衡 物理系薬学演習				卒業特別講義						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C2 化学物質の分析</b>						
(1) 化学平衡						
<b>【酸と塩基】</b>						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	化学平衡	溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)	化学平衡	物理系薬学演習 物理系薬学実習				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	化学平衡	溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学実習				卒業特別講義
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	化学平衡	溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	化学平衡	溶液の性質と化学反応速度論 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 酸化還元電位について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
4) 酸化還元平衡について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
5) 分配平衡について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
6) イオン交換について説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
(2) 化学物質の検出と定量						
<b>【定性試験】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	化学平衡	物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【定量の基礎】</b>						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		物理系薬学演習 物理系薬学実習 化学物質の検出と定量				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【容量分析】</b>						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
6) 電気滴定 (電位差滴定、電気伝導度滴定など) の原理、操作法および応用例を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)		物理系薬学演習 物理系薬学実習 化学物質の検出と定量				
<b>【金属元素の分析】</b>						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)	天然物化学	物理系薬学演習 物理系薬学実習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
<b>(3) 分析技術の臨床応用</b>						
<b>【分析の準備】</b>						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
<b>【分析技術】</b>						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		臨床免疫学 分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習 生物系薬学実習 1				卒業特別講義
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系薬学実習 I 分析技術の臨床応用 物理系薬学演習	生物系薬学実習 II			卒業特別講義
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
9) 薬学領域で頻用されるその他の分析技術 (バイオイメーjing、マイクロチップなど) について概説できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【薬毒物の分析】</b>						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				卒業特別講義
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)		分析技術の臨床応用 物理系薬学演習				
<b>G3 生体分子の姿・かたちをとらえる</b>						
(1) 生体分子を解析する手法						
<b>【分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	生化学Ⅱ	有機構造解析学 物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	生化学Ⅱ	有機構造解析学 物理系薬学演習 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		生物系薬学実習 1				卒業特別講義
<b>【核磁気共鳴スペクトル】</b>						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。	生化学Ⅱ	有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【質量分析】</b>						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。	生化学Ⅱ	有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【X線結晶解析】</b>						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。	生化学Ⅱ	有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【相互作用の解析法】</b>						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		薬理学Ⅰ			医療現場における最先端 分析技術	卒業特別講義
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
<b>【立体構造】</b>						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ					卒業特別講義
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ					卒業特別講義
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ					卒業特別講義
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ					卒業特別講義
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			遺伝子工学			卒業特別講義
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生化学Ⅰ					卒業特別講義



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【相互作用】</b>						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	基礎生物学					卒業特別講義
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
3) 脂質の水中における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)について説明できる。	生化学Ⅰ	生体情報化学				卒業特別講義
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
<b>C4 化学物質の性質と反応</b>						
(1) 化学物質の基本的性質						
<b>【基本事項】</b>						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学 薬化学		有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
5) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離、転位)の特徴を概説できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	薬化学	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
7) 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン)の構造と性質を説明できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。		有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
<b>【有機化合物の立体構造】</b>						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	天然物化学 基礎生物学	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
2) キラリティーと光学活性を概説できる。	天然物化学 基礎生物学	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	天然物化学 基礎生物学		有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	天然物化学		有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
5) 絶対配置の表示法を説明できる。	天然物化学		有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	天然物化学	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	天然物化学	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
<b>【無機化合物】</b>						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	薬化学					卒業特別講義
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	薬化学					卒業特別講義
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。	薬化学					卒業特別講義
<b>【錯体】</b>						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
2) 配位結合を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	薬化学					卒業特別講義
4) 錯体の安定度定数について説明できる。	薬化学					卒業特別講義
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素(キレート効果)について説明できる。	薬化学					卒業特別講義
6) 錯体の反応性について説明できる。	薬化学					卒業特別講義
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	薬化学					卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(2) 有機化合物の骨格</b>						
<b>【アルカン】</b>						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	薬化学					卒業特別講義
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	薬化学					卒業特別講義
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
<b>【アルケン・アルキンの反応性】</b>						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性(アンチ付加)を説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性(Markovnikov 則)について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学I				卒業特別講義
<b>【芳香族化合物の反応性】</b>						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		有機薬化学II	有機薬化学III			卒業特別講義
2) 芳香族性(Hückel 則)の概念を説明できる。		有機薬化学II	有機薬化学III			卒業特別講義
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		有機薬化学II	有機薬化学III			卒業特別講義
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		有機薬化学II	有機薬化学III			卒業特別講義
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		有機薬化学II	有機薬化学III			卒業特別講義
<b>(3) 官能基</b>						
<b>【概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機薬化学I	有機薬化学III			卒業特別講義
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。	生化学II	生化学III				卒業特別講義
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		生物系薬学実習 I 化学系薬学実習				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		生物系薬学実習 I 化学系薬学実習				
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	基礎化学、薬化学					卒業特別講義
<b>【有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学I				卒業特別講義
2) 求核置換反応(S <sub>N</sub> 1および S <sub>N</sub> 2反応)の機構について、立体化学を含めて説明できる。		有機薬化学I				卒業特別講義
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性(Saytzeff則)を説明できる。		有機薬化学I				卒業特別講義
<b>【アルコール・フェノール・チオール】</b>						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学II				卒業特別講義
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学II				卒業特別講義
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機薬化学II				卒業特別講義
<b>【エーテル】</b>						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学II				卒業特別講義
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。		有機薬化学II				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学Ⅱ				卒業特別講義
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
<b>【アミン】</b>						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
<b>【官能基の酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。			有機薬化学Ⅲ			卒業特別講義
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【総論】</b>						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		生薬学Ⅰ 有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【<sup>1</sup>H NMR】</b>						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		生薬学Ⅰ 有機構造解析学				卒業特別講義
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		化学系薬学実習 有機構造解析学				卒業特別講義
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		化学系薬学実習 有機構造解析学				卒業特別講義
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
5) <sup>1</sup> H NMRの積分値の意味を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
6) <sup>1</sup> H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する理由と、分裂様式を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
7) <sup>1</sup> H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
8) 代表的化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		生薬学Ⅰ 化学系薬学実習 有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【<sup>13</sup>C NMR】</b>						
1) <sup>13</sup> C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【IRスペクトル】</b>						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機構造解析学	日本薬局方概論			卒業特別講義
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【紫外可視吸収スペクトル】</b>						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		有機構造解析学 化学物質の検出と定量				卒業特別講義
<b>【マスマスペクトル】</b>						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明ができる。		有機構造解析学				卒業特別講義
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。(技能)		生薬学Ⅰ 有機構造解析学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【比旋光度】</b>						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。	天然物化学	有機構造解析学				卒業特別講義
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)	天然物化学					
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		有機構造解析学				卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		生薬学 I 有機構造解析学				
<b>C5 ターゲット分子の合成</b>						
<b>(1) 官能基の導入・変換</b>						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機薬化学 II	医薬品化学			卒業特別講義
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機薬化学 II	医薬品化学			卒業特別講義
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		有機薬化学 II	医薬品化学			卒業特別講義
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機薬化学 II	医薬品化学			卒業特別講義
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)			医薬品化学			
<b>(2) 複雑な化合物の合成</b>						
<b>【炭素骨格の構築法】</b>						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機薬化学 I	医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。			医薬品化学 有機薬化学 III			卒業特別講義
<b>【位置および立体選択性】</b>						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
<b>【保護基】</b>						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
<b>【光学活性化合物】</b>						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。	天然物化学		医薬品化学			卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			医薬品化学			卒業特別講義
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)		化学系薬学実習				
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)		化学系薬学実習				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C6 生体分子・医薬品を化学で理解する</b>						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
<b>【生体分子の化学構造】</b>						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学 基礎化学					卒業特別講義
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	生化学 I 基礎生物学 基礎化学					卒業特別講義
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。	生化学 I 基礎化学					卒業特別講義
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。	基礎生物学 基礎化学	分子生物学 I				卒業特別講義
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	生化学 I 基礎生物学 基礎化学	生体情報化学				卒業特別講義
<b>【生体内で機能する複素環】</b>						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	基礎化学					卒業特別講義
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。	基礎化学	分子生物学 I				卒業特別講義
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。	生化学 I					卒業特別講義
<b>【生体内で機能する錯体・無機化合物】</b>						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	薬化学					卒業特別講義
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	薬化学					卒業特別講義
<b>【化学から観る生体ダイナミクス】</b>						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	生化学 II	生化学 III				卒業特別講義
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。	生化学 II	生化学 III				卒業特別講義
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。	生化学 II	生化学 III 生体情報化学				卒業特別講義
(2) 医薬品のコアとパーツ						
<b>【医薬品のコンポーネント】</b>						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。			医薬品化学			卒業特別講義
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
<b>【医薬品に含まれる複素環】</b>						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。			医薬品化学			卒業特別講義
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			医薬品化学			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【医薬品と生体高分子】</b>						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。	生化学Ⅱ	生化学Ⅲ 生体情報化学				卒業特別講義
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。	生化学Ⅱ	生化学Ⅲ 生体情報化学				卒業特別講義
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)	天然物化学					卒業特別講義
<b>【生体分子を模倣した医薬品】</b>						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学			卒業特別講義
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学			卒業特別講義
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学			卒業特別講義
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学			卒業特別講義
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学			卒業特別講義
<b>【生体内分子と反応する医薬品】</b>						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。		分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。			微生物薬品化学			卒業特別講義
<b>C7 自然が生み出す薬物</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b>						
<b>【生薬とは何か】</b>						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
2) 生薬の歴史について概説できる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
3) 生薬の生産と流通について概説できる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
<b>【薬用植物】</b>						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		薬用植物学				
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		薬用植物学				卒業特別講義
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		薬用植物学				卒業特別講義
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		薬用植物学				
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		薬用植物学				卒業特別講義
<b>【植物以外の医薬資源】</b>						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>【生薬成分の構造と生合成】</b>						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。	天然物化学	生薬学Ⅰ				卒業特別講義
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学Ⅰ				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【農薬、化粧品としての利用】</b>						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>【生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学 I				卒業特別講義
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		生薬学 I				卒業特別講義
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)		化学系薬学実習				
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)		化学系薬学実習				
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学 I				卒業特別講義
<b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b>						
<b>【シーズの探索】</b>						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。		生薬学 I				卒業特別講義
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を挙げて説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>【天然物質の取扱い】</b>						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)	天然物化学					
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>【微生物が生み出す医薬品】</b>						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。	天然物化学		微生物薬品化学			卒業特別講義
<b>【発酵による医薬品の生産】</b>						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>【発酵による有用物質の生産】</b>						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。	天然物化学					卒業特別講義
<b>(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬</b>						
<b>【漢方医学の基礎】</b>						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			生薬学 II			卒業特別講義
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。			生薬学 II			卒業特別講義
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。			生薬学 II			卒業特別講義
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。			生薬学 II			卒業特別講義
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。			生薬学 II			卒業特別講義
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。			生薬学 II			卒業特別講義
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。			生薬学 II			卒業特別講義
<b>【漢方処方の応用】</b>						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			生薬学 II			卒業特別講義
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。			生薬学 II			卒業特別講義
<b>【生物系薬学を学ぶ】</b>						
<b>C8 生命体の成り立ち</b>						
<b>(1) ヒトの成り立ち</b>						
<b>【概論】</b>						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 I、II				卒業特別講義
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	基礎生物学	人体構成学 I、II				卒業特別講義
<b>【神経系】</b>						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 I				卒業特別講義
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 I				卒業特別講義
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 I				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【骨格系・筋肉系】</b>						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		人体構成学 I				卒業特別講義
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。		人体構成学 I				卒業特別講義
<b>【皮膚】</b>						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
<b>【循環器系】</b>						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I 基礎免疫学				卒業特別講義
<b>【呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【泌尿器系】</b>						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【生殖系】</b>						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【内分泌系】</b>						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	基礎生物学	人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【感覚器系】</b>						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
<b>【血液・造血器系】</b>						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
<b>【細胞と組織】</b>						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。		人体構成学 I		医療系薬学実習 I		卒業特別講義
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。		人体構成学 I 人体構成学 II		医療系薬学実習 I		卒業特別講義
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)				医療系薬学実習 I		
<b>【細胞膜】</b>						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生化学 I 基礎生物学	生体情報化学 人体構成学 I				卒業特別講義
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生化学 I 基礎生物学	生体情報化学				卒業特別講義
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生化学 I 基礎生物学	生体情報化学 人体構成学 I				卒業特別講義
<b>【細胞内小器官】</b>						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	基礎生物学	生体情報化学 人体構成学 I				卒業特別講義



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【細胞の分裂と死】</b>						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。		人体構成学 I 分子生物学 II				卒業特別講義
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。		人体構成学 II 分子生物学 II				卒業特別講義
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。		分子生物学 II 基礎免疫学		医薬品安全性学		卒業特別講義
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
<b>【細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生体情報化学 人体構成学 I				卒業特別講義
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						卒業特別講義
<b>(3) 生体の機能調節</b>						
<b>【神経・筋の調節機構】</b>						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。		人体構成学 I				卒業特別講義
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列举し、概説できる。	基礎生物学	人体構成学 I 人体構成学 II				卒業特別講義
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 I				卒業特別講義
<b>【ホルモンによる調節機構】</b>						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	基礎生物学	人体構成学 II		薬物治療学 II		卒業特別講義
2) 血糖の調節機構を説明できる。		人体構成学 II 生化学 II				卒業特別講義
<b>【循環・呼吸系の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構を説明できる。		人体構成学 I	病態生理学 I			卒業特別講義
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		人体構成学 II				卒業特別講義
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		人体構成学 I	病態生理学 I			卒業特別講義
<b>【体液の調節機構】</b>						
1) 体液の調節機構を説明できる。		人体構成学 II	病態生理学 I			卒業特別講義
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		人体構成学 II	病態生理学 I			卒業特別講義
<b>【消化・吸収の調節機構】</b>						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		人体構成学 I 人体構成学 II				卒業特別講義
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。		人体構成学 I 人体構成学 II				卒業特別講義
<b>【体温の調節機構】</b>						
1) 体温の調節機構を説明できる。	基礎生物学					卒業特別講義
<b>(4) 小さな生き物たち</b>						
<b>【総論】</b>						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。	基礎生物学		微生物薬品化学			卒業特別講義
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。	基礎生物学		微生物薬品化学			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【細菌】</b>						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。			微生物薬品化学			卒業特別講義
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
5) 腸内細菌の役割について説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。		分子生物学 I	微生物薬品化学	臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【細菌毒素】</b>						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【ウイルス】</b>						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
2) ウイルスの分類法について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【真菌・原虫・その他の微生物】</b>						
1) 主な真菌の性状について説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。			生物薬学実習 II			卒業特別講義
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)			生物薬学実習 II			卒業特別講義
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)			生物薬学実習 II			
<b>【検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			生物薬学実習 II			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)			生物薬学実習 II			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)			生物薬学実習 II			
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。			生物薬学実習 II			卒業特別講義
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)			生物薬学実習 II			
<b>C9 生命をミクロに理解する</b>						
<b>(1) 細胞を構成する分子</b>						
<b>【脂質】</b>						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生化学 I 基礎生物学	生化学 III				卒業特別講義
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生化学 I 基礎生物学	生化学 III				卒業特別講義
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学 III				卒業特別講義
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。		生化学 III				卒業特別講義
<b>【糖質】</b>						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学					卒業特別講義
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学					卒業特別講義
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学					卒業特別講義
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)	生化学 I					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 基礎生物学					卒業特別講義
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生化学Ⅱ	生化学Ⅲ				卒業特別講義
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生物系薬学実習Ⅰ				
<b>【ビタミン】</b>						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ	病態生理学Ⅰ 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	生化学Ⅰ 基礎生物学	生化学Ⅲ	病態生理学Ⅰ 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅱ	病態生理学Ⅰ 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
<b>(2) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。		分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
2) DNAの構造について説明できる。	基礎生物学	分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
3) RNAの構造について説明できる。	基礎生物学	分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
<b>【遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生物学	分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	基礎生物学	分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。		分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
4) 染色体の構造を説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	基礎生物学	分子生物学Ⅰ				卒業特別講義
<b>【転写と翻訳のメカニズム】</b>						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
5) リボソームの構造と機能について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
<b>【遺伝子の複製・変異・修復】</b>						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ	衛生薬学実習			卒業特別講義
3) DNAの修復の過程について説明できる。		分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ				卒業特別講義
<b>【遺伝子多型】</b>						
1) 一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響について概説できる。			分子生物学Ⅲ			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【タンパク質の構造と機能】</b>						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学					卒業特別講義
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学	生物系薬学実習 I				卒業特別講義
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	基礎生物学 生化学 II	分子生物学 II				卒業特別講義
<b>【酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	基礎生物学 生化学 II					卒業特別講義
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	生化学 II					卒業特別講義
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	基礎生物学 生化学 II					卒業特別講義
4) 酵素反応速度論について説明できる。	基礎生物学 生化学 II	生物系薬学実習 I				卒業特別講義
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 II					卒業特別講義
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		生物系薬学実習 I				卒業特別講義
<b>【酵素以外の機能タンパク質】</b>						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。	基礎生物学 生化学 II	生体情報化学				卒業特別講義
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	生化学 II	生体情報化学				卒業特別講義
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	生化学 I 生化学 II 基礎生物学	生化学 III	病態生理学 I			卒業特別講義
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	基礎生物学 生化学 II	生体情報化学				卒業特別講義
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	基礎生物学	生体情報化学				卒業特別講義
<b>【タンパク質の取扱い】</b>						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		生物系薬学実習 I				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系薬学実習 I				卒業特別講義
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	生化学 I	生化学 II				卒業特別講義
<b>(4) 生体エネルギー</b>						
<b>【栄養素の利用】</b>						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学 III	衛生化学 I			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【ATPの産生】</b>						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生化学Ⅱ					卒業特別講義
2) 解糖系について説明できる。	基礎生物学 生化学Ⅱ					卒業特別講義
3) クエン酸回路について説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅲ				卒業特別講義
4) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) について説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅲ				卒業特別講義
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅲ				卒業特別講義
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅲ				卒業特別講義
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	基礎生物学	生化学Ⅲ				卒業特別講義
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。		生体情報化学 生化学Ⅲ				卒業特別講義
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	生化学Ⅱ					卒業特別講義
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	基礎生物学 生化学Ⅱ					卒業特別講義
<b>【飢餓状態と飽食状態】</b>						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	基礎生物学 生化学Ⅱ		病態生理学Ⅰ			卒業特別講義
2) 糖新生について説明できる。	基礎生物学 生化学Ⅱ		病態生理学Ⅰ			卒業特別講義
3) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生化学Ⅲ	病態生理学Ⅰ			卒業特別講義
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学Ⅲ	衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。	生化学Ⅱ	生化学Ⅲ	病態生理学Ⅰ			卒業特別講義
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	生化学Ⅱ	人体構成学Ⅱ 生化学Ⅲ	病態生理学Ⅰ			卒業特別講義
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学Ⅲ	衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生化学Ⅲ	衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
<b>(5) 生理活性分子とシグナル分子</b>						
<b>【ホルモン】</b>						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体構成学Ⅱ				卒業特別講義
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体構成学Ⅱ				卒業特別講義
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		人体構成学Ⅱ				卒業特別講義
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。			病態生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【オータコイドなど】</b>						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ				卒業特別講義
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ				卒業特別講義
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ				卒業特別講義
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅲ				卒業特別講義
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。	生化学Ⅰ					卒業特別講義
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。	生化学Ⅰ	人体構成学Ⅰ				卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【神経伝達物質】</b>						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		生化学Ⅲ				卒業特別講義
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 I		薬理学Ⅳ		卒業特別講義
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
<b>【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】</b>						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
<b>【細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞内情報伝達に関するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生化学 I	分子生物学 I 生体情報化学				卒業特別講義
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	生化学 II	分子生物学 I 生体情報化学				卒業特別講義
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	生化学 II	分子生物学 I 生体情報化学				卒業特別講義
4) 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。		分子生物学 I 生体情報化学 分子生物学 II				卒業特別講義
<b>(6) 遺伝子进行操作する</b>						
<b>【遺伝子操作の基本】</b>						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)			生物系薬学実習 II			
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)			生物系薬学実習 II			
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		分子生物学 II	生物系薬学実習 II			
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)			生物系薬学実習 II			
<b>【遺伝子のクローニング技術】</b>						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		分子生物学 II	生物系薬学実習 II			卒業特別講義
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		分子生物学 II	生物系薬学実習 II			卒業特別講義
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)			生物系薬学実習 II			
<b>【遺伝子機能の解析技術】</b>						
1) 細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		分子生物学 II	分子生物学 III			卒業特別講義
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			分子生物学 III			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C10 生体防御</b>						
(1) 身体をまもる						
<b>【生体防御反応】</b>						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
5) クローン選択説を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
<b>【免疫を担当する組織・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		人体構成学 I 基礎免疫学				卒業特別講義
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
<b>【分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)を概説できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		基礎免疫学				卒業特別講義
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
<b>【免疫系が関係する疾患】</b>						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		臨床免疫学	薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		臨床免疫学	薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。		臨床免疫学		薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。		臨床免疫学		薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【免疫応答のコントロール】</b>						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。		臨床免疫学	薬理学Ⅲ			卒業特別講義
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		臨床免疫学				卒業特別講義
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		臨床免疫学				卒業特別講義
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。		臨床免疫学	薬理学Ⅲ			卒業特別講義
<b>【予防接種】</b>						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。		臨床免疫学	微生物薬品化学			卒業特別講義
2) 主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン)について基本的特徴を説明できる。		臨床免疫学	微生物薬品化学			卒業特別講義
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。		臨床免疫学	微生物薬品化学			卒業特別講義
<b>【免疫反応の利用】</b>						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。		臨床免疫学				卒業特別講義
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		臨床免疫学				卒業特別講義
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)		臨床免疫学 生物系薬学実習Ⅰ				
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)		臨床免疫学 生物系薬学実習Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 感染症にかかると</b>						
<b>【代表的な感染症】</b>						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、Δブルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
8) グラム陰性スピリillum属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。			分子生物学Ⅲ	臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【感染症の予防】</b>						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。				感染症予防学		卒業特別講義
<b>【健康と環境】</b>						
<b>C11 健康</b>						
<b>(1) 栄養と健康</b>						
<b>【栄養素】</b>						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	基礎生物学		衛生薬学実習 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	基礎生物学		衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		生化学Ⅲ	衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【食品の品質と管理】</b>						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			衛生薬学実習 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学実習 衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生薬学実習 衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			衛生薬学実習			卒業特別講義
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)			衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
<b>【食中毒】</b>						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。			衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			衛生化学Ⅱ	臨床微生物学		卒業特別講義
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。			衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生化学Ⅱ			卒業特別講義
<b>(2) 社会・集団と健康</b>						
<b>【保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生			卒業特別講義
2) 人口静態と人口動態について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
<b>【健康と疾病をめぐる日本の現状】</b>						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)			公衆衛生			卒業特別講義
<b>【疫学】</b>						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)			公衆衛生			卒業特別講義
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)			公衆衛生			卒業特別講義
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。			公衆衛生			卒業特別講義
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。			公衆衛生			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 疾病の予防</b>						
<b>【健康とは】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。			公衆衛生			卒業特別講義
<b>【疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
3) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生 分子生物学Ⅲ			卒業特別講義
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)			公衆衛生			
<b>【感染症の現状とその予防】</b>						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。			公衆衛生	感染症予防学		卒業特別講義
<b>【生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。			公衆衛生 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。			公衆衛生 衛生化学Ⅰ			卒業特別講義
<b>【職業病とその予防】</b>						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			公衆衛生			卒業特別講義
<b>G12 環境</b>						
<b>(1) 化学物質の生体への影響</b>						
<b>【化学物質の代謝・代謝的活性化】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝学	医薬品安全性学 環境毒性学		卒業特別講義
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝学	医薬品安全性学 環境毒性学		卒業特別講義
<b>【化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			薬物代謝学 地球環境学	医薬品安全性学 衛生薬学実習 環境毒性学		卒業特別講義
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			地球環境学	衛生薬学実習		卒業特別講義
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			分子生物学Ⅲ	医薬品安全性学 環境毒性学		卒業特別講義
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			分子生物学Ⅲ	医薬品安全性学 環境毒性学		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【化学物質の毒性】</b>						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。				環境毒性学		卒業特別講義
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。				環境毒性学		卒業特別講義
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。				環境衛生学 環境毒性学		卒業特別講義
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。				環境毒性学		卒業特別講義
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)				環境毒性学		卒業特別講義
<b>【化学物質による中毒と処置】</b>						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)				環境毒性学		
<b>【電離放射線の生体への影響】</b>						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。				環境毒性学		卒業特別講義
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。				環境毒性学		卒業特別講義
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。				環境毒性学		卒業特別講義
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。				環境毒性学		卒業特別講義
<b>【非電離放射線の生体への影響】</b>						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。				環境衛生学 環境毒性学		卒業特別講義
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			衛生薬学実習	環境衛生学 環境毒性学		卒業特別講義
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。				環境衛生学 環境毒性学		卒業特別講義
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【地球環境と生態系】</b>						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)			地球環境学			
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			地球環境学 衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
<b>【水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
2) 水の浄化法について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【大気環境】</b>						
1) 空気の成分を説明できる。			地球環境学	環境衛生学		卒業特別講義
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			地球環境学 衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				環境衛生学		卒業特別講義
<b>【室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			地球環境学 衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
4) シックハウス症候群について概説できる。				環境衛生学		卒業特別講義
<b>【廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。				環境衛生学		卒業特別講義
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			衛生薬学実習	環境衛生学		卒業特別講義
4) マニフェスト制度について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
5) PRTR法について概説できる。				環境衛生学		卒業特別講義
<b>【環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
2) 環境基本法の理念を説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。				環境衛生学		卒業特別講義
<b>[薬と疾病]</b>						
<b>G13 薬の効くプロセス</b>						
<b>【薬の作用】</b>						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医療薬学実習 I		卒業特別講義
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医療薬学実習 I		卒業特別講義
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	薬学への招待	薬理学 I	薬理学 III	医療薬学実習 I		卒業特別講義
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医療薬学実習 I		卒業特別講義
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医療薬学実習 I		卒業特別講義
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学 I		薬物治療学 II 新薬開発論		卒業特別講義
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
<b>【薬の運命】</b>						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学 I	薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医薬品安全性学 医療薬学		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【薬の副作用】</b>						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医薬品安全性学 新薬開発論 処方解析学 I		卒業特別講義
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学 I	薬理学 III	医薬品安全性学 新薬開発論 処方解析学 I		卒業特別講義
<b>【動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)				医療系薬学実習 I 医療系薬学実習 I		卒業特別講義
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				医療系薬学実習 I 医療系薬学実習 I		卒業特別講義
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)				医療系薬学実習 I		卒業特別講義
<b>(2) 薬の効き方 I</b>						
<b>【中枢神経系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
4) 代表的な中枢神経疾患 (てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
5) 代表的な精神疾患 (統合失調症、うつ病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理学 II	処方解析学 I		卒業特別講義
<b>【自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				卒業特別講義
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I	薬理学 II			卒業特別講義
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTIには馴染まない				医療系薬学実習 I		
<b>【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II			卒業特別講義
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 II			卒業特別講義
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)				医療系薬学実習 I		
<b>【循環器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 III		卒業特別講義
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 III		卒業特別講義
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 III		卒業特別講義
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 III		卒業特別講義
<b>【呼吸器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 II		卒業特別講義
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 II		卒業特別講義
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III	薬物治療学 II		卒業特別講義
<b>【化学構造】</b>						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学 I	薬理学 II 薬理学 III	薬物治療学 III		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 薬の効き方Ⅱ</b>						
<b>【ホルモンと薬】</b>						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。				薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【消化器系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅲ		卒業特別講義
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅲ		卒業特別講義
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				薬理学Ⅲ		卒業特別講義
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅲ		卒業特別講義
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅲ		卒業特別講義
<b>【腎に作用する薬】</b>						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅱ			卒業特別講義
<b>【血液・造血管系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【代謝系に作用する薬】</b>						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅱ	専門薬剤師概論Ⅱ 薬理学Ⅳ	卒業特別講義
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅱ	薬理学Ⅳ	卒業特別講義
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【炎症・アレルギーと薬】</b>						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。		臨床免疫学	薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【化学構造】</b>						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅲ 薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬理学 I	生物薬剤学			卒業特別講義
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
4) 能動輸送の特徴を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
【分布】						
到達目標:						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。			生物薬剤学 薬物代謝学			卒業特別講義
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。			生物薬剤学 薬物代謝学			卒業特別講義
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。			生物薬剤学			卒業特別講義
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)				医療系薬学実習 II		
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学			卒業特別講義
8) 初回通過効果について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学		卒業特別講義
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【排泄】</b>						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学 医薬品安全性学 医療系薬学実習Ⅰ		卒業特別講義
2) 腎クリアランスについて説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学 医薬品安全性学		卒業特別講義
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学 医薬品安全性学 医療系薬学実習Ⅰ		卒業特別講義
4) 胆汁中排泄について説明できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学		卒業特別講義
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。			薬物代謝学 生物薬剤学	医療薬学 医薬品安全性学		卒業特別講義
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			生物薬剤学	医療薬学		卒業特別講義
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。			生物薬剤学	医療薬学 医薬品安全性学		卒業特別講義
<b>【相互作用】</b>						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物代謝学	医療薬学 医薬品安全性学		卒業特別講義
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬理学Ⅰ	薬物代謝学	医療薬学 医薬品安全性学		卒業特別講義
<b>(5) 薬物動態の解析</b>						
<b>【薬動学】</b>						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学	実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		卒業特別講義
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学			卒業特別講義
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。			薬物動態学			卒業特別講義
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学	実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		卒業特別講義
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学	実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		卒業特別講義
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬物代謝学 薬物動態学	実務実習事前学習 医薬品安全性学 医療系薬学実習Ⅱ		
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学	実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学	実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】</b>						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				実務実習事前学習		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				実務実習事前学習		卒業特別講義
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				実務実習事前学習 医療系薬学実習Ⅱ		
<b>G14 薬物治療</b>						
<b>(1) 体の変化を知る</b>						
<b>【症候】</b>						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	医療薬学		卒業特別講義
<b>【症候と臨床検査値】</b>						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			卒業特別講義
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ		薬剤管理指導概論	卒業特別講義
<b>(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)</b>						
<b>【薬物治療の位置づけ】</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)			薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【心臓・血管系の疾患】</b>						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
<b>【血液・造血系の疾患】</b>						
1) 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
<b>【消化器系疾患】</b>						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅲ		卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)</b>						
<b>【腎臓・尿路の疾患】</b>						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		卒業特別講義
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 医薬品情報学	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		卒業特別講義
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		卒業特別講義
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【生殖器疾患】</b>						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ		卒業特別講義
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【呼吸器・胸部の疾患】</b>						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌			病態生理学Ⅱ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【内分泌系疾患】</b>						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【代謝性疾患】</b>						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ 薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【神経・筋の疾患】</b>						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆			病態生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	処方解析学Ⅰ		卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)</b>						
<b>【精神疾患】</b>						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。			病態生理学 I 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 I 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 I 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症			病態生理学 I 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
<b>【耳鼻咽喉の疾患】</b>						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
<b>【皮膚疾患】</b>						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
<b>【眼疾患】</b>						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症			病態生理学 II 薬物治療学 I	処方解析学 I		卒業特別講義
<b>【骨・関節の疾患】</b>						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生理学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生理学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析学 II 薬物治療学 II		卒業特別講義
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症			病態生理学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
<b>【アレルギー・免疫疾患】</b>						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。		臨床免疫学		処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		臨床免疫学	病態生理学 I	処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
3) 自己免疫疾患 (全身性エリテマトーデスなど) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		臨床免疫学		処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		臨床免疫学		処方解析学 I 薬物治療学 II		卒業特別講義
<b>【移植医療】</b>						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析学 I		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【緩和ケアと長期療養】</b>						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				処方解析学Ⅱ		卒業特別講義
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。			薬局管理学	薬物治療学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療学Ⅱ		
<b>(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う</b>						
<b>【感染症】</b>						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。				臨床微生物学		卒業特別講義
<b>【抗菌薬】</b>						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ 感染症予防学		卒業特別講義
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ 感染症予防学		卒業特別講義
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ 感染症予防学		卒業特別講義
<b>【抗原虫・寄生虫薬】</b>						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【抗真菌薬】</b>						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【抗ウイルス薬】</b>						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【抗菌薬の耐性と副作用】</b>						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			微生物薬品化学	処方解析学Ⅰ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【悪性腫瘍の病態と治療】</b>						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ		卒業特別講義
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。			病態生理学Ⅰ	処方解析学Ⅱ		卒業特別講義
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				処方解析学Ⅱ		卒業特別講義
<b>【抗悪性腫瘍薬】</b>						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。		臨床免疫学		処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。		臨床免疫学		処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。		臨床免疫学		処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
<b>【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】</b>						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。				処方解析学Ⅱ 薬理学Ⅳ		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C15 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>(1) 医薬品情報</b>						
<b>【情報】</b>						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
<b>【情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			医薬品情報学			
<b>【収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報学		薬剤管理指導概論	
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報学		薬剤管理指導概論	卒業特別講義
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			医薬品情報学		薬剤管理指導概論	
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			医薬品情報学		薬剤管理指導概論	卒業特別講義
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学		薬剤管理指導概論	卒業特別講義
<b>【データベース】</b>						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）			医薬品情報学			卒業特別講義
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）			医薬品情報学			
<b>【EBM (Evidence-Based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) EBM実践のプロセスを概説できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）			医薬品情報学			卒業特別講義
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
<b>【総合演習】</b>						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上的の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			医薬品情報学			卒業特別講義
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			調剤学 医薬品情報学			卒業特別講義
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			調剤学 医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	卒業特別講義
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)			医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)			医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。 (知識・技能)			医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	卒業特別講義
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)			調剤学 医薬品情報学	実務実習事前学習 応用薬学総合演習	薬剤管理指導概論	
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)			医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	卒業特別講義
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)			医薬品情報学	実務実習事前学習	薬剤管理指導概論	卒業特別講義
<b>(3) テーラーメイド薬物治療を目指して</b>						
<b>【遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
<b>【年齢的要因】</b>						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学 医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学 医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学 医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
<b>【生理的要因】</b>						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品情報学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品情報学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
<b>【合併症】</b>						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医薬品情報学 薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物代謝学	医薬品安全性学 新薬開発論 実務実習事前学習		卒業特別講義



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【投与計画】</b>						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与设计ができる。(知識・技能)			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
2) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬物動態学	実務実習事前学習		卒業特別講義
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与设计ができる。(知識・技能)			医薬品情報学			卒業特別講義
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。			薬物動態学			卒業特別講義
<b>[医薬品をつくる]</b>						
<b>C16 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤材料の性質</b>						
<b>【物質の溶解】</b>						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
<b>【分散系】</b>						
1) 界面の性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
<b>【製剤材料の物性】</b>						
1) 流動と変形(レオロジー)の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
4) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			物理薬剤学			卒業特別講義
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)			製剤学 物理薬剤学			卒業特別講義
<b>(2) 剤形をつくる</b>						
<b>【代表的な製剤】</b>						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。				製剤学		卒業特別講義
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
<b>【製剤化】</b>						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)				製剤学		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学		卒業特別講義
<b>【製剤試験法】</b>						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			日本薬局方概論			卒業特別講義
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			日本薬局方概論	医療系薬学実習Ⅱ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)</b>						
<b>【DDSの必要性】</b>						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				製剤機能論		卒業特別講義
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>【放出制御型製剤】</b>						
1) 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。				製剤機能論		卒業特別講義
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる				製剤機能論		卒業特別講義
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>【ターゲティング】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
2) 代表的なドラッグキャリアを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>【プロドラッグ】</b>						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>【その他のDDS】</b>						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>G17 医薬品の開発と生産</b>						
<b>(1) 医薬品開発と生産のながれ</b>						
<b>【医薬品開発のコンセプト】</b>						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				新薬開発論		卒業特別講義
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				新薬開発論		卒業特別講義
<b>【医薬品市場と開発すべき医薬品】</b>						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。				新薬開発論		卒業特別講義
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。				新薬開発論	薬剤経済学	卒業特別講義
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
<b>【非臨床試験】</b>						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
<b>【医薬品の承認】</b>						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
<b>【医薬品の製造と品質管理】</b>						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				新薬開発論		卒業特別講義
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				新薬開発論		卒業特別講義
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				新薬開発論		卒業特別講義
<b>【規範】</b>						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
<b>【特許】</b>						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【薬害】</b>						
1) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品情報学	新薬開発論		卒業特別講義
<b>(2) リード化合物の創製と最適化</b>						
<b>【医薬品創製の歴史】</b>						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				新薬開発論		卒業特別講義
<b>【標的生体分子との相互作用】</b>						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。		薬理学 I		新薬開発論	医療薬品開発	卒業特別講義
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				新薬開発論		卒業特別講義
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I	薬理学 III			卒業特別講義
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I	薬理学 III			卒業特別講義
<b>【スクリーニング】</b>						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				新薬開発論		卒業特別講義
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				新薬開発論		卒業特別講義
<b>【リード化合物の最適化】</b>						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。		薬理学 I	医薬品化学	新薬開発論		卒業特別講義
2) 生物学的等価性(バイオアイソスター)の意義について概説できる。				新薬開発論		卒業特別講義
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				製剤機能論		卒業特別講義
<b>(3) バイオ医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
<b>【遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			分子生物学 III			卒業特別講義
<b>【細胞を利用した治療】</b>						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		分子生物学 II	分子生物学 III			卒業特別講義
<b>【ゲノム情報の創薬への利用】</b>						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。		分子生物学 II	分子生物学 III			卒業特別講義
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。		分子生物学 II			医療化学	卒業特別講義
3) 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサザンプロット法など)について概説できる。		分子生物学 II				卒業特別講義
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
<b>【疾患関連遺伝子】</b>						
1) 代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子について説明できる。			分子生物学 III			卒業特別講義
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。		分子生物学 II			医療化学	卒業特別講義
<b>(4) 治験</b>						
<b>【治験の意義と業務】</b>						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。	医療倫理学		薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
3) 治験(第 I、II、および III 相)の内容を説明できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。			薬局管理学	新薬開発論		卒業特別講義
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)	医療倫理学		薬局管理学	新薬開発論		
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【治験における薬剤師の役割】</b>						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	卒業特別講義
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)			薬局管理学	新薬開発論	医薬品等評価学	
<b>(5) バイオスタティクス</b>						
<b>【生物統計の基礎】</b>						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。			医療統計学			卒業特別講義
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。			医療統計学			卒業特別講義
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)			医療統計学			卒業特別講義
4) $\chi^2$ 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)			医療統計学			卒業特別講義
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)			医療統計学			卒業特別講義
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。			医療統計学			卒業特別講義
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
<b>【臨床への応用】</b>						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			医薬品情報学			卒業特別講義
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。			医薬品情報学			卒業特別講義
<b>C18 薬学と社会</b>						
<b>(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度</b>						
<b>【医療の担い手としての使命】</b>						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)			薬局管理学	薬事関係法規 応用薬学総合演習		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)			薬局管理学・調剤学	応用薬学総合演習 新薬開発論		
<b>【法律と制度】</b>						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。				薬事関係法規 新薬開発論		卒業特別講義
7) 製造物責任法を概説できる。			医薬品情報学	薬事関係法規 新薬開発論		卒業特別講義
<b>【管理薬】</b>						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
<b>【放射性医薬品】</b>						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			薬局管理学			卒業特別講義
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			薬局管理学			卒業特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(2) 社会保障制度と薬剤経済</b>						
<b>【社会保障制度】</b>						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
<b>【医療保険】</b>						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
2) 医療保険のしくみを説明できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
3) 医療保険の種類を列挙できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
<b>【薬剤経済】</b>						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。			医薬品情報学	薬事関係法規		卒業特別講義
4) 医療費の内訳を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				新薬開発論	薬剤経済学	卒業特別講義
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)				新薬開発論	薬剤経済学	卒業特別講義
<b>(3) コミュニティファーマシー</b>						
<b>【地域薬局の役割】</b>						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
<b>【医薬分業】</b>						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。				新薬開発論 実務実習事前学習 応用薬学総合演習		卒業特別講義
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				新薬開発論 実務実習事前学習 応用薬学総合演習		卒業特別講義
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。				新薬開発論 実務実習事前学習 応用薬学総合演習		卒業特別講義
<b>【薬局の業務運営】</b>						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。				薬事関係法規		卒業特別講義
<b>【OTC薬・セルフメディケーション】</b>						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				新薬開発論 実務実習事前学習		
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				新薬開発論 実務実習事前学習 医療薬学		卒業特別講義
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。				新薬開発論 実務実習事前学習 処方解析学 I 医療薬学		卒業特別講義

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>D 実務実習教育</b>			
<b>(I) 実務実習事前学習</b>			
<b>(1) 事前学習を始めるにあたって</b>			
<b>《薬剤師業務に注目する》</b>			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		応用薬学総合演習	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		応用薬学総合演習	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		応用薬学総合演習	
<b>《チーム医療に注目する》</b>			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		応用薬学総合演習	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		応用薬学総合演習	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		応用薬学総合演習	
<b>《医薬分業に注目する》</b>			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		応用薬学総合演習	
<b>(2) 処方せんと調剤</b>			
<b>《処方せんの基礎》</b>			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		応用薬学総合演習	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		応用薬学総合演習	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		応用薬学総合演習	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		応用薬学総合演習	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		応用薬学総合演習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		応用薬学総合演習	
<b>《医薬品の用法・用量》</b>			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		応用薬学総合演習	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		応用薬学総合演習	
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		応用薬学総合演習	
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		応用薬学総合演習	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		応用薬学総合演習	

<b>《服薬指導の基礎》</b>			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		応用薬学総合演習
<b>《調剤室業務入門》</b>			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前学習
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前学習
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前学習
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習事前学習
17.	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		応用薬学総合演習
<b>(3) 疑義照会</b>			
<b>《疑義照会の意義と根拠》</b>			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		応用薬学総合演習
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		実務実習事前学習
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		実務実習事前学習
<b>《疑義照会入門》</b>			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		応用薬学総合演習
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		応用薬学総合演習
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		応用薬学総合演習
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		応用薬学総合演習
9.	疑義照会の流れを説明できる。		応用薬学総合演習
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		実務実習事前学習
<b>(4) 医薬品の管理と供給</b>			
<b>《医薬品の安定性に注目する》</b>			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		応用薬学総合演習
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		応用薬学総合演習
<b>《特別な配慮を要する医薬品》</b>			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		応用薬学総合演習
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		応用薬学総合演習
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		応用薬学総合演習
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		応用薬学総合演習
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		応用薬学総合演習
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		応用薬学総合演習
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		応用薬学総合演習
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		応用薬学総合演習
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		応用薬学総合演習

<b>《製剤化の基礎》</b>			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前学習
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前学習
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		実務実習事前学習
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		実務実習事前学習
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		実務実習事前学習
<b>《注射剤と輸液》</b>			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前学習
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		実務実習事前学習
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		実務実習事前学習
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		実務実習事前学習
<b>《消毒薬》</b>			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実務実習事前学習
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		実務実習事前学習
<b>(5) リスクマネジメント</b>			
<b>《安全管理に注目する》</b>			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		応用薬学総合演習
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		応用薬学総合演習
<b>《副作用に注目する》</b>			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		応用薬学総合演習
<b>《リスクマネジメント入門》</b>			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		応用薬学総合演習
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		応用薬学総合演習
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		応用薬学総合演習
<b>(6) 服薬指導と患者情報</b>			
<b>《服薬指導に必要な技能と態度》</b>			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		応用薬学総合演習
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		応用薬学総合演習
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		応用薬学総合演習
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		実務実習事前学習
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		実務実習事前学習
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		実務実習事前学習
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		応用薬学総合演習



<b>《患者情報の重要性に注目する》</b>			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		応用薬学総合演習
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		応用薬学総合演習
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		応用薬学総合演習
<b>《服薬指導入門》</b>			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前学習
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		実務実習事前学習
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		実務実習事前学習
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		実務実習事前学習
<b>（7）事前学習のまとめ</b>			
			実務実習事前学習

(基礎資料4) カリキュラムマップ

科目名	年次	ヒューマンズ ムについて学 ぶ	イント ロダク ション	物理系を 学ぶ	化学系を 学ぶ	生物系を 学ぶ	健康と 環境	薬と疾 病	医薬品 をつくる	薬学と社 会	実務実 習教育- 病院・薬 局薬剤 師	卒業実 習教育- 問題解 決能力 の醸成	薬学準 備教育	薬学アド バンスト 教育
文章表現	全												○	
口頭表現	全												○	
こころの健康科学	全												○	
現代人とこころの障害	全												○	
漢詩文の表現と心	全												○	
漢詩文の表現と思想	全												○	
日本文化論1	全												○	
日本文化論2	全												○	
日本人の思想	全												○	
ヨーロッパ人の思想	全												○	
アジア人の思想	全												○	
日本美術史	全												○	
西洋美術史	全												○	
東洋美術史	全												○	
死生観の歴史	全												○	
現代の哲学と思想	全												○	
人類学の世界と歴史	全												○	
アジアの民族誌	全												○	
地理学の世界と歴史	全												○	
心理学1	全												○	
心理学2	全												○	
倫理と価値観の諸相	全												○	
現代人の倫理と価値観	全												○	
女性の生活と歴史	全												○	
現代の女性環境	全												○	
人権の現代的課題	全												○	
法学	全												○	
日本国憲法	全												○	
社会学の世界と歴史	全												○	
社会学概論	全												○	
基礎経済学	全												○	
経済学概論	全												○	
基礎経営論	全												○	
基礎マーケティング論	全												○	
現代都市の魅力診断	全												○	
自然地理学	全												○	
健康と食品	全												○	
健康と栄養	全												○	
化学の世界と歴史	全												○	
化学と環境問題	全												○	
生命機能のシステム	全												○	
生命と自然環境	全												○	
人体の構造と機能	全												○	
生命機能のプログラム	全												○	
生命と生活の化学	全												○	
病気と環境	全												○	
いきものと物質	全												○	
くすりと社会	全												○	
情報処理演習	全												○	
基礎数学	全												○	
基礎物理学	全			○									○	
基礎生物学	全					○							○	
基礎化学	全				○								○	
基礎科学実習	全			○	○	○							○	
スポーツと健康	全												○	
スポーツと社会	全												○	
スポーツ1	全												○	
スポーツ2	全												○	
スポーツ3	全												○	
スポーツ4	全												○	
日本事情1	全												○	
日本事情2	全												○	
日本事情3	全												○	
日本事情4	全												○	
Oral Communication I	全												○	
Oral Communication II	全												○	
English Composition I	全												○	
English Composition II	全												○	
English Reading I	全												○	
English Reading II	全												○	
フランス語文法入門 1	全												○	
フランス語文法入門 2	全												○	
フランス語講読入門 1	全												○	
フランス語講読入門 2	全												○	
ドイツ語文法入門 1	全												○	
ドイツ語文法入門 2	全												○	
ドイツ語講読入門 1	全												○	

科目名	年次	ヒューマンズについて学ぶ	イントロダクション	物理系薬学を学ぶ	化学系薬学を学ぶ	生物系薬学を学ぶ	健康と環境	薬と疾病	医薬品をつくる	薬学と社会	実務実習教育-病院・薬局薬剤師	卒業実習教育-問題解決能力の醸成	薬学準備教育	薬学アドバンス教育
ドイツ語講読入門 2	全												○	
中国語文法入門 1	全												○	
中国語文法入門 2	全												○	
中国語講読入門 1	全												○	
中国語講読入門 2	全												○	
ハンゲル文法入門 1	全												○	
ハンゲル文法入門 2	全												○	
ハンゲル講読入門 1	全												○	
ハンゲル講読入門 2	全												○	
日本語 1	全												○	
日本語 2	全												○	
日本語 3	全												○	
日本語 4	全												○	
薬学への招待	1	○	○							○		○	○	
医療倫理学	1	○												
看護学概論	4	○												
基礎薬学英语	2												○	○
医療薬学英语	3												○	○
教養対話演習	1	○										○	○	
薬学対話演習	3	○								○	○	○	○	
基礎薬学総合演習	3			○	○	○								
応用薬学総合演習	4									○	○			
分子の構造と化学結合	1			○										
溶液の性質と化学反応速度論	2			○										
熱力学と物理平衡	2			○										
化学平衡	1			○										
化学物質の検出と定量	1			○										
分析技術の臨床応用	2			○										
物理系薬学演習	2			○								○		
医療現場における最先端分析技術	5			○										○
物理系薬学実習 (分析・物理化学実習)	2			○										
薬化学	1			○	○									
有機構造解析学	2			○	○									
有機薬化学 I (基礎有機化学)	2				○									
有機薬化学 II (反応有機化学)	2				○									
有機薬化学 III (応用有機化学)	3				○									
医薬品化学	3				○									
天然物化学	1				○									
薬用植物学	2				○									
生薬学 I (生薬成分化学)	2				○									
生薬学 II (応用生薬学)	3				○									
創薬化学	5				○									○
化学系薬学実習 (有機化学・生薬学実習)	2				○							○		
生化学 I (細胞の生化学)	1				○	○								
生化学 II (構造と触媒作用)	2				○	○								
生化学 III (生体エネルギーと代謝)	2					○								
生体情報化学	2					○								
基礎免疫学	2					○								
臨床免疫学	2					○								
細胞生物学	5					○								○
生物系薬学実習 I (生化学・免疫学実習 RI 実習を含む)	2					○						○		
微生物薬品化学	3					○		○						
臨床微生物学	4					○		○						
感染症予防学	4					○	○	○						
放射薬品化学	3			○			○							
遺伝子工学	3					○								○
分子生物学 I (分子生物学の基礎)	2					○								
分子生物学 II (分子生物学の応用)	2					○			○					
分子生物学 III (バイオ医薬品)	3					○			○					
ゲノム機能学	5					○			○					○
医療化学	5					○			○					○
生物系薬学実習 II (遺伝子・微生物学実習)	3					○						○		
衛生化学 I (栄養化学)	3						○							
衛生化学 II (食品衛生学)	3						○							
公衆衛生学	3						○							
健康化学	3						○							
環境毒性学	4						○							
環境衛生学	4						○							
地球環境学	3						○							
臨床栄養学	5						○							○
未病薬学	5						○							○
環境遺伝学	5						○							○
衛生薬学実習	3						○							
薬理学 I (分子薬理学)	2							○						
薬理学 II (細胞薬理学)	3							○						
薬理学 III (薬効解析学)	3							○						
薬理学 IV (応用薬理学)	4							○						
薬物治療学 I (概論および疾患別各論)	3							○						
薬物治療学 II (疾患別各論 II)	4							○						
薬物治療学 III (疾患別各論 III)	4							○						
人体構成学 I (解剖生理)	2					○								

科目名	年次	ヒューマニズムについて学ぶ	イントロダクション	物理系薬学を学ぶ	化学系薬学を学ぶ	生物系薬学を学ぶ	健康と環境	薬と疾病	医薬品をつくる	薬学と社会	実務実習教育-病院・薬局薬剤師	卒業実習教育-問題解決能力の醸成	薬学準備教育	薬学アドバンス教育
人体構成学Ⅱ（生理機能の連携）	2					○								
病態生理学Ⅰ（症候論）	3							○						
病態生理学Ⅱ（疾患論）	3							○						
免疫薬理学	5							○						○
精神神経科学	5							○						○
症例検討／CPC	5							○						○
医療系薬学実習Ⅰ（薬理・病態生理系実習）	4							○						
物理薬剤学	3								○					
生物薬剤学	3								○					
薬物動態学	3								○					
製剤学	4								○					
製剤機能論	4								○					
日本薬局方概論	3		○						○					
薬物代謝学	3								○					
医薬品安全性学	4							○	○					
薬事関係法規	4									○				
新薬開発論	4								○	○				○
薬剤経済学	5									○				○
臨床動態学	5								○					○
化粧品科学	5								○					○
医療系薬学実習Ⅱ（薬剤学実習）	4								○					
医療統計学	3								○	○				○
医薬品情報学	3							○	○	○	○			
薬局管理学	3									○	○			
調剤学	3								○		○			
医療薬学	4								○	○	○			
薬剤師職能論	4	○								○	○			
処方解析学Ⅰ	4							○			○			
処方解析学Ⅱ	4							○			○			
病態と薬物治療	5							○			○			○
チーム医療	5	○									○			○
専門薬剤師概論Ⅰ	5										○			○
専門薬剤師概論Ⅱ	5										○			○
薬剤管理指導概論	5										○			○
医薬品等評価学	5								○					○
漢方薬学	5				○			○						○
薬学海外研修	5											○		○
実務実習事前学習	4	○		○	○	○	○	○		○	○			
病院・薬局実務実習	5										○			
卒業特別講義	6											○		
卒業論文実習	5.6											○		

卒業論文実習

卒業特別講義

5-6

病院・薬局実務実習

アドバンスト科目

分子生物学系 感染症予防学	衛生薬学 環境衛生学	医療系薬学1 薬物治療学Ⅲ	医療系薬学2 新薬開発論 製剤機能論	臨床系薬学 処方解析学Ⅱ 薬剤師職能論	4 実務実習事前学習
臨床微生物学	環境毒理学	医療薬学実習Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅳ	医療薬学実習Ⅱ 薬事関係法規 医薬品安全性学	処方解析学Ⅰ 医療薬学	薬学対話演習Ⅱ 看護学概論
生物系薬学実習Ⅱ	健康化学 衛生化学Ⅱ 衛生薬学実習	薬物治療学Ⅰ 薬理学Ⅲ 病態生理学Ⅱ	薬物代謝学 生物薬剤学 薬物動態学	調剤学 医薬品情報学	薬学対話演習Ⅰ
微生物薬品化学	地球環境学	薬理学Ⅱ 病態生理学Ⅰ	物理薬剤学 日本薬局方概論	薬局管理学 医療統計学	医療薬学英语
分子生物学Ⅲ 遺伝子工学	公衆衛生学 衛生化学Ⅰ	薬理学Ⅰ 人体構成学Ⅱ			基礎薬学英语
分子生物学Ⅱ	基礎科学実習	人体構成学Ⅰ			教養対話演習Ⅱ
生化学系 生体情報化学 臨床免疫学 生化学Ⅲ 生物系薬学実習Ⅰ					教養対話演習Ⅰ 医療倫理学
生化学Ⅱ 基礎免疫学					1
生化学Ⅰ					
化学系薬学 医薬品化学	天然物化学 薬化学				
生薬学Ⅰ 薬用植物学 有機薬化学Ⅱ	有機薬化学Ⅰ 有機構造解析学				
生薬学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ	物理系薬学実習 化学物質の検出と定量 溶液の性質と化学反応速度論				
物理系薬学 分析技術の臨床応用 熱力学と物理平衡	化学平衡 分子の構造と化学結合				
基礎数学 基礎物理学 基礎化学 基礎生物学					情報処理演習
					薬学への招待

総合教養教育科目 外国語教育科目

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
English Reading I f	1				
English Reading I g	1				
English Reading I h	1				
English Reading II f	1				
English Reading II g	1				
English Reading II h	1				
Oral Communication I f	1				
Oral Communication I g	1				
Oral Communication I h	1				
Oral Communication II f	1				
Oral Communication II g	1				
Oral Communication II h	1				
EnglishComposition I f	1				
EnglishComposition I g	1				
EnglishComposition I h	1				
EnglishComposition II f	1				
EnglishComposition II g	1				
EnglishComposition II h	1				
ドイツ語文法入門1	1				
ドイツ語文法入門2	1				
フランス語文法入門1 c	1				
中国語文法入門1 c	1				
中国語講読入門2 c	1				
ハンデル文法入門1 c	1				
ハンデル講読入門2 c	1				
基礎薬学英語	2				
医療薬学英語 a	3				
医療薬学英語 b	3				
医療薬学英語 c	3				

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

	読み
	書き
	聞く
	話す

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成24年4月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	1日			S101講義、S102講義、S107講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月	2日			S103演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月	3日			S104講義、S105講義、S106演習、S304演習			
	火							
	水							
	木							
	金							

平成24年5月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	4日			S201講義、S202講義、S203講義、 S204講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	5日			S205講義、S206講義、S207講義、 S208講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月	6日			S211演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月	7日			S301講義、S303講義、S305講義			
	火							
	水							
	木							
	金							



平成24年6月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	8日			S305講義、S306講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	9日			S304演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月	10日			S503講義、S504講義、S505講義・演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月	11日			S502講義、S506演習			
	火							
	水							
	木							
	金							

平成24年7月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月	12日			S501講義、S507演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	13日			S209講義、S601講義、S602講義、 S604講義、S605講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月	14日			S401講義、S402講義、S403講義、 S404講義、S405講義、S406演習、 S407講義			
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月	15日			S210演習			
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月	15日			S210演習			
	火							
	水							
	木							
	金							

平成24年9月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金	16日				S210演習・実習	S210演習・実習	S210演習・実習

平成24年10月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月	17日				S202演習、S203演習、S210実習、S305演習、S306実習	S202演習、S203演習、S210実習、S305演習、S306実習	S202演習、S203演習、S210実習、S305演習、S306実習
	火	18日		化学系薬学 講義		S408講義、S409講義、S410実習	S410実習	S410実習、S414演習
	水	19日			物理系薬学 講義			
	木	20日				S302実習、S412実習	S302実習、S412実習	S302実習、S412実習
	金	21日				S601講義	S601講義	S601講義
第2週	月	祝日						
	火	22日		物理系薬学 講義		S205講義、S206演習、S210実習	S205講義、S210実習、S506演習	S210実習、S506演習
	水	23日			物理系薬学 講義			
	木	24日				S205講義、S206演習、S210実習	S205講義、S210実習、S506演習	S210実習、S506演習
	金	25日				S411実習、S413実習	S411実習、S413実習	S411実習、S413実習
第3週	月	26日				S205演習、S206演習、S210演習、S304演習、S306演習、S411演習、S413演習	S205演習、S206演習、S210演習、S304演習、S306演習、S411演習、S413演習	S205演習、S206演習、S210演習、S304演習、S306演習、S411演習、S413演習
	火	27日		化学系薬学 講義		S210実習	S210実習	S210実習
	水	28日			化学系薬学 講義			
	木	29日				S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習	S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習	S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習
	金	学祭						
第4週	月	30日				S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習
	火	31日		化学系薬学 講義		S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習
	水	32日			生物系薬学 講義			
	木	33日				S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習	S411実習、S412実習、S413実習
	金	34日				S210演習、S411演習、S412演習、S413演習	S210演習、S411演習、S412演習、S413演習	S210演習、S411演習、S412演習、S413演習
第5週	月	35日				S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S505演習、S506演習	S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S505演習、S506演習	S205演習、S206演習、S207演習、S208演習、S505演習、S506演習
	火	36日		生物系薬学 講義		S206演習、S604演習	S206演習、S604演習	S206演習、S604演習
	水							
	木							
	金							

平成24年11月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木	入試						
	金	入試						
第2週	月	37日				S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習	S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習	S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習
	火	38日		生物系薬学 講義		S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習	S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習	S202演習、S203演習、S204演習、S206演習、S207演習、S208演習、S210実習、S506演習
	水	39日			生物系薬学 講義			
	木	40日				S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習
	金	41日					S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習
第3週	月	42日				S601講義	S601講義	S601講義
	火	43日		薬と疾病 講義		S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習
	水	44日			薬と疾病 講義			
	木	45日				S206演習、S606演習	S206演習、S606演習	S206演習、S606演習
	金	46日				S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習	S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習	S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習
第4週	月	47日				S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習	S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習	S602講義、S603演習、S604演習、S605演習、S606演習
	火	48日				S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習
	水	49日			薬と疾病 講義			
	木	50日				S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習	S209講義、S601講義、S602講義、S603演習、S604講義、S605演習、S606演習
	金	祝日						
第5週	月	51日				S210実習	S210実習	S210実習
	火	52日		薬と疾病 講義		S411実習	S411実習	S411実習
	水	53日			薬と疾病 講義			
	木	54日				S210実習	S210実習	S210実習
	金	55日				S210実習	S210実習	S210実習

平成24年12月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	56日				S210演習、S411演習、S606演習	S210演習、S411演習、S606演習	S210演習、S411演習、S606演習
	火	57日		薬と疾病 講義		S210実習、S701実習	S210実習、S701実習	S210実習、S701実習
	水	58日			薬と疾病 講義			
	木	59日				S411実習、S701実習	S411実習、S701実習	S411実習、S701実習
	金	60日				S411実習、S701実習	S411実習、S701実習	S411実習、S701実習
第3週	月	61日				S411実習、S701実習	S411実習、S701実習	S411実習、S701実習
	火	62日				S411実習、S701実習	S411実習、S701実習	S411実習、S701実習
	水							
	木	63日				S411実習、S701実習	S411実習、S701実習	S411実習、S701実習
	金	OSCE準備						
第4週	月							
	火	64日		健康と環境 講義				
	水	65日			健康と環境 講義			
	木	66日				S411演習、S701演習		
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							

平成25年1月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火	67日		健康と環境 講義				
	水	68日			ヒューマニズム 講義			
	木							
	金							
第3週	月							
	火	69日		薬学と社会 講義				
	水	70日			薬と疾病 講義			
	木							
	金							
第4週	月							
	火	71日		薬学と社会 講義				
	水	72日			薬と疾病 講義			
	木							
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
  - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
  - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況

	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(20年度実施)	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	
薬学	薬	一般入試	受験者数	77	160	160	182	248	322	83.08%
			合格者数	69	141	142	151	177	177	
			入学者数(A)	23	34	34	38	51	47	
			募集定員数(B)	60	60	56	53	53	55	
			A/B*100(%)	38.3%	56.7%	60.7%	71.7%	96.2%	85.5%	
	学	大学入試センター入試	受験者数	59	66	51	62	88	147	
			合格者数	48	45	41	53	50	65	
			入学者数(A)	7	12	5	7	11	20	
			募集定員数(B)	15	15	9	12	12	12	
			A/B*100(%)	46.7%	80.0%	55.6%	58.3%	91.7%	166.7%	
	科	自己推薦	受験者数	8	15	11	12	10	12	
			合格者数	8	13	11	10	6	6	
			入学者数(A)	8	13	11	10	6	6	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	8	
			A/B*100(%)	80.0%	130.0%	110.0%	100.0%	60.0%	75.0%	
		推薦入試	受験者数	54	63	67	71	104	115	
			合格者数	51	56	61	66	85	86	
			入学者数(A)	35	37	50	50	67	66	
			募集定員数(B)	65	65	45	45	45	45	
			A/B*100(%)	53.8%	56.9%	111.1%	111.1%	148.9%	146.7%	
学科計			受験者数	198	304	289	327	450	596	
			合格者数	176	255	255	280	318	334	
			入学者数(A)	73	96	100	105	135	139	
			募集定員数(B)	150	150	120	120	120	120	
			A/B*100(%)	48.7%	64.0%	83.3%	87.5%	112.5%	115.8%	

推薦入試は、募集定員を下記3種の推薦入試で一括としているため、募集定員以外の実績を下記に記載する。

附属校推薦	受験者数	2	7	12	8	12	8
	合格者数	2	7	12	8	12	8
	入学者数(A)	2	7	12	8	11	8
指定校推薦	受験者数	1	11	18	18	24	23
	合格者数	1	11	18	18	24	23
	入学者数(A)	1	11	18	18	24	22
公募推薦入試	受験者数	51	45	37	45	68	84
	合格者数	48	38	31	40	49	55
	入学者数(A)	32	19	20	24	32	36

- [注]
- 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
  - 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
  - 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
  - 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
  - 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
  - 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
  - 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・」を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。



(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	31名
②設置基準において、必要な実務家教員数	6名

(平成25年4月1日現在とする。)

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						教授19(5)=19名中 4名が実務家教員 1名がみなし教員 准教授9(2)=9名中 2名が実務家教員
語学教育						
薬学基礎教育	19(5)	9(2)	6	2	3	
専門薬学教育						
実務実習教育						
小計	19(5)	9(2)	6	2	3	
専任教員数	36(7)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連		9※1	5※1	53【8】[12]	<4>	【8】は嘱託職員 [12]は事務補助員派遣職員 <4>は実験助手
法人業務関連	1		1	7【3】		【3】は嘱託職員
小計	1	9※1	6	60	4	
事務職員数	80					

※1は大学短大兼職である。また教員の兼職者7名を含む

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、( )内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
- 4 該当する場合は、( )内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	2		15 (3)	2			19 (3)
	11%		79% 100%	11%			100%
准教授			5	4 (1)			9 (1)
			56%	44% 100%			100%
専任講師				1	5		6
				17%	83%		100%
助教				1	1		2
				50%	50%		100%
合計	2		20 (3)	8 (1)	6		36 (4)
	6%		56% 75%	22% 25%	17%		100%
定年年齢	教授65 歳 その他60 歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ( ) に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科	基礎薬学 分野	教授	ツボイ 坪井 誠二	男	55	2004. 4. 1	2004. 4. 1	基礎科学実習					0.2		0.2	0.0	5.8	岡山大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士	
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0			
								教養対話演習				1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習				0.1			0.0	0.1			
								基礎薬学英語		0.3					0.0	0.3			
								生化学Ⅱ(構造と触媒作用)	1.5						1.5	0.0			
								生化学Ⅲ(生体エネルギーと代謝)		1.5					0.0	1.5			
								生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)						4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.3					0.1	0.3			
								計	3.1	2.1	0.0	1.6	0.2	4.5	3.3	8.2			
薬学科	基礎薬学 分野	教授	カナダ 金田 幸	男	71	2003. 4. 1	2003. 4. 1	基礎科学実習					0.2		0.2	0.0	5.8	東京大学大 学院 薬学 系研究科 博士課程 修了 薬学博士	
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0			
								教養対話演習				1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習				0.1			0.0	0.1			
								天然物化学		0.9					0.0	0.9			
								薬用植物学	0.7						0.7	0.0			
								生薬学Ⅰ(生薬成分化学)		1.1					0.0	1.1			
								生薬学Ⅱ(応用生薬学)	0.7						0.7	0.0			
								化学系薬学実習(有機化学・生薬学実習)						4.5	4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.1	0.2					0.1	0.2			
計	3.0	2.2	0.0	1.6	4.7	0.0	7.7	3.8											
薬学科	基礎薬学 分野	教授	スドウ 須藤 鎮世	男	70	2003. 4. 1	2003. 4. 1	基礎生物学	1.5						1.5	0.0	6.7	東京大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士	
								基礎科学実習						0.2		0.2			0.0
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0			
								教養対話演習				1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学英語		0.3					0.0	0.3			
								分子生物学Ⅱ(分子生物学の応用)		1.5					0.0	1.5			
								分子生物学Ⅲ(バイオ医薬品)	0.7						0.7	0.0			
								薬学海外研修						1.5	1.5	0.0			
								生物系薬学実習Ⅱ(遺伝子・微生物学)						4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.1					0.1	0.1			
計	3.8	1.9	0.0	1.5	1.7	4.5	5.5	7.9											

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床薬学 分野	教授	シバタ タカシ 柴田 隆司	男	58	2006. 4. 1	2006. 4. 1	基礎科学実習					0.2		0.2	0.0	8.7	京都大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学修士
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0		
								薬学対話演習				1.5			0.0	1.5		
								応用薬学総合演習	1.5						1.5	0.0		
								基礎薬学英語		0.3					0.0	0.3		
								薬事関係法規	0.8						0.8	0.0		
								薬局管理学	0.8						0.8	0.0		
								調剤学		1.2					0.0	1.2		
								薬剤師職能論		0.8					0.0	0.8		
								処方解析学Ⅱ		0.4					0.0	0.4		
								専門薬剤師概論Ⅱ		0.2					0.0	0.2		
								実務実習事前学習						4.5	0.0	4.5		
								病院・薬局実務実習					1.5	1.5	1.5	1.5		
								卒業特別講義	0.2	0.5					0.2	0.5		
計	4.8	3.4	0.0	1.5	1.7	6.0	6.5	10.9										
薬学科	基礎薬学 分野	教授	カオカ ヒロユキ 片岡 洋行	男	58	2003. 4. 1	200. 3. 4. 1	基礎科学実習					0.2		0.2	0.0	7.5	大阪大学大 学院薬学研 究科 修士 課程 修了 薬学博士
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0		
								教養対話演習				1.5			0.0	1.5		
								基礎薬学総合演習				0.3			0.0	0.3		
								化学平衡	1.5						1.5	0.0		
								化学物質の検出と定量		1.5					0.0	1.5		
								分析技術の臨床応用	1.5						1.5	0.0		
								物理系薬学演習				0.7			0.0	0.7		
								医療現場における最先端分析技術		0.5					0.0	0.5		
								物理系薬学実習(分析・物理化学実習)					4.5		4.5	0.0		
								卒業特別講義	0.3	0.3					0.3	0.3		
								疾病診断分析薬学特論	0.6						0.6	0.0		
計	5.4	2.3	0.0	2.5	4.7	0.0	10.1	4.8										
薬学科	応用薬学 分野	教授	ニシムラ タミコ 西村 多美子	女	58	2008. 4. 1	2008. 4. 1	薬学への招待	1.5						1.5	0.0	8.0	東京大学大 学院 薬学 研究科修士 課程 修了 薬学博士
								薬学対話演習				1.5			0.0	1.5		
								薬理学Ⅲ(薬効解析学)		1.5					0.0	1.5		
								薬物治療学Ⅱ(疾患別各論Ⅱ)	1.5						1.5	0.0		
								医薬品等評価学	0.3						0.3	0.0		
								新薬開発論		1.5					0.0	1.5		
								医療系薬学実習Ⅰ(薬理・病態生理系実習)					4.5		4.5	0.0		
								病院・薬局実務実習					1.5	1.5	1.5	1.5		
								卒業特別講義	0.2	0.4					0.2	0.4		
計	3.5	3.4	0.0	1.5	6.0	1.5	9.5	6.4										

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科	臨床薬学 分野	教授	テシマ 手嶋	ダイスケ 大輔	男	58	2004. 4. 1	2004. 4. 1	くすりと社会	1.5						1.5	0.0	9.0	九州大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士
									基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
									薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
									薬学対話演習			1.5			0.0	1.5			
									応用薬学総合演習	1.5					1.5	0.0			
									医療統計学	1.3					1.3	0.0			
									医薬品情報学		1.3				0.0	1.3			
									処方解析学 I	0.2					0.2	0.0			
									チーム医療	0.8					0.8	0.0			
									専門薬剤師概論 II	0.2					0.2	0.0			
									実務実習事前学習					4.5	0.0	4.5			
									病院・薬局実務実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
									卒業特別講義	0.1	0.4				0.1	0.4			
									計	7.1	1.7	0.0	1.5	1.7	6.0	8.8	9.2		
薬学科	基礎薬学 分野	教授	スズキ 鈴木	トシノリ 利典	男	57	2003. 4. 1	2008. 4. 1	基礎化学	1.5					1.5	0.0	6.5	京都工芸織 維大学工学 院工芸科学 研究科博士 課程単位取 得満期退学 博士(学術)	
									基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
									薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
									教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
									基礎薬学総合演習			0.2			0.0	0.2			
									基礎薬学英语		0.3				0.0	0.3			
									薬化学		1.5				0.0	1.5			
									有機薬化学 I (基礎有機化学)		1.5				0.0	1.5			
									化学系薬学実習(有機化学・生薬学実習)				4.5		4.5	0.0			
									卒業特別講義	0.2	0.1				0.2	0.1			
									計	3.2	3.4	0.0	1.7	4.7	0.0	7.9			5.1
薬学科	応用薬学 分野	教授	ミツブ 見尾	ミツブ 光庸	男	57	2003. 4. 1	2003. 4. 1	薬学への招待	1.5					1.5	0.0	6.7	岡山大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士	
									薬学対話演習			1.5			0.0	1.5			
									薬理学 I (分子薬理学)		1.5				0.0	1.5			
									薬理学 IV (応用薬理学)	1.5					1.5	0.0			
									免疫薬理学		0.7				0.0	0.7			
									医療系薬学実習 I (薬理・病態生理系実習)				4.5		4.5	0.0			
									卒業特別講義	0.2	0.4				0.2	0.4			
									最適薬物療法学演習			1.5			0.0	1.5			
計	3.2	2.6	0.0	3.0	4.5	0.0	7.7	5.6											

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	応用薬学 分野	教授	コヤマ シンヤ 小山 真也	男	56	2003. 4. 1	2003. 4. 1	薬学への招待	1.5						1.5	0.0	6.3	広島大学大 学院医学系 研究科博士 課程 修了 医学博士
								薬学対話演習				1.5			0.0	1.5		
								医療倫理学		0.8					0.0	0.8		
								人体構成学Ⅰ(解剖生理)	0.2					0.2	0.0			
								人体構成学Ⅱ(生理機能の連携)		0.4				0.0	0.4			
								病態生理学Ⅰ(症候論)		1.2				0.0	1.2			
								病態生理学Ⅱ(疾患論)		1.2				0.0	1.2			
								症例検討/CPC		0.7				0.0	0.7			
								医療系薬学実習Ⅰ(薬理・病態生理系実習)					4.5	4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.2	0.4				0.2	0.4			
計	1.9	4.7	0.0	1.5	4.5	0.0	6.4	6.2										
薬学科	応用薬学 分野	教授	ニフ タニ 丹羽 俊朗	男	55	2013. 4. 1	2013. 4. 1	薬学への招待	1.5					1.5	0.0	6.0	岐阜薬科大 学大学院 博士課程 修了 薬学博士	
								物理薬剤学	1.5					1.5	0.0			
								生物薬剤学		1.5				0.0	1.5			
								製剤機能論		1.5				0.0	1.5			
								香粧品科学		0.7				0.0	0.7			
								医療系薬学実習Ⅱ(薬剤学実習)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.2	0.5				0.2	0.5			
								計	3.2	4.2	0.0	0.0	0.0	4.5	3.2			8.7
薬学科	基礎薬学 分野	教授	ナカニシ トオル 中西 徹	男	55	2004. 4. 1	2004. 4. 1	基礎科学実習				0.2		0.2	0.0	5.7	東京大学理 学部生物学 科卒業 農学博士	
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習				1.5		0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習				0.2		0.0	0.2			
								基礎薬学英语		0.3				0.0	0.3			
								放射薬品化学	1.5					1.5	0.0			
								遺伝子工学	0.7					0.7	0.0			
								医療化学		0.7				0.0	0.7			
								生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.1				0.1	0.1			
計	3.8	1.1	0.0	1.7	0.2	4.5	4.0	7.3										
薬学科	基礎薬学 分野	教授	シオタ スミコ 塩田 澄子	女	55	2003. 4. 1	2012. 10. 1	基礎科学実習				0.2		0.2	0.0	6.1	岡山大学大 学院薬学研 究科 修士 課程 修了 薬学博士	
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習				1.5		0.0	1.5			
								基礎薬学英语		0.3				0.0	0.3			
								微生物薬品化学	1.5					1.5	0.0			
								臨床微生物学	1.5					1.5	0.0			
								感染症予防学		0.7				0.0	0.7			
								生物系薬学実習Ⅱ(遺伝子・微生物学)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.2	0.2				0.2	0.2			
								計	4.7	1.2	0.0	1.5	0.2	4.5	4.9			7.2

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	応用薬学 分野	教授	スズキ 悦子	女	54	2007. 4. 1	2007. 4. 1	薬学への招待	1.5						1.5	0.0	6.3	広島大学大 学院医学系 研究科 博士 課程後期 修了 博士(薬学) 博士(医学)
								薬学対話演習				1.5			0.0	1.5		
								人体構成学Ⅰ(解剖生理)	1.3						1.3	0.0		
								人体構成学Ⅱ(生理機能の連携)		1.1					0.0	1.1		
								病態生理学Ⅰ(症候論)		0.2					0.0	0.2		
								病態生理学Ⅱ(疾患論)		0.3					0.0	0.3		
								医療系薬学実習Ⅰ(薬理・病態生理系実習)					4.5		4.5	0.0		
								卒業特別講義	0.3	0.4					0.3	0.4		
								解剖学	1.5						1.5	0.0		
計	4.6	2.0	0.0	1.5	4.5	0.0	9.1	3.5										
薬学科	応用薬学 分野	教授	スエマル 末丸 克矢	男	52	2012. 4. 1	2012. 4. 1	生命機能のプログラム	1.5					1.5	0.0	6.6	福岡大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 薬学博士	
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								公衆衛生学	1.5					1.5	0.0			
								健康化学		0.7				0.0	0.7			
								臨床栄養学	0.7					0.7	0.0			
								精神神経科学		0.7				0.0	0.7			
								衛生薬学実習					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.3				0.1	0.3			
								計	5.3	1.7	0.0	1.5	0.2	4.5	5.5			7.7
薬学科	応用薬学 分野	教授	フタナベ 渡辺 雅彦	男	52	2004. 4. 1	2004. 4. 1	化学と環境問題	0.5					0.5	0.0	6.6	東京大学大 学院農学系 研究科修士 課程 修了 博士(農 学)	
								情報処理演習a			1.5			1.5	0.0			
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								環境衛生学		1.5				0.0	1.5			
								地球環境学	0.8					0.8	0.0			
								環境遺伝学		0.7				0.0	0.7			
								衛生薬学実習					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.4				0.1	0.4			
								計	2.9	2.6	1.5	1.5	0.2	4.5	4.6			8.6
薬学科	応用薬学 分野	教授	モリ 森 秀治	男	51	2006. 4. 1	2006. 4. 1	薬学への招待	1.5					1.5	0.0	6.3	岡山大学大 学院自然科 学研究科 博士課程 修了 学術博士	
								薬学対話演習			1.5			0.0	1.5			
								薬理学Ⅱ(細胞薬理学)	1.5					1.5	0.0			
								薬物治療学Ⅰ(概論および疾患別各論)		1.5				0.0	1.5			
								薬物治療学Ⅲ(疾患別各論Ⅲ)		1.5				0.0	1.5			
								医療系薬学実習Ⅰ(薬理・病態生理系実習)					4.5	4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.2	0.4				0.2	0.4			
								計	3.2	3.4	0.0	1.5	4.5	0.0	7.7			4.9

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床薬学 分野	教授	イシ 出石 啓治	男	49	2008. 4. 1	2008. 4. 1	薬学への招待	1.5					1.5	0.0	4.7	岡山大学大 学院薬学研 究科 博士 課程 修了 薬学博士	
								専門薬剤師概論Ⅱ	0.2					0.2	0.0			
								処方解析学Ⅰ	0.2					0.2	0.0			
								実務実習事前学習					4.5	0.0	4.5			
								病院・薬局実務実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
								計	1.9	0.0	0.0	0.0	1.5	6.0	3.4			6.0
薬学科	臨床薬学 分野	教授	エガワ 江川 孝	男	48	2005. 4. 1	2013. 4. 1	情報処理演習c			1.5			1.5	0.0	8.7	福岡大学大 学院 薬学 研究科 博 士課程後期 修了 薬学博士	
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								薬学対話演習			1.5			0.0	1.5			
								応用薬学総合演習	1.5					1.5	0.0			
								医療薬学	1.5					1.5	0.0			
								処方解析学Ⅰ	0.4					0.4	0.0			
								病態と薬物治療	0.8					0.8	0.0			
								専門薬剤師概論Ⅱ		0.2				0.0	0.2			
								薬剤管理指導概論	0.4					0.4	0.0			
								実務実習事前学習					4.5	0.0	4.5			
								病院・薬局実務実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
								卒業特別講義	0.3	0.2				0.3	0.2			
								計	6.4	0.4	1.5	1.5	1.7	6.0	9.6			7.9
薬学科	基礎薬学 分野	准教授	イシ 石井 紀郎	男	56	2004. 4. 1	2004. 4. 1	基礎科学実習				0.2		0.2	0.0	5.5	大阪大学大 学院医学研 究科 博士 課程 修了 医学博士	
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習			0.1			0.0	0.1			
								基礎免疫学	1.5					1.5	0.0			
								臨床免疫学		1.5				0.0	1.5			
								生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.1				0.1	0.1			
								計	3.1	1.6	0.0	1.6	0.2	4.5	3.3			7.7
薬学科	基礎薬学 分野	准教授	マサダ 増田 和文	男	52	2008. 4. 1	2011. 4. 1	化学の世界と歴史		1.5				0.0	1.5	6.7	京都大学大 学院薬学研 究科修士課 程 修了 博士(薬 学)	
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習			0.2			0.0	0.2			
								溶液の性質と化学反応速度論	1.5					1.5	0.0			
								熱力学と物理平衡		1.5				0.0	1.5			
								物理系薬学演習			0.4			0.0	0.4			
								物理系薬学実習(分析・物理化学実習)					4.5	4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.3	0.3				0.3	0.3			
								計	3.3	3.3	0.0	2.1	4.7	0.0	8.0			5.4



(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科	基礎薬学 分野	准教授	ヒラオカ 平岡	オサム 修	男	52	2003. 4. 1	2003. 4. 1	生命と自然環境	1.5						1.5	0.0	6.3	岡山大学大 学院薬学研 究科修士課 程修了 薬学博士
									基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
									薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
									教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
									基礎薬学総合演習			0.1			0.0	0.1			
									生化学Ⅰ(細胞の生化学)		1.5				0.0	1.5			
									細胞生物学		1.5				0.0	1.5			
									生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)					4.5	0.0	4.5			
									卒業特別講義	0.2	0.1				0.2	0.1			
									計	3.2	3.1	0.0	1.6	0.2	4.5	3.4	9.2		
薬学科	臨床薬学 分野	准教授	オノ 小野	ヒロシゲ 浩重	男	51	2003. 4. 1	2003. 4. 1	生命機能のシステム	1.5					1.5	0.0	8.5	熊本大学大 学院薬学研 究科修士課 程修了 博士(薬学)	
									基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
									薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
									薬学対話演習			1.5			0.0	1.5			
									応用薬学総合演習	1.5					1.5	0.0			
									医薬品等評価学	0.7					0.7	0.0			
									医療薬学	1.5					1.5	0.0			
									処方解析学Ⅰ	0.4					0.4	0.0			
									専門薬剤師概論Ⅱ		0.2				0.0	0.2			
									実務実習事前学習					4.5	0.0	4.5			
									病院・薬局実務実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
									卒業特別講義	0.3	0.2				0.3	0.2			
									計	7.4	0.4	0.0	1.5	1.7	6.0	9.1			7.9
薬学科	応用薬学 分野	准教授	ヒラモト 平本	カズユキ 一幸	男	50	2003. 4. 1	2003. 4. 1	化学と環境問題	0.5					0.5	0.0	5.8	岡山大学大 学院自然科 学研究科 博士課程 修了 博士(学術)	
									基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
									薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
									教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
									衛生化学Ⅰ(栄養化学)	1.5					1.5	0.0			
									衛生化学Ⅱ(食品衛生学)		0.7				0.0	0.7			
									未病薬学		0.7				0.0	0.7			
									衛生薬学実習					4.5	0.0	4.5			
									卒業特別講義	0.1	0.3				0.1	0.3			
									計	3.6	1.7	0.0	1.5	0.2	4.5	3.8			7.7

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	応用薬学 分野	准教授	マツオ 松尾 浩民	男	48	2003. 4. 1	2003. 4. 1	人体の構造と機能		1.5					0.0	1.5	6.4	徳島大学大 学院薬学研 究科 博士 課程 修了 博士(薬学)
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								薬物代謝学		1.5				0.0	1.5			
								医薬品安全性学	1.5					1.5	0.0			
								医療系薬学実習Ⅱ(薬剤学実習)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.4				0.1	0.4			
								計	3.1	3.4	0.0	1.5	0.2	4.5	3.3	9.4		
薬学科	基礎薬学 分野	准教授	クドウ 工藤 季之	男	48	2003. 4. 1	2007. 4. 1	情報処理演習b			1.5			1.5	0.0	6.1	東北大学大 学院理学研 究科生物学 専攻博士課 程前期修了 博士(理学)	
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習			0.2			0.0	0.2			
								基礎薬学英語		0.3				0.0	0.3			
								分子生物学Ⅰ(分子生物学の基礎)	1.5					1.5	0.0			
								生物系薬学実習Ⅱ(遺伝子・微生物学)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.2	0.1				0.2	0.1			
								遺伝子創薬学特論	0.8					0.8	0.0			
計	4.0	0.4	1.5	1.7	0.2	4.5	5.7	6.6										
薬学科	基礎薬学 分野	准教授	モリタニ 守谷 智恵	女	47	2007. 7. 1	2012. 10. 1	基礎数学	0.6					0.6	0.0	5.3	岡山大学大 学院自然科 学研究科博 士課程 修 了 博士(薬学)	
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習			0.1			0.0	0.1			
								基礎薬学英語		0.3				0.0	0.3			
								生体情報化学		1.5				0.0	1.5			
								生物系薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学実習)					4.5	0.0	4.5			
								卒業特別講義	0.1	0.2				0.1	0.2			
計	2.2	2.0	0.0	1.6	0.2	4.5	2.4	8.1										

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	臨床薬学 分野	准教授	シマダ ケンイチ 島田 憲一	男	43	2008. 4. 1	2013. 4. 1	いきものと物質		0.8					0.0	0.8	7.5	岡山大学大 学院自然科学 学研究科 博士課程 修了 博士(薬学)
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								薬学対話演習			1.5				0.0			
								応用薬学総合演習	1.5						1.5			
								薬事関係法規	0.6						0.6			
								処方解析学Ⅱ		0.4					0.0			
								専門薬剤師概論Ⅰ		0.8					0.0			
								専門薬剤師概論Ⅱ		0.2					0.0			
								実務実習事前学習					4.5		0.0			
								病院・薬局実務実習				1.5	1.5		1.5			
								卒業特別講義	0.3	0.2					0.3			
								薬剤管理指導概論	0.3						0.3			
								計	3.6	2.1	0.0	1.5	1.7	6.0	5.3			
薬学科	応用薬学 分野	講師	フルバヤシ トモユキ 古林 呂之	男	41	2003. 10. 1	2008. 4. 1	基礎科学実習				0.2		0.2	0.0	6.4	摂南大学大 学院薬学研 究科 博士 前期課程 修了 博士(薬学)	
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5				0.0			
								薬物動態学		1.5					0.0			
								製剤学	1.5						1.5			
								日本薬局方概論	1.5						1.5			
								医療系薬学実習Ⅱ(薬剤学実習)					4.5		0.0			
								卒業特別講義	0.1	0.4					0.1			
								計	4.6	1.9	0.0	1.5	0.2	4.5	4.8			
薬学科	基礎薬学 分野	講師	ヤマカワ ナオキ 山川 直樹	男	38	2013. 4. 1	2013. 4. 1	生命と生活の化学		1.5				0.0	1.5	5.6	熊本大学大 学院薬学研 究科博士課 程修了 博士(薬学)	
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								基礎薬学総合演習			0.1				0.0			
								基礎薬学英語		0.3					0.0			
								有機薬化学Ⅱ(反応有機化学)		1.5					0.0			
								有機薬化学Ⅲ(応用有機化学)	1.5						1.5			
								化学系薬学実習(有機化学・生薬学実)					4.5		4.5			
								卒業特別講義	0.2	0.1					0.2			
計	3.2	3.4	0.0	0.1	4.5	0.0	7.7											

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	基礎薬学 分野	講師	モリヤマ ケイ 森山 圭	男	38	2013. 4. 1	2013. 4. 1	薬学への招待	1.5						1.5	0.0	4.9	岡山大学大 学院自然科学 学研究科博士 課程修了 博士(薬学)
								有機構造解析学	1.5						1.5	0.0		
								医薬品化学		1.5					0.0	1.5		
								天然物化学		0.6					0.0	0.6		
								生薬学Ⅰ(生薬成分化学)		0.4					0.0	0.4		
								創薬化学		0.8					0.0	0.8		
								化学系薬学実習(有機化学・生薬学実薬学実習)					4.5		4.5	0.0		
								基礎薬学総合演習				0.1			0.0	0.1		
								卒業特別講義	0.2	0.2					0.2	0.2		
								計	1.7	3.5	0.0	0.1	4.5	0.0	6.2	3.6		
薬学科	応用薬学 分野	講師	アノ ヒロアキ 阿蘇 寛明	男	37	2003. 4. 1	2012. 4. 1	化学と環境問題	0.5						0.5	0.0	5.9	岡山大学大 学院自然科学 学研究科博士 課程修了 博士(薬学)
								情報処理演習a			1.5				1.5	0.0		
								基礎科学実習					0.2		0.2	0.0		
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0		
								教養対話演習				1.5			0.0	1.5		
								環境毒性学	1.5						1.5	0.0		
								医療現場における最先端分析技術		0.1					0.0	0.1		
								衛生薬学実習						4.5	0.0	4.5		
								卒業特別講義	0.1	0.3					0.1	0.3		
								計	3.6	0.4	1.5	1.5	0.2	4.5	5.3	6.4		
薬学科	臨床薬学 分野	講師	マイグマ タカヨシ 毎熊 隆誉	男	34	2004. 4. 1	2012. 10. 1	情報処理演習c			1.5				1.5	0.0	7.7	九州大学大 学院薬学府 修士課程 修了 博士(薬学)
								基礎数学	0.6						0.6	0.0		
								基礎科学実習					0.2		0.2	0.0		
								薬学への招待	1.5						1.5	0.0		
								薬学対話演習				1.5			0.0	1.5		
								応用薬学総合演習	1.5						1.5	0.0		
								医療統計学	0.2						0.2	0.0		
								医薬品情報学		0.2					0.0	0.2		
								処方解析学Ⅱ		0.3					0.0	0.3		
								実務実習事前学習						4.5	0.0	4.5		
								病院・薬局実務実習					1.5	1.5	1.5	1.5		
								卒業特別講義	0.3	0.1					0.3	0.1		
								計	4.1	0.6	1.5	1.5	1.7	6.0	7.3	8.1		

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均 毎週授業 時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	基礎薬学 分野	講師	サイトウ 齋藤 啓太	男	33	2007. 4. 1	2012. 10. 1	病気と環境		1.5					0.0	1.5	7.2	岡山大学大 学院自然科 学研究科 博士課程 修了 博士(薬 学)
								基礎数学	0.6					0.6	0.0			
								基礎物理学	1.5					1.5	0.0			
								基礎科学実習				0.2		0.2	0.0			
								薬学への招待	1.5					1.5	0.0			
								教養対話演習			1.5			0.0	1.5			
								基礎薬学総合演習			0.3			0.0	0.3			
								分子の構造と化学結合		1.5				0.0	1.5			
								物理系薬学演習			0.4			0.0	0.4			
								医療現場における最先端分析技術		0.1				0.0	0.1			
								物理系薬学実習(分析・物理化学実習)				4.5		4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.3	0.4				0.3	0.4			
計	3.9	3.5	0.0	2.2	4.7	0.0	8.6	5.7										
薬学科	応用薬学 分野	助教	トヨムラ 豊村 隆男	男	40	2005. 9. 1	2007. 4. 1	情報処理演習b			1.5			1.5	0.0	5.1	大阪大学大 学院理学研 究科 博士 課程 修了 博士(薬学)	
								基礎数学	0.6				0.6	0.0				
								薬学への招待	1.5				1.5	0.0				
								薬学対話演習			1.5		0.0	1.5				
								病態生理学 I (症候論)		0.1			0.0	0.1				
								医療系薬学実習 I (薬理・病態生理系実習)				4.5		4.5	0.0			
								卒業特別講義	0.1	0.4			0.1	0.4				
								計	2.2	0.5	1.5	1.5	4.5	0.0	8.2			2.0
薬学科	臨床薬学 分野	助教	タカミ 高見 ヨウイチロウ 陽一郎	男	35	2013. 1. 1	2013. 1. 1	基礎科学実習				0.2		0.2	0.0	6.5	岡山大学大 学院自然科 学研究科 博士後期課 程 修了 博士(薬学)	
								薬学への招待	1.5				1.5	0.0				
								薬学対話演習			1.5		0.0	1.5				
								応用薬学総合演習	1.5				1.5	0.0				
								基礎薬学英語		0.3			0.0	0.3				
								調剤学		0.3			0.0	0.3				
								実務実習事前学習				4.5		0.0	4.5			
								病院・薬局実務実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
								卒業特別講義	0.1				0.1	0.0				
								計	3.1	0.6	0.0	1.5	1.7	6.0	4.8			8.1

- [注] 1 「所属学科」には、( )に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

## (基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数 76名

6年生の在籍学生数 80名

	配属講座名	指導教員数	5年生	6年生	合計	配属学生1名 当たりの研究 室の広さ (㎡)
			配属学生数	配属学生数		
1	応用分析化学	1	3	3	6	20.87
2	分子構造化学	1	1	3	4	28.99
3	生体分析化学	1	3	0	3	17.85
4	医薬資源化学	1	3	4	7	10.49
5	創薬合成化学	1	3	6	9	11.82
6	生体制御化学	1	2	3	5	18.65
7	免疫化学	1	3	3	6	18.53
8	生体分子化学	1	3	3	6	24.82
9	分子機能生化学	1	2	3	5	17.25
10	臨床診断学	1	2	2	4	24.86
11	遺伝子解析学	1	2	3	5	18.71
12	病原微生物学	1	3	3	6	24.61
13	統合生物学	1	2	3	5	15.75
14	生活環境化学	1	3	2	5	21.12
15	健康解析学	1	3	0	3	20.57
16	保健衛生化学	1	3	3	6	23.18
17	代謝衛生学	1	2	0	2	26.85
18	薬理学	1	2	3	5	12.34
19	薬効解析学	1	3	3	6	20.06
20	病態解析学	1	3	3	6	25.43
21	人体構成学	1	2	3	5	30.77
22	生体情報学	1	3	3	6	18.38
23	代謝毒性学	1	3	2	5	30.77
24	薬物動態学	1	2	5	7	13.96
25	医療情報学	1	2	3	5	16.58
26	医薬品応用学	1	2	3	5	21.28
27	薬物療法設計学	1	2	3	5	14.63
28	疾病薬学管理学	1	3	3	6	11.94
29	医療実務薬学	1	3	2	5	14.33
30	医薬品情報学	1	3	0	3	22.97
合計		30	76	80	156	19.35

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m <sup>2</sup> ) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m <sup>2</sup> ) (A/B)	備考
西川原キャンパス	講義室	31	4,975	共用	5,021	2,245	2.22	人文科学部(1132) 教育学部(476) 薬学部(637)
	演習室	26	1,602	共用	881	2,245	0.71	人文科学部(1132) 教育学部(476) 薬学部(637)
	情報機器室	6	647	共用	300	2,245	0.29	人文科学部(1132) 教育学部(476) 薬学部(637)
	学生ホール	4	1,342	共用	-	2,243	0.60	人文科学部(1132) 教育学部(476) 薬学部(637)
	セミナー室	8	249	専用	-	637	0.39	
	実習室	4	1,066	専用	-	637	1.67	
	実験・機器室	61	3,194	専用	-	637	5.01	
	OA情報室	1	76	専用	-	637	0.12	
	自習室	2	218	専用	-	637	0.34	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
図書館	383	2,245	17.0	—	—	—	学部学生 2,228名 大学院生 17名

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。



(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成22年度	平成23年度	平成24年度	
図書館	313,543	296,891	293	111	3,482	84	8,017	6,033	5,553	電子ジャーナルはエルゼ ビアパッケージ248種、 EBSCO(Academic Search Premier)4600論文検索可 をそれぞれ一種として算 定している。
計	313,543	296,891	293	111	3,482	84	8,017	6,033	5,553	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体制御化学	職名 教授	氏名 坪井誠二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
小テストによる毎回の復習を取り入れた授業		平成16年4月～	講義「生化学Ⅱ」「生化学Ⅲ」において、毎回小テストを行い学生にフィードバックすることにより理解を深めた。
授業評価		平成25年9月	授業評価において、「毎回復習があったので良かった。」「大変わかりやすかった。」等、高い評価を受けている。また、「担当教員の授業に対する熱意・意欲を感じた」の項目で高い評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
「生物系薬学実習Ⅰ-生化学・免疫学・RI-」を作成		平成16年4月～	実習「生物系薬学実習Ⅰ-生化学・免疫学・RI-」において使用するテキストを作成した。実験手法、実験原理が効率的に理解出来るよう工夫したものである。
第97回薬剤師国家試験問題解説書（生化学部門担当・テコム薬学社）を作成		平成24年4月	「卒業特別講義」、「国試対策講義」において解説部分を使用している。
第98回薬剤師国家試験問題解説書（生化学部門担当・テコム薬学社）を作成		平成25年4月	「卒業特別講義」、「国試対策講義」において解説部分を使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
職場体験学習		平成16年5月～	市内の中学生(2年生)を対象として「職場体験学習」を行っている。「研究者体験」及び「薬剤師体験」を実施しており、「研究者体験」としては、「光る大腸菌を作ろう」、「自分のDNAを手にとってみよう」、「臓器を顕微鏡で見てみよう!」のテーマで行っている。この職場体験学習は、平成16年より実施しており、平成16年は1校、平成23年度からは2校、平成25年度は5校の中学生に対して行った。
就実大学薬学部サイエンスカフェ2012		平成24年8月	「サイエンスカフェ2012」において小・中・高学生を対象に「酵素の働きを実感!!～アミラーゼの働きを見てみよう」を指導し、酵素の働きについてわかりやすく説明した。
入学前教育を担当		平成25年12月	入学前教育として「入学前セミナーでの課題図書についての感想と指導・対話」を担当。
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(特許) 健康食品等の飲食物・医薬品	共著	平成22年5月	特開2010-111687
(特許) マトリックスメタロプロテイナーゼ阻害剤及びこれに用いるピリジルアゾベンゼン誘導体	共著	平成23年2月	特開2011-032210
(特許) 内因性メラトニン分泌リズムの位相調整又は振幅増強剤、及び概日リズム改善剤	共著	平成23年12月	特許4891069
(特許) 肝障害予防又は抑制剤	共著	平成24年3月	特許4947636
(特許) 健康食品等の飲食物・医薬品	共著	平成24年12月	特開2012-236836

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
昭和57年4月～	日本薬学会会員
昭和57年4月～	日本生化学会会員
平成16年4月～	日本生化学会評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名	職名 教授	氏名 金田 幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 講義への演習的要素の導入  (2) 前回の講義の復習，当該回の講義内容に関する小テストの実施  (3) 教科書・プリント・板書を有効に用いた講義  (4) 毎回レポート提出を義務付ける。	平成15年4月1日～  平成15年4月1日～  平成15年4月1日～  平成15年4月1日～	教官からの一方的説明では学生の理解・興味の掘り起こしが不十分であるので、重要な点にさしかかった時に順に学生を指名し、一対一で小討論を行いながら進むことにしたところ、学生の理解と習得度が格段に上昇した。  講義で新しい部分に進む前に前回の復習を行う。また当該回の講義内容に関する小テストを毎回の講義終了時に実施して学生の注意を喚起する。これによっても学生の理解と習得度が格段に上昇した。  教科書・プリント・板書を有効に用いて講義の内容を強く印象付けるように工夫した。板書の文字は大きく見やすくし、説明の発声もなるべく大きくし、  毎回の講義内容に関してレポート提出を義務づけた。その結果、学生は強制的ではあるが復習を余儀なくされ、理解しにくい事象についての学生の理解が深まり格段の成果を得ることができた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 講義用プリントの作成  (2) 講義用教科書の作成	平成15年4月1日  平成17年3月  平成19年3月	学生の修得度および講義の進行具合を吟味しながら毎回講義用プリントを製作した。図表を多く取り入れ、学生が講義内容を理解し易いように工夫した。  「医療を志向する天然物医薬品化学」広川書店、共著（著書の項で詳述）を作成し、現在、生薬学I（2年生）の講義で使用している。  「天然医薬資源学，第3版」広川書店、共著（著書の項で詳述）を作成した。次回の天然物化学（1年生）の講義での使用を検討している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等  該当なし。			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） (3) 薬用植物園の教育への応用	平成15年4月1日～	薬学部構内に薬用植物園が建設され、多くの薬用植物が植えられたので、現在、天然物化学、薬用植物学、生薬学Iおよび生薬学IIの講義、また化学系薬学実習IIにおいて、その時間内あるいは宿題として学生に薬用植物の観察・写生を課し、学生の興味を喚起し、薬用植物に対する理解を深めさせている。  また、本学の入学式当日、あるいはオープンキャンパスの際、父兄懇談会あるいは高校生グループの臨時の見学会の際には、訪問者に対して、薬用植物園内の案内と薬用植物に関する解説を行っている。	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 天然医薬資源学，第3版.	共著	平成19年3月	廣川書店
(論文) X-ray crystallographic identification of bisulfite-uracil adduct as sodium 5,6-dihydrouracil 6-sulfonate.	共著	平成20年	Nucleic Acids Symp Ser., 52(1), 451-452
(論文) $\beta$ -Secretase (BACE-1) inhibitory effect of biflavonoids	共著	平成22年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 20, 4558-4560
(論文) Structure-activity relationships of bioflavonoids for $\beta$ -secretase (BACE-1) inhibitory activity	共著	平成24年	Heterocycles, 85, 2749-2756
薬学部学生による就実大学図書館及び薬学部図書室の利用に関するアンケート調査	共著	平成25年	就実論叢

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成20年～毎年8月	薬学部サイエンスカフェ 漢方薬を作ってみよう 担当
平成16年～	全国薬系大学薬用植物園連絡協議会委員
平成25年7月	全国農業協同組合連合会岡山県本部に対する薬用植物に関する指導・助言・文献提供

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 遺伝子機能解析学	職名 教授	氏名 須藤鎮世
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2003. 04. 01～	講義内容を3～5日前からe-ラーニングシステムに掲載、終了後も期末まで掲載している。毎回宿題をだし、提出者には添削をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2004. 04. 01～	毎年、生物学実習のテキストを作り、実施している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
Combination of the somatic cell nuclear transfer method and RNAi technology for the production of a prion gene-knockdown calf using plasmid vectors harboring the U6 or tRNA promoter.		共著	2011
Hairless mutation: a driving force of humanization from a human-ape common ancestor by enforcing upright walking while holding a baby with both hands.		単著	2012
Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant disaster: generally applicable implications from sporadic and arbitrary measurements of radioactive contaminations in some areas of Ibaraki and Fukushima.		単著	2013
The Hairless Mutation Hypothesis Explains Not Only the Origin of Humanization from the Human/Ape Common Ancestor but also Immature Baby Delivery.		単著	2013
低線量の放射線をあまり恐れないで！		単著	2013
発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称			
			Prion, 5, 39 - 46.
			Genes to Cells, 17, 264-272.
			Genes Environ., 35, 73-79,
			Human Genet Embryol 3: 111.
			就実論叢、42, 195-212.
III 学会等および社会における主な活動			
Mutation Research	編集委員、1997～		
Mutagenesis	編集委員(2002～2008)		
Genes & Environmewnt	編集委員、2011～		
日本環境変異原学会第2回大会学会長	2013. 11. 28-30.		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。





(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名: 就実大学	講座名 医薬品応用学	職名: 教授	氏名: 柴田隆司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 事例を検討する講義を実施し、レポート提出を課す 講義内容に関する演習の実施 講義内容に関するキーワードの明確化	2009年4月～ 2010年4月～ 2011年4月～	講義内容のキーワードについてレポートを提出させ、復習とするとともに学生の調査の行い方の確認や学生自身で考える契機としている 薬剤師業務の解説を行っているので、講義以外に演習を実施し、理解を深めるとともに応用力を育てている 講義内容で重要な概念や単語については、講義中に判り易くするため、赤字など黒以外の色で表示する。授業評価でも評価を得ている	
2 作成した教科書、教材、参考書 医学大辞典(2版) 医学書院 看護大事典 医学書院 プログラムによる病態と処方解析学 廣川書店	2009年 2010年 2013年	医学大辞典の改訂に伴い、原稿執筆依頼があった。薬物紹介のごく一部ではあるが担当した。 薬物の解説を行う 改訂に伴い、2章分の改稿(てんかん、パーキンソン病)、1章の追加(痴呆症)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「実務実習事前学習について」 「事前学習の成果」と「大学・施設間の連携」 「求められる指導薬剤師の姿—1年目の実習を踏まえて」 就実大学における実務実習実施後のアンケート調査結果について 「PBLを通して学ぶ多職種間連携」を受講して 「6年制薬学教育で変わったことIIA班」 平成23年度実務実習報告書 就実大学 2012年 平成24年度実務実習報告書 就実大学 2013年	2009年 2010年 2010年 2011年 2011年 2012年 2012年 2013年	薬学教育実務実習事前学習に関する調査・研究報告書 p. 228-231 薬学教育実務実習事前学習および指導体制の在り方に関する調査・研究報告書 p. 196-197 平成22年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議 報告書 p. 22-23 薬剤師養成のための薬学教育における実務実習期間の延長に伴う指導体制等の在り方に関する調査研究 ～ 実務実習における大学と施設の連携および事前学習の充実化に関する調査研究 CD-ROM に収録 新しい医学教育の流れ' 11夏 第40回医学教育セミナーとワークショップの記録 p. 50-54 日本薬学会第1回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ 報告書 p. 37-40 6年制課程2期の実務実習における報告書 編集 6年制課程3期の実務実習における報告書 編集	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習修了 第3回WSタスクフォース・スキルアップ集会参加 (神戸学院大学にて) 岡山SP研究会 第6回模擬患者要請講座修了	2008、2012年 2008年 2008年	救急蘇生法の基礎を習得。医療人として技術を学び学生に伝達 指導薬剤師の養成にタスクフォースが介在するが、その技術上のレベルアップについて学んだ。 患者への説明や指導において模擬患者が必要だが、教員の立場から必要なノウハウを学び、事前学習に役立てている	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
患者ニーズに応じた服薬指導を目指した薬学教育プログラムの構築—PBL型コミュニケーション演習—	共著	2007年	医療薬学 33巻 p. 301-309

ワルファリンの薬物相互作用に関する症例報告	共著	2007年	岡山県病院薬剤師会誌 第154号 p.43-45
病院実務実習におけるSGDの効率的な進め方に対する提案	共著	2012年	医薬ジャーナル48巻5号 p.1273-1278
薬学生の共感的態度に及ぼす模擬患者の影響	共著	2013年	日本ファーマシューティカルコミュニケーション 学会誌 11巻p.16-23
病院・薬局実務実習における緩和ケア教育とその効果に関する検討	共著	2013年	就実論叢2012 42号
薬学部学生による就実大学図書館および薬学図書室の利用に関するアンケート調査	共著	2014年(予定)	就実論叢2013 43号
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成19年	日本薬学会中国四国支部 支部監事		
平成19年～23年	岡山県薬剤師会薬局実習特別委員		
平成20年	日本薬学会中国四国支部 庶務担当幹事		
平成21年	日本薬学会第130年会組織委員会 部会委員長		
平成22年2月～23年1月	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
就実大学薬学部	講座名 応用分析化学	職名 教授	氏名 片岡 洋行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
形成的評価を測る小テストと宿題	平成20年4月～	毎回の授業における小テストや練習問題を課し、採点・添削して、理解度を確認しながら授業を進めている。	
マルチメディア機器を用いた授業	平成20年4月～	全ての担当授業において、図や写真をスライドで示し、学生の理解の向上の一助としている。	
授業評価アンケート	平成25年9月	前期担当した4科目の総合評価は2.59～3.23で、平均2.96あった。	
クイズによる質問形式のアクティブラーニング	平成25年10月～	授業の途中で内容に関するクイズを出して考えさせ、授業への集中力を付けさせている。	
自作問題・質問カード等によるアクティブラーニング	平成25年10月～	毎回の授業内容の理解を深めるため、学生に自作問題を作らせ、わからないところを質問カードに書かせ、個別に回答を返している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
『薬学分析科学の最前線』日本薬学会物理系薬学部会編（じほう）（共著）	平成21年3月	第5章分離分析法の展開の一部を分担執筆（2頁）	
『薬毒物分析学辞典』高取建彦、黒岩幸雄、Anthony T. Tu、山本郁男編（廣川書店）	平成21年9月	血圧降下薬の部分を担当執筆（総298頁）	
『わかりやすい機器分析学』改訂第2版 梶澤洋三・中澤裕之・吉村吉博編（廣川書店）（共著）	平成23年8月	VIII 電気化学的分析法に関する部分を担当執筆（41頁）	
ベーシック薬学教科書シリーズ『分析科学』改訂第2版 萩中淳編（化学同人）（共著）	平成23年10月	4. 沈殿平衡、7. 赤外吸光分析法、旋光度測定法、8. 質量分析法、12. 薬毒物分析に関する部分を担当執筆（65頁）	
『薬学分析化学の基礎と応用』改訂第3版 片岡洋行・田和理市編（廣川書店）（共著）	平成23年11月	第4章 酸化還元滴定法と第9章 薬毒物分析に関する部分の分担執筆及び全体の編集（44頁）	
『衛生薬学新論』改訂2版 新井洋由・成松鎮雄・山田英之編（南山堂）（共著）	平成24年8月	II-7 食品衛生に関する部分を担当執筆（28頁）	
『パートナー分析化学II』改訂第2版 山口政俊・升島努・能田均編（南江堂）（共著）	平成24年8月	第7章 毒物分析に関する部分を担当執筆（7頁）	
『パートナー分析化学I』改訂第2版 萩中淳・山口政俊・千熊正彦編（南江堂）（共著）	平成24年12月	第9章 熱分析法に関する部分を担当執筆（9頁）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
FD講演会に参加	平成20年4月～	毎年、全学で行われるFD講演会・研修会に参加している。	
GPA制度の導入	平成23年4月～	教務部長として成績評価の在り方を見直し、全学的にGPA制度を導入した。	
教養教育改革	平成24年5月～	教務部長として全学教養教育の見直し、科目の整理およびカリキュラム全般の改善を行った。	
薬学教育評価25 評価書作成	平成25年4月～	薬学教育第三者評価において、1. 教育研究上の目的、2. カリキュラム編成、3. 医療陣教育の基本的内容、10. 教員組織・職員組織の部分を担当、総括した。	
学習支援委員会活動	平成25年4月～	学部長として留年対策を先導し、仮進級制度など教育システム改善を提言、入学前後教育の指導に係わった。	
カリキュラム改革ワーキング	平成25年5月～	カリキュラム改革ワーキンググループを組織し、平成27年度改正に向けて、改訂カリキュラムSB0への対応、科目設定、カリキュラムマップ作成、進級・卒業要件の設定などのとりまとめを行っている。	

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） <u>Kataoka H.</u> Recent developments and applications of microextraction techniques in drug analysis.	単著	2010年	Anal. Bioanal. Chem., 396: 339-364. (Springer)
（論文） <u>Kataoka H.</u> , Saito K. Recent advances in SPME techniques in biomedical analysis.	共著	2011年	J. Pharm. Biomed. Anal., 54: 926-950. (Elsevier)
（著書） <u>Kataoka, H.</u> Column Switching Sample Preparation, in Comprehensive Sampling and Sample Preparation Vol. 2, Edited by Janusz Pawliszyn and Heather Lord	単著	2012年	Comprehensive Sampling and Sample Preparation Vol. 2, Chapter 2.29, 649-676. (Elsevier, Academic Press)
（論文） <u>Kataoka H.</u> , Inoue T. Saito K, Kato H., Masuda K. Analysis of heterocyclic amines in hair by on-line in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2013年	Anal. Chim. Acta, 786: 54-60. (Elsevier)
（論文） <u>Kataoka H.</u> , Saito K., Kato H., Masuda K. Noninvasive analysis of volatile biomarkers in human emanations for health and early disease diagnosis.	共著	2013年	Bioanalysis, 5 (11): 1443-1459. (Future Science)
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年1月～	Editorial Advisory Board of Analytica Chimica Acta (Elsevier)		
平成21年4月～平成22年3月	(財)大学基準協会評価委員		
平成21年4月～平成22年3月	内閣府食品安全委員会専門調査検討委員		
平成21年4月～平成22年3月	日本薬学会第130年会組織委員会物理系薬学部会		
平成23年1月～	Editorial Board Member of Analytical Chemistry Letters (Bhalla & Sons)		
平成23年1月～	日本分析化学会中国四国支部幹事		
平成23年4月～	Editorial Board Member of Journal of Environmental & Analytical Toxicology (OMICS)		
平成23年4月～	おかやまバイオアクティブ研究会幹事		
平成23年11月～	Editorial Board Member of Journal of Analytical Methods in Chemistry (Hindawi)		
平成24年1月～	Guest Editor in Trends in Analytical Chemistry for Special Issue (Elsevier)		
平成24年4月～	クロマトグラフィー科学会評議員		
平成24年4月～	Editorial Board Member of Chromatography (Japan)		
平成24年4月～平成24年10月	国際シンポジウム「Bioactive Okayama 2012 (BA02012)」実行委員		
平成25年4月～	日本薬学会中国四国支部代議員		
平成25年4月～	Permanent Contributing Editors in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	就実大学薬学部	講座名	薬理学教室
職名	教授	氏名	西村 多美子
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 小テストの内容をWeb上で公開  マルチメディア機器を用いた授業  授業評価	平成20年9月～  平成20年9月～  平成20年9月～	小テストの正解を、問題文の正しい文章として、ブラックボードに掲載している。  講義「薬理学Ⅲ」、「薬物治療学Ⅱ」、「新薬開発論」、「医薬品等評価学」において、図や写真をスライドで示したり、DVDを活用したりして、学生の理解の向上の一助としている。  「薬理学Ⅲ」、「薬物治療学Ⅱ」及び「新薬開発論」の授業評価を受け、知識や分野への興味が深まったなどの点で高い評価を得ている。また、平成24年度後期に「新薬開発論」の公開授業を実施した。
2	作成した教科書、教材、参考書 「医薬品情報学 ー基礎から臨床へー（医薬品開発を担当）（共著）岡野善郎、京谷庄二郎編 広川書店」を出版した。 「創薬研究のストラテジー 下（医薬品GLP調査の国際的必要性を担当）（共著）、日本薬理学会編、金芳堂」を出版した。 「CRCのための臨床試験スキルアップノート（GCP調査の立場とCRCの視点を担当）（共著）、中野重行、中原綾子編、医学書院」を出版した。  WordやPowerpoint資料の作成	平成24年3月31日  平成23年3月1日  平成22年10月1日  平成20年9月～	医薬品開発について、規制当局の考え方を理解しやすく解説した。  GLP制度、GLP査察の現状と国際的動向について、GLP試験担当者への適切な試験実施および管理が行えるようわかりやすく解説した。  CRC初心者にも、GCP制度、GCPの理解、規制当局の考え方を理解しやすく解説した。  すべての講義において、WordまたはPowerpointによる資料を作成し、配布している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「病院・薬局実務実習における緩和ケア教育とその効果に関する検討」 「薬学部学生の意識調査—1996年度と2009年度の比較—」	平成24年3月  平成21年2月	就実論叢 第42号 233-240の共著者  就実論叢 第39号259-275で、就実大学薬学部入学生の意識をアンケート調査した（First Author）。化学や生物学を高校で選択していない学生の割合を1996年度と2009年度で比較し、6年制薬学部でどのように教育していけばよいかの方向性を示すことができた。
4	その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 倉敷中央病院 「臨床研究をどう進めるか ー薬事法改正を見据えてー」 倉敷 慶応義塾大学理工学部 理工学概論 「創薬・医療機器開発等で世界をリードする日本」を実現するために-2013-」 大阪大学医学部附属病院 阪大GCPセミナー（2回目） 「最近の話題」大阪 倉敷中央病院「創薬・医療機器開発等で世界をリードする日本」を実現するために-倉敷発の提案-」 倉敷 大阪大学医学部附属病院 阪大GCPセミナー（1回目） 「審査報告書から治験の質を読む」大阪大学医学部附属病院 慶応義塾大学理工学部 理工学概論 「創薬・医療機器開発等で世界をリードする日本」を実現するために」 第1回医薬品や医療機器などの開発における臨床試験（治験）の実施の在り方に関する研究会 依頼講演 慶応義塾大学理工学部 理工学概論「薬のリスクを考える」	平成25年11月21日 平成25年5月1日 平成25年3月14日 平成24年10月29日 平成24年9月13日 平成24年6月27日 平成24年7月1日 平成23年6月22日	以下の依頼講演や招待講演を行った。

倉敷中央病院 「臨床試験の信頼性の保証についてー臨床研究から治験までー」	平成23年4月8日
北里大学薬学部臨床医学（医薬開発学）での講義「臨床試験の信頼性確保」	平成22年11月2日
国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクールでの講義「わが国における医薬品開発の現状と問題点」	平成22年6月24日
第1回日本安全性薬理研究会 パネルディスカッションパネラー	平成22年2月20-21日
慶応義塾大学理工学部 「理工学概論」「薬を創るヒトになるには？」	平成22年1月6日
国際医療福祉大学大学院「乃木坂スクール 創薬育薬医療スタッフのための最新の知識とスキル」での講義「治験における安全性情報と信頼性」	平成21年11月18日
北里大学薬学部臨床医学（医薬開発学）「医薬開発学特論Ⅱ」「臨床試験の信頼性確保」	平成21年10月20日
認定CRCのためのワークショップ（岡山）「医薬品の承認までのプロセスを考える」依頼講演	平成21年10月10日
認定CRCのためのワークショップ（別府）「臨床研究のポイントがわかる「なぜなぜミニレクチャー」なぜ、メーカーの監査担当者はきびしいのか？」依頼講演	平成21年2月14日
第2回治験活性化のための中国地区連絡協議会「新医薬品国内臨床試験におけるGCP遵守の方策」	平成21年1月24日
国際医療福祉大学 乃木坂スクール 公開講座 国際医療福祉大学大学院生涯学習 コースNo.4専門家に学ぶCRCに必要な疾患の知識と臨床試験 「治験における行政の役割」	平成20年11月5日
東京大学医薬品評価科学RCコース 「信頼性・GCP調査について」	平成20年10月6日

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Clinical development of new drugs and pharmacology	単著	平成23年11月	Nihon Yakurigaku Zasshi. 138(5):201-4.
（論文） Scientific drug safety information for patients' consent	単著	平成23年6月	Yakugaku Zasshi. 131(6):871-5.
（論文） 医薬品の信頼性と安全性の確保とGood Clinical Practice（日本信頼性学会2011年度優秀記事コラム賞受賞）	単著	平成23年3月	信頼性 2011;33(2):68-75.
（論文） QT/QTc評価試験」と被検者の安全性	単著	平成22年6月	臨床評価 38(1):13-21.
（総説） Clinical Trials and GCP	単著	平成22年6月	J. Health Sci. 56(3): 881-888.

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

昭和62年から現在	日本薬理学会学術評議員
平成23年から現在	日本薬学会代議員
平成23年から現在	日本レギュラトリーサイエンス学会評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医療情報学	職名 教授	氏名 手嶋 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義内容のWeb上での公開 授業評価 授業の終盤に確認問題を提示		平成22年4月 平成22年9月～ 平成23年4月～	講義で用いた資料をweb上で公開した。 学生による授業評価に対して、反省すべき点は反省し、改善すべきところは工夫して次年度に活かした。 提示した問題に解答させ、理解していない点を確認させる。分からない点は、直接質問に来るように指示する。解答と解説は、次回授業の初めに行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 NEW医薬品情報 (廣川書店) 医薬品情報学-基礎から臨床へ- (廣川書店)		平成19年3月 平成24年3月～	講義「医薬品情報学」において利用するための教科書を作成した。 「医薬品情報学」の講義内容が効率的に理解できるよう工夫したものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「患者ニーズに応じた服薬指導を目指した薬学教育プログラムの構築-PBL型コミュニケーション演習-」 「薬学部5年生の意識を変える現場薬剤師の講義-漢方医学への動機づけ-」 「薬学生の共感的態度に及ぼす模擬患者の影響」		平成19年4月 平成25年3月 平成25年3月	「医療薬学」33(4)にて発表した。模擬患者に対する問題志向型コミュニケーション演習 日本薬剤師会雑誌 65(3)にて発表した。現場薬剤師の講義による漢方医学への興味とモチベーションの変化を検討した。 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌 11(1)にて発表した。模擬患者を通して患者への共感の態度を養う。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 入学前教育を担当		平成21年11月～	入学前教育として「読書感想文の評価」を担当
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Estimation of the area under the curve for mycophenolic acid in adult renal transplant patients with concomitant tacrolimus using a limited sampling strategy.	共著	平成20年4月	J. Clin. Pharm. Ther., 33(2), 159-163.
(論文) Relationship between oral mucositis and high-dose methotrexate therapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	共著	平成20年12月	Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., 46(11), 584-590.
(論文) Protective Effects of Amifostine and Cyclooxygenase-1 Inhibitor against Normal Human Epidermal Keratinocyte Toxicity Induced by Methotrexate and 5-Fluorouracil.	共著	平成21年7月	Basic Clin. Pharmacol. Toxicol., 105, 1-9.
(論文) Evaluation of inosin-5'-monophosphate dehydrogenase activity during maintenance therapy with tacrolimus.	共著	平成22年2月	J. Clin. Pharm. Ther., 35, 79-85.
(論文) 後発品レバミピド錠の溶出試験および人工膜透過試験	共著	平成24年2月	就実論叢, 42, 223-231.
III 学会等および社会における主な活動			

平成15年4月～	中国四国地区病院・薬局実務実習調整機構委員
平成22年4月～	中国四国地区病院・薬局実務実習調整機構委員長

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 創薬合成化学	職名 教授	氏名 鈴木利典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 小テストの実施	平成19年4月～	基礎化学、薬化学、有機薬化学Iの始業時に毎回約10分間の小テストを行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 実習書の作成	平成19年4月～	基礎化学実習および化学系薬学実習の実習書（分担）を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 岡山県生涯学習センター講師 毒物劇物取扱者試験事前講習会講師	平成24年10月 平成23年6月～	「ばるスマイルDAY」で小中学生対象の実験授業を担当 岡山県薬剤師会主催の講習会で基礎化学を担当	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Reaction of 2'-deoxycytidine with peroxynitrite in the presence of ammonium bromide.	共著	平成20年	Bioorg. Med. Chem. 16, 5164
（論文）Formation of diazoate intermediate upon nitrous acid and nitric oxide treatment of 2'-deoxyadenosine.	共著	平成21年	Bioorg. Med. Chem. Lett. 19, 788
（論文）Effects of chloride, bromide, and iodide upon reaction of nucleosides induced by ultrasound in neutral solution.	共著	平成22年	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids. 29, 606
（論文）Effects of halides on reaction of nucleosides with ozone.	共著	平成24年	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids. 31, 461
（論文）Reaction of 3',5'-di-O-acetyl-2'-deoxyguanosine with hypobromous acid.	共著	平成25年	Bioorg. Med. Chem. 21, 3674
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬効解析学	職名 教授	氏名 見尾 光庸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
講義内容のWebによる公開	平成15年10月～	講義で用いた資料・定期試験（解答付き）をWebにて公開している。	
講義のストリーミング配信	平成24年5月～	薬学部並びに大学院医療薬学研究科の全ての担当科目において、講義室にWebカメラを持ち込み、講義の様子を動画配信サイトUstreamを経由してストリーミング配信している。	
授業評価	平成25年8月	平成25年度前期「薬理学Ⅳ」の授業評価において、「聞いていて面白い。人としてもあこがれの先生である」「毎回の授業を配信していて、とても良いと思います」など、高い評価を得ている。	
授業のストリーミング配信に対する評価	平成25年8月	平成25年度前期「薬理学Ⅳ」の最終回で、授業のストリーミング配信に対するアンケートを行い、学生からの評価を調査したところ、「勉強したい方（学生に限らず）に情報提供されていて、とても良いと思います。学生としても、聞き逃しのフォローになり助かります。」「欠席をしても授業の内容を把握できるため、非常に役に立っています。ありがとうございます。」など、高い評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
「新薬理学テキスト第3版」（佐藤進編集、共著、廣川書店）を出版	平成23年3月	「抗炎症薬・抗リウマチ薬・痛風治療薬」の章を担当。炎症の成因と病態、それに対するステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬の薬理作用・作用機序・有害作用を解説。リウマチ並びに痛風の成因と病態、それらに対する抗リウマチ薬、痛風治療薬の薬理作用・作用機序・有害作用を解説。	
Powerpoint資料の作成	平成16年4月～	全ての講義において、Powerpointによる資料の作成を行い、学生に配布している。また、著作権上の問題のない資料は、Webならびにe-ラーニングサイトにおいて公開し、学生がダウンロードして使用できるようにしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
「薬理学の授業におけるインターネット配信の試み」	印刷中	「就実論叢」第43号にて発表。Ustreamを使用した授業のインターネット配信が、学生の能動的学修・自宅学習を促進するか否かを知るために、学生にアンケートを行い、結果を分析したものである。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
公益財団法人大学基準協会大学評価分科会委員	平成23年4月～	大学基準協会大学評価分科会の委員を委嘱されて以降、毎年1つの大学を担当し、担当大学の第三者評価を行っている。	
就実大学教務部長	平成25年4月～	教務部長として、本学における教務活動全般に対して責任を負っている。	
就実大学アクティブラーニングワーキンググループ委員長	平成25年9月～	就実大学におけるアクティブラーニングの推進のために組織されたワーキンググループの委員長として活動しており、これまでに、アクティブラーニング実態調査、各種セミナーへの参加などの活動を行っている。	
「平成25年度学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー」に参加	平成25年10月	休退学・不登校学生への理解と支援をテーマとした日本学生支援機構主催、文部科学省・日本学生相談学会共催のセミナーに参加及び報告した。	

「教育サロンin岡山 教員×職員ワークショップ『学生と向き合う授業とは』」への参加	平成25年11月	学生の能動的学修の推進するためのセミナー（大学コンソーシアム岡山、岡山理科大学共催）に参加及び報告した。	
私立薬科大学協会教務部長会議への参加	平成25年12月	私立薬科大学協会の教務部長会議に参加及び報告を行った。	
<b>Ⅱ 研究活動</b>			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）薬理学の授業におけるインターネット配信の試み	単著	平成26年3月発行予定	就実論叢（印刷中）
（論文）Is wet swab superior to dry swab as an intranasal screening test?	共著	平成25年11月	J. Intensive Care 2013 1:10 doi:10.1186/2052-0492-1-10
（論文）Adrenergic stimulation-released 5-HT stored in adrenergic nerves inhibits CGRPergic nerve-mediated vasodilatation in rat mesenteric resistance arteries.	共著	平成24年8月	Br. J. Pharmacol., 166:2084-2094
（論文）Pharmacodynamic characterization of nitric oxide-mediated vasodilatory activity in isolated perfused rat mesenteric artery bed.	共著	平成23年9月	Biol. Pharm. Bull., 34: 1487-1492
（論文）The Akt-nitric oxide-cGMP pathway contributes to nerve growth factor-mediated neurite outgrowth in apolipoprotein E knockout mice.	共著	平成23年8月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 338: 647-700
（著書）新薬理学テキスト（第3版）（佐藤進編、分担執筆）	共著	平成23年3月	廣川書店（東京）
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>			
昭和56年1月～	日本薬理学会会員、学術評議員（平成2年～）、代議員（平成24年）		
昭和57年2月～	日本薬学会会員、広報委員（平成19～21年）、学術雑誌編集委員（平成24年～）		
昭和57年4月～	日本アレルギー学会会員		
平成元年4月～	国際アレルギー学会会員		
平成8年10月～	日本ヒスタミン学会会員、世話人（平成16～19年）、幹事（平成19年～）、代表幹事（平成24年）		
平成16年12月～	創薬薬理フォーラム岡山会員、世話人（平成16年12月～）		
平成23年4月～	公益財団法人大学基準協会大学評価分科会委員		

- 【注】
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 小山真也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
用語集の活用		平成15年度以降	講義に現れた専門用語の解説集を学内ネットに公開し自習の便に当てている。
教材、試験問題の公開		平成15年度以降	当該年度と前年度の講義ノート、参考資料、前年度の試験問題と解答例ならびに解説を学内ネットに公開している。平成18年度以降は、著作権に問題のない物については学外からアクセス可能なイーラーニングシステムのブラックボードにも公開して講義の予習、復習を効率化、学生の情報リテラシーの向上を図った。
オンライン自習システムの積極的利用		平成17年度以降	医学映像社のオンデマンド視聴覚教材ビジュアルラーンとアルプ社の自習システム薬学学習21を授業に積極的に取り入れている。
電子掲示板の活用		平成18年度以降	イーラーニングシステムのブラックボードブラックボードは学生に認証が厳密に行われるので、医療倫理学のディベートを掲示板上で行い学生の成績評価を試みた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
CBT共用試験問題		平成17年度以降	機能形態学、病態生理学の範囲
卒業試験問題		平成18年度以降	機能形態学、病態生理学、薬物治療学の代謝疾患ならびに腎疾患の範囲
生化学教科書翻訳 (ISBN978-4-621-07801-3 丸善2006)		平成18年度	イラストレイテッドハーパー生化学原書27版 水溶性ビタミンのセクションを 分担
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
なし			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Interaction of POB1, a downstream molecule of small G protein Ral, with PAG2, a paxillin-binding protein, is involved in cell migration.	共著	平成14年10月	J. Biol. Chem. Vol. 277 No. 41 38618-26
Ubiquitin-interacting motifs of Epsin are involved in the regulation of insulin-dependent endocytosis.	共著	平成17年3月	J. Biochem. (Tokyo) Vol. 137 No. 3
低分子量G蛋白質Ralの下流に存在する蛋白質POB1による接着と小胞輸送の制御	共著	平成15年5月	平成13年～14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書-5894
Ent1とEps15に結合する蛋白質POB1による小胞輸送の制御機構	共著	平成18年5月	平成16年～17年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書
III 学会等および社会における主な活動			

～現在に至る	日本生化学会 日本ビタミン学会 日本化学会 日本癌学会 日本分子生物学会 広島県医師会
平成14年8月～現在に至る	広島県立広島漢音高等学校OB合唱団にて活動。平成14年8月(第一回)から平成16年8月(第五回)まで祈念コンサートに参加

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生物薬剤学	職名 教授	氏名 丹羽俊朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書 Powerpoint資料の作成		平成25年4月～	講義においてPowerpointなどによる資料を作成し、授業資料を配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Comparison of kinetic parameters for drug oxidation rates and substrate inhibition potential mediated by cytochrome P450 3A4 and 3A5	共著	平成20年1月	Current Drug Metabolism, 9(1), 20-33
Oxidation of endobiotics mediated by xenobiotic-metabolizing forms of human cytochrome P450	共著	平成22年9月	Current Drug Metabolism, 10(7), 700-712
Comparison of cytochrome P450 2D6 and variants in terms of drug oxidation rates and substrate inhibition	共著	平成23年6月	Current Drug Metabolism, 12(5), 412-435
Stereoselectivity of human cytochrome P450 in metabolic and inhibitory activities	共著	平成23年7月	Current Drug Metabolism, 12(6), 549-569
Comparison of cytochrome P450 2C subfamily members in terms of drug oxidation rates and substrate inhibition	共著	平成24年10月	Current Drug Metabolism, 13(8), 1145-1159
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年1月～現在	Xenobiotica	Editorial Board	
平成17年1月～現在	日本薬物動態学会	評議員	
平成20年1月～平成20年9月	日本薬物動態学会	IF取得対応ワーキング委員	
平成20年10月～平成23年12月	日本薬物動態学会	DMPK活性化委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。





(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 臨床診断学	職名 教授	氏名 中西 徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 放射性医薬品管理者、調剤担当者の育成と国試対策 遺伝子の基礎と最新の医療に関する専門的でわかりやすい説明と国試対策 分子標的医薬品、遺伝子検査、オーダーメイド医療、再生医療などの解説と国試対策 放射性同位元素の安全取扱いに関する実習と放射性医薬品、核医学診断、物理的画像診断についての解説 テキストに基づいた英文和訳、文法や専門用語の実践的指導、国際的知識と感覚の育成	平成16年— 平成17年— 平成23年— 平成16年— 平成16年—	薬品放射化学（二年度前期） 遺伝子工学（三年度前期） 医療化学（五年度後期） 放射化学実習（二年度後期） 基礎薬学英語（二年度後期）	
2 作成した教科書、教材、参考書 放射性同位元素 (RI) の安全取扱法（実習書） 分子細胞生物学辞典（新版） 日本アイソトープ協会主催放射線業務従事者教育訓練講習会テキスト 「放射化学」教科書の作成	平成16年— 平成20年 平成23年— 平成25-26年	就実大学にて毎年10月—11月に実施する放射化学実習のためのテキスト 東京化学同人より刊行 Sox転写因子に関する項を執筆 講習会のためのテキスト 放射線の安全取扱いに関する項を執筆 広川書店より刊行予定（平成26年）編集委員長として全体を統括、執筆中	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 CBT共通試験問題作成と実施 OSCE面接試験の実施 日本理科教育学会における発表	平成19年— 平成19年— 平成22年8月—	就実大学薬学部 就実大学薬学部 理科教育方法やキャリア教育方法について全国大会及び地方会にて毎年発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） アイソトープ使用に関わる学内教育訓練 愛知学院大学非常勤講師 岡山大学鹿田地区放射線業務従事者教育訓練講習会講演 出前授業 県立岡山芳泉高校、金光学園高校、県立高梁高校、県立総社高校、県立一宮高校、学芸館高校 他 日本アイソトープ協会主催放射線業務従事者教育訓練講習会講演 岡山県立博物館教育講演会 日本アイソトープ協会主催放射線セミナー講演 キャリア教育講演会開催 産学理科教育推進事業評価者 清心中学校・女子高校 能動的学習に関するFD講演会開催 障害学生支援全国協議会準備会参加	平成16年— 就実大学 平成18年—23年 平成19年 平成19年— 平成23-25年5月 平成22年5月 平成24年5月 平成24年6月 平成24年11月 平成25年9月 平成25年10月	障害防止法に基づく教育訓練（新規、継続） 歯学部口腔細菌学講座（吉村文信教授）におけるエネルギー代謝に関する講義 障害防止法に基づく教育訓練（継続） 遺伝子診断と遺伝子治療、理科キャリア教育（医療系職業の職能）他 中四国放射線作業従事者対象の教育訓練 江戸初期の食文化、稲作、米の遺伝子解析に関する一般向け教育講演 中学高校の理科教員のための放射線セミナー、特に放射線の人体への影響について講義 文部科学省キャリア教育担当官を招き専門家及び一般向けの講演会を開催 企業から招へいた講師による授業と実験を見学、評価した 帝京大学から土持ゲーリー先生を招へいしFD講演会を開催した 左記協議会発足にあたり発起人校として参加することとなり東大での準備会に参加した	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

原著 Expression profiles of BDNF splice variants in cultured DRG neurons stimulated with NGF.	共著（8人中最後）	平成19年	Biochem Biophys Res Commun 362, 682-688
原著 Small interfering RNA targeting CD81 ameliorated arthritis in rats.	共著（6人中最後）	平成21年	Biochem Biophys Res Commun 388, 467-472
原著 Analysis of the nucleotide sequence of genomic DNA from Yokeiji rice preserved in the head part of senjyu-kannon.	単著	平成23年	Foods Food Ingrid J 216, 342-345
原著 Small interfering RNA targeting CD81 decreased the expression of tumor necrosis factor-alpha and synoviolin in SW982 cells.	共著（6人中最後）	平成25年	J Hard Tissue Biol 22, 195-200
原著 Establishment of monoclonal antibodies against CD81 which decreased the proliferation of rat glioma cells.	共著（7人中最後）	平成25年	J Hard Tissue Biol in press
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成10年-	日本軟骨代謝学会評議員		
平成16年-	日本生化学会評議員		
平成19年-	硬組織再生生物学会理事		
平成21年-	岡山県環境放射線等測定技術委員会委員		
平成21年-	日本アイソトープ協会中国四国支部委員		
平成23年9月	硬組織再生生物学会年会開催（会長）		
平成24年9月	日本食品衛生学会年会開催（会長）		
平成25年-	日本食品衛生学会理事		
平成25年9月	おかやまバイオアクティブ研究会シンポジウム開催（実行委員長）		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 病原微生物	職名 教授	氏名 塩田 澄子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回の小テスト実施によるSBOsの到達度の確認	平成19年4月～	毎回、講義開始時10分で前回の講義のSBOsの到達度を確認するための小テストを実施する。	
紙媒体による学生との対話	平成19年4月～	小テストに意見、質問欄を設け、質問や意見に対する回答を書き、返却することで、紙上での学生との対話を図る。	
授業ごとの該当SBOの確認	平成19年4月～	配布資料に当日の講義に対応するSBOを明記することで、授業での重点項目を明らかにし、小テスト用の家庭学習に役立てる。	
講義におけるe-learningの活用	平成20年4月～	テストマネージャー機能でCBT問題を作成して開示している。講義後1週間アクセスできるようにして、小テストの解答もアップして、自己採点できるようにしている。	
各種学会、ICD講習会からの情報およびICT活動の実践を活用した医療現場の最新情報を伝える講義	平成23年4月～	津山中央病院(大学の連携病院)でのICDとしてのICT活動を中心とした医療現場での経験および、ICD講習会で得た最新情報を講義に取り入れている。	
ビデオによる実験手技のデモンストレーションとプロトコルの活用	平成19年4月～	実験の手順をビデオ撮影し、実習講義の際に見せている。手順がよくわかり失敗が少ない。事前にプロトコルを書いて実験に臨むがその意義や書き方を指導する。	
対話演習の補完のための、学生実習でのグループ討議の活用	平成19年4月～	4班の結果を統合しないと最終的な結論が出ない実習を2項目設けている。コミュニケーション能力の向上と問題解決能力の醸成を学生実習でも実施し、対話演習の補完を行っている。	
授業評価	平成25年前期	「微生物薬品化学」では総合評価は3.21(平均3.10)「臨床微生物学」では3.25であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学(廣川書店)	平成19年発刊 平成21年改訂	細菌学特徴と疾患の病原因子、病態、診断、治療を詳細にまとめた。2009年改訂時には上記範囲に加え、「細菌の遺伝子」の項目を大幅加筆、修正した。	
ベーシック薬学教科書シリーズ15、微生物学・感染症学(化学同人)	平成20年発刊	「感染症の予防と治療」を担当した。薬剤師が関わる箇所に重点を置き執筆した。	
化学療法、病原微生物・がんと戦う(南江堂)	平成21年発刊	「微生物感染症」の執筆を担当した。細菌、真菌、ウイルス、原虫による感染症の特徴、治療についてまとめた。感染症予防法についても執筆した	
微生物学-病原微生物の基礎-(南江堂)	平成23年改訂	「抗菌薬の働き」を執筆。抗菌薬の性質、作用機序、耐性機構、耐性菌や臨床における現在の問題点についてまとめた。	
薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム(羊土社)	平成23年発刊	ヒューマニズム・コミュニケーション教科の教科書に就実大学の教養対話演習の取組を例に執筆した。	
就実大学生物系薬学実習IIの実習書	平成19年～	生物系薬学実習IIの教材として、微生物学の分野の執筆を担当した。実習の目的、プロトコルの書き方をはじめ手実習の手順を詳細に示した。	

Powerpoint資料の作成	平成19年4月～	全ての講義においてpowerpointによる資料を作成し配布している。	
実習用ビデオ作成	平成19年～	実習書の手順に従って実験している様子をビデオに撮った。実習時に学生に見本として示す。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 就実大学薬学部における教養対話演習の評価	平成21年1月	「第2回ファーマシューティカルコミュニケーション学会」で発表。教員へのアンケートおよび学生へ満足度調査のより、演習の評価を行った。	
就実大学薬学部における対話演習の評価～実務実習における実践的なコミュニケーションに及ぼす効果の検討～	平成24年11月	「第6回ファーマシューティカルコミュニケーション学会」で、話演習の種々の項目が実務実習でどのように役立ったかを調査した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
入学前教育を担当	平成24年12月、 25年2月	入学前後学習支援委員会委員として、入学前教育の英語および医療人教育について担当した。	
相互参観授業の見学	平成25年6月	薬理学IVの参観、フィードバックした。	
学内FD講演会	平成25年9月	「中教審答申の『主体的に考える力』をどのように授業改善につなげるか」を聴講	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
Anti- MRSA compounds isolated from <i>Laurus nobilis</i>	共著	平成20年9月	Biol. Pharm. Bull. 31(9) 1794-1797
Synergistic effect of kaempferol glycosides purified from <i>Laurus nobilis</i> and fluoroquinolones on MRSA	共著	平成21年3月	Biol Pharm Bull. 32(3):489-492.
内陸地津山で発症した季節外れの <i>Vibrio vulnificus</i> 感染症	共著	平成25年3月	岡山医学会雑誌125:35-39.
Postpartum Breast Abscess Caused by Community-Acquired MRSA in Japan	共著	平成25年9月	Breast feeding medicine.
A Comprehensive Analysis of Systemically Disseminated ST8/non-USA300 type Community-Acquired MRSA Infection	共著	in press	Internal Medicine
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年～現在	日本細菌学会中国四国支部会評議員		
平成19年～現在	岡山市薬剤師会理事		
平成19年～現在	岡山市薬剤師会オープンフォーラム委員会委員		
平成22年～現在	岡山市教育委員会委員(25年9月～委員長)		
平成22年～現在	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員(24年4月～副委員長)		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
就実大学	講座名 人体構成学	教授	洲崎 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
図や写真を多く用いた講義プリントを作成		平成19年4月～	講義プリントを配布した上で、板書でわかりやすく解説している。
e-learning(Black boardシステム)を用いた復習課題を提供		平成19年4月～	毎回の講義内容を、e-learningに掲示された課題で復習することを課している。課題は1週間のみ掲示され、70%以上の得点をもって平常点として評価している。
授業評価		平成25年9月	授業評価において、配布プリントが工夫されていてわかりやすい、複雑な内容も図や丁寧な説明でよく理解できた、という学生の感想を得ている。学生アンケートの評価点も全体平均より0.27ポイント高い点を得ている。
組織標本を用いた正常と病態の理解を深める実習		平成19年4月～	薬の最終ターゲットである細胞を観察し、各臓器の特徴的な機能を担う細胞配列があることを理解する実習を実践している。講義で学んだ臓器について実際に顕微鏡で観察することで、構造と併せて機能についての理解を深めるようにしている。
卒論生の人体解剖実習の実践		平成22年8月～	卒論生の卒業論文実習の一環として、毎年8月に2泊3日で、広島大学医学部解剖実習センターにおいて人体解剖実習を行っている。薬学領域で特に重要な腹部血管系と自律神経系について剖出を行い、理解を深めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
Powerpoint 資料の作成		平成24年4月～	大学院の講義において、Powerpoint資料を作成し配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
薬学教育における組織学実習の実践		平成20年3月	日本薬学会第128年会において口頭で、第113回日本解剖学会総会においてポスターで発表した。
「薬学教育にこそ、組織学実習が有効であろう」		平成21年3月	第114回日本解剖学会総会での「教育シンポジウム」において、シンポジストとして発表した。
卒論生の人体解剖実習の実践		平成22年～	卒論生を指導して行っている人体解剖実習の成果を、毎年解剖学会中国・四国支部学術集会において発表している。これまで、第65回、第66回、第67回、第68回の支部学術集会で発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
卒業特別講義を担当		平成19年～	6年生の卒業特別講義を分担で担当。平成23年からは毎年全150コマのうち7コマを担当している。
入学前教育を担当		平成22年5月	入学前教育として「基礎学習(生物系)のエッセンス、学ぶためのコツ」を担当した。
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) $\gamma$ -tubulin-like molecules in the mouse duodenal epithelium.		共著	平成19年 Histochemistry and Cell Biology. Vol. 128:175-182

(論文) Mechanism of 3-nitropropionic acid-induced membrane permeability transition of isolated mitochondria and its suppression by L-carnitine.	共著	平成20年	Cell Biochemistry and Function. Vol.26:881-891
(論文) Characterization of proteins secreted from a type III secretion system of <i>Edwardsiella tarda</i> and their roles in macrophage infection.	共著	平成21年	Disease of Aquatic Organisms. Vol. 84:115-121
(論文) Effect of risecronate on osteoblast differentiation, expression of receptor activator of NF- $\kappa$ B ligand and apoptosis in mesenchymal stem cells.	共著	平成23年	Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology. Vol.109:78-84
(論文) 男女共同参画活動～日本バイオイメーjing学会での取り組みの紹介～	単著	平成25年	解剖学雑誌Vol. 88:57-60
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成12年～	日本組織細胞化学会 評議員		
平成15年～	日本バイオイメーjing学会 評議員 平成25年～ 理事		
平成17年～	日本バイオイメーjing学会 男女共同参画委員会 委員長		
平成18年～	日本解剖学会 評議員		
平成22年～26年	津山洋学資料館 協議会委員		
平成23年～25年	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	就実大学薬学部	講座名	健康解析学
職名	教授	氏名	末丸 克矢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	小テストの導入 授業評価	平成24年4月～ 平成25年前期	公衆衛生学、健康化学、臨床栄養学の授業において、小テストを組み込み、知識の定着を図っている。 平成25年前期の授業評価（4段階評価）は、「公衆衛生学3.34」、「生命機能のプログラム3.37」と、比較的高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書	Powerpoint資料の作成	平成24年4月～	全ての講義においてpowerpointによる資料を作成し配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	参加・体験を組み込んだ病院実務実習を評価し、その成果を薬学雑誌（128: 1839-1844. 2009）に論文報告した。	平成21年	「理解度試験による参加・体験を組み込んだ病院実務実習の評価-臨床知識と応用能力に対する教育効果の比較」のタイトルで「薬学雑誌128: 1839-1844. (2009)」に誌上発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Involvement of $\alpha 4\beta 2$ nicotinic acetylcholine receptors in working memory impairment induced by repeated electroconvulsive seizures in rats.	共著	平成25年	Epilepsy Res. 104:181-185.
A multi-institutional study analyzing effect of prophylactic medication for prevention of opioid-induced gastrointestinal dysfunction.	共著	平成24年	Clin J Pain. 28:373-381.
Regulatory role of the dopamine and norepinephrine transporters in pentylentetrazol-kindled mice: association with effect of antidepressants.	共著	平成23年	Eur J Pharmacol. 673:33-39.
Population pharmacokinetic analysis of vancomycin using serum cystatin C as a marker of renal function.	共著	平成22年	Antimicrob Agents Chemother. 54:778-782.
Effect of oral mucosal adhesive films containing ginsenoside Rb1 on 5-fluorouracil-induced oral mucositis in hamsters.	共著	平成21年	Eur J Pharmacol. 616:281-286.
III 学会等および社会における主な活動			
日本神経精神薬理学	会員		
日本薬理学会学	学術評議員		
日本緩和医療薬学会	評議員		
日本TDM学会	評議員および日本TDM学会TDMガイドライン策定作成委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生活環境化学	職名 教授	氏名 渡辺雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 非語学系教員による語学教育の実践例  卒業特別講義における問題演習	平成16-18年度  平成18年度～	レベルおよび事前準備の異なる学生すべてに有意義な授業となるよう、グループ分けによる訳と、再度学生各個人による全文訳を行った。授業評価は平均を超えており、特に熱意・意欲、学習しやすい雰囲気、声や話し方などの点で高い評価を得ている。 学習段階の進んだ学生に対して、問題演習を利用した重要点、注意点の解説を行っている。アンケート等で、問題演習がよかった等の高評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 「化学物質による発がん」（新 衛生化学・公衆衛生学 南江堂）  Powerpointと演習問題資料の作成	平成23年3月1日  平成17年10月～	同書は大学の薬学向けの教科書として作成された。 担当専門コア科目「地球環境学」「環境衛生（化）学」ではpowerpointによる資料と演習問題を作成し配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「薬学教育6年制における薬局早期体験学習への取り組み」	平成19年3月29日	日本薬学会第127年会にて共同発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加	平成24年11月23-25日	日本薬学会「第2回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」に参加及び研修報告	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Molecular evidence of the involvement of the nucleotide excision repair (NER) system in the repair of the mono (ADP-ribosyl)ated DNA adduct produced by pierisin-1, an apoptosis-inducing protein from the cabbage butterfly.	共著	平成19年	Chem. Res. Toxicol., 20, 694-700.
(論文) Effects of introduction of hydrophobic group on ribavirin base on mutation induction and anti-RNA viral activity.	共著	平成20年	J. Med. Chem., 51, 159-166.
(論文) Threshold-like dose-response relationships in a modified linear-no-threshold model: application of experimental data and risk evaluation.	単著	平成20年	Genes Environment., 30, 17-24.
(論文) Extrapolation of the animal carcinogenesis threshold to humans.	共著	平成20年	Genes Environment., 30, 160-165.
(論文) Nucleotide sequence and chromosomal localization of the gene for pierisin-1, a DNA ADP-ribosylating protein, in the cabbage butterfly <i>Pieris rapae</i> .	共著	平成23年	Genetica, 139, 1251-1258.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年3月～	日本気象予報士会岡山支部長		
平成20年1月～平成23年12月	日本環境変異原学会編集委員		
平成23年	全国いきいき公衆衛生の会 サマーセミナーinおかやま(2011. 8. 6)実行委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体情報学	職名 教授	氏名 森 秀治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 問題解決型・課題探求型学習への取り組み  理解度・習熟度向上のための取り組み  授業評価アンケート	平成13年～  平成元年～  平成10年～	問題自己解決能力，即ち 学生自らが問題を提起しそれを解決する過程で自己学習能力ならびに問題解決能力を培う事を目的とした演習に毎年取り組んでいる。  講義の理解度・習熟度の向上のために，①講義毎の学習到達目標の明示，②重点キーワード等を示した資料の作成と配布，③コアカリキュラムを意識した授業展開，④オフィスアワー設定，⑤理解度確認のための小テストの実施などを実施している。  主な担当科目に対して，受講生からの授業評価を受けている。総合評価では，おおむね平均よりも高い評価が得られており，今後もより理解度の深まる講義の実施に向けて充実させていきたいと考えている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用プリント教材の作成	平成元年～	既存のテキストではカバーしきれない進歩が早い領域（薬理学，薬物治療学）を担当しているため，それに適応できるように内容に応じて個別にプリント教材（イラストを多用し，視覚に訴えるもの）を作成・配布し，学生の理解度，習熟度の向上に努めている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 医学と薬学の連携による新たな教育方法の実践  FD講演会への取り組み  認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの取り組み  大学設置分科会専門委員会資格判定	平成16年～  平成18年～  平成18年  平成12年8月 平成13年8月 平成23年8月	薬学と医学の連携による新たな教育方法の実践の場として，岡山近隣の大学院生・卒業生が主体となって創薬や新しい薬物治療法，病態解析などについて相互に活発な討論を行う研究会の運営に携わっている。  学内FD講演会に積極的に参加することにより，大学における教育の質の向上と保証についての理解を深めている。  認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを修了し，円滑な事前学習や実務実習ができるよう研修を行った。  岡山大学大学院自然科学研究科 マル合 岡山大学大学院医歯学総合研究科 マル合 就実大学大学院医療薬学研究科 マル合	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Role of cell-cell interactions in high mobility group box 1 cytokine activity in human peripheral blood mononuclear cells and mouse splenocytes.	共著	平成25年	Eur J Pharmacol 701 : 194-202

Peroxiredoxin family proteins are key initiators of post-ischemic inflammation in the brain.	共著	平成24年	Nature Med 18: 911-917
Anti-high mobility group box-1 antibody therapy for traumatic brain injury.	共著	平成24年	Annal Neurol 72: 373-384
Anti-HMGB1 monoclonal antibody protects blood-brain barrier from ischemia-induced disruption.	共著	平成23年	Stroke 42: 1420-1428
Ciprofloxacin inhibits advanced glycation end products-induced adhesion molecule expression on human monocytes.	共著	平成22年	Br J Pharmacol 161 : 229-240
<b>Ⅲ 学会等および社会における主な活動</b>			
現在所属している学会	日本薬学会（正会員，中国四国支部会 大学幹事） 日本薬理学会（評議員） 日本生化学会（正会員） 日本分子生物学会（正会員） 日本臨床検査医学会（正会員） 日本臨床化学会（正会員，中国四国部会幹事） 日本ヒスタミン学会（幹事）		
平成18～23年	J Pharmacol Sci 誌 Editorial advisory board		
平成16年	The 2nd Phizer Science and Research Symposium, Excellent Award 受賞		
平成21年	平成21年度 全国発明表彰 「21世紀発明奨励賞」 受賞（発明協会，総裁：常陸宮殿下） 受賞名「抗体医薬による脳梗塞の新規治療法の発明」		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 疾病薬学管理学	職名 教授	氏名 江川 孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） Problem-Based Learning (PBL)形式による処方解析演習  臨床シミュレーターを用いたPBL型演習	平成17年度以降  平成20年度以降	代表的な疾患の処方せんについて、教員がファシリテーターとして機能するSmall Group Discussion (SGD) を行い学生の問題志向能力を磨いている。  臨床シミュレーターにて代表的な医薬品の有害事象を再現し、PBL形式にて処方解析演習を行う。	
2 作成した教科書、教材、参考書  薬剤師・看護師・医薬系学生のための臨床医薬略語集  新編 プログラム学習による病態と処方解析	平成22年12月  平成25年3月	本書は医療現場にて薬剤師・看護師・医薬系学生が目にする臨床医薬略語をもとになる表記やことばの意味をまとめた書である。  本書は代表的な疾患に対する処方例について、疾病の成り立ち、処方された薬剤の処方意図および服薬指導のポイントなどを解説した書である。模擬薬局実習の処方解析演習の教材として利用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等  Simulation Training in Pharmaceutical Education: Managing a Problem-Based Learning to Maximize Educational Effectiveness  Using medical simulators to increase understanding of physical assessment for pharmacy students	平成23年6月  平成25年9月	The 11th Asian Conference on Clinical Pharmacy, plenary session (Manila, Philippine) にて、対話型シミュレーターを活用したコミュニケーション演習の方略と学習者の満足度について講演した  The 13th Asian Conference on Clinical Pharmacy, plenary session (Vietnam, Hai-phong) にて、医療用シミュレーターを活用したPBL演習の方略とその学習効果について講演した	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）  Eラーニングシステムの実務実習への活用  医療用シミュレーターのPBL演習への統合	平成19年2月以降  平成24年4月以降	本学のLMSのブラックボードを使用し、実務実習中にコア・カリキュラムに対応した自己評価を形成的に行い、学生の到達度を測定している。  医療用シミュレーターを活用したPBL演習の方略を5年次のアドバンスト科目に導入して実施している	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
薬剤師・看護師・医薬系学生のための臨床医薬略語集	共著	平成22年12月	医歯薬出版, 東京
新編 プログラム学習による病態と処方解析	共著	平成25年3月	廣川書店, 東京
Vascular dysfunction and impaired insulin signaling in high-fat diet fed ovariectomized mice	共著	平成23年7月	Microvascular Research, 82, 171-239
Concurrent Administration of Rituximab and CHOP Chemotherapeutic Agents for Outpatients with CD20-Positive Lymphoma.	共著	平成24年12月	Anticancer Agents Med Chem, 12, 829-834
The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Disaster: A repost on volunteer activity for radioactivity screening of temporary returnees to the evacuation zone.	共著	平成25年7月	Genes and Environment, 35, 73-79

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
昭和63年6月～	日本薬理学会会員（平成18年度より学術評議員）
平成6年6月～	日本病院薬剤師会会員
平成15年4月～	日本医療薬学会会員
平成24年12月～	日本薬学会会員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 免疫化学	職名 准教授	氏名 石井紀郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 講義内容のレポート内容のWeb上での公開 マルチメディア機器を用いた授業 授業評価	平成20年4月～ 平成20年4月～ 平成25年8月	講義内容（レポート）の考察材料をweb上で公開している。 講義「基礎免疫学」「臨床免疫学」その他全てにおいて、図や写真をスライドで示し、DVDを併用して学生の理解の向上の一助としている。 授業評価において、わかりやすい。復習しやすい。などの点で高い評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 「わかりやすい免疫学」を出版 Keynote資料の作成	平成20年2月 平成20年4月～	免疫学関連講義において利用するための教科書を作成した。難解な学問を効率的に理解できるよう工夫したものである。 全ての講義においてKeynote (Mac) による資料を作成しプレゼンテーションしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「就実大学薬学部における対話演習の評価：実務実習における実践的なコミュニケーションに及ぼす効果の検討」 「SP参加型演習と薬学生の共感的態度」		日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第6回大会（平成24年12月、福山市）にて発表、1年次学生によるコミュニケーション能力開発がどのように効果を上げているかをアンケート調査をもとに探ったものである。 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第6回大会（平成24年12月、福山市）にて発表、3年次学生によるSP（模擬患者）との医療面接ロールプレイの有用性について探ったものである。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 編入試験問題（生物学・英語）作成及び評価を担当	平成20年～	編入試験問題委員として問題作成と採点を担当	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文)SV40調節領域のPCR増幅時における偽陽性産物出現要因の解析	共著	平成26年2月	就実大学薬学雑誌第1巻
(論文)就実大学薬学部における早期体験学習の実施と評価	共著	平成24年2月	就実大学、就実論叢第41号
(著書)わかりやすい免疫学	共著	平成20年2月	廣川書店
(論文)維持透析患者における血漿総ホモシステイン濃度とMTHFR遺伝子多型の関連	共著	平成15年	重井医学年報25号
(論文)透析患者における血管内皮型一酸化窒素合成酵素（NOS3）遺伝子多型とankle-brachial index（ABI）の検討	共著	平成14年	重井医学年報24号
III 学会等および社会における主な活動			
現在に至る	日本免疫学会、日本分子生物学会、日本薬学会		


- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子構造化学	職名 准教授	氏名 増田 和文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） e-ラーニングシステムの利用  マルチメディア機器を用いた授業  授業評価	平成20年4月～  平成20年4月～  平成20年4月～	練習問題の解答や採点結果、講義に関する通知をe-ラーニングシステムを使って連絡、公開している。 講義「化学の世界と歴史」において、図や写真をスライドで示し、ビデオを見せるなど学生の理解の向上の一助としている。 講義「化学の世界と歴史」において、「化学に興味がわいた」「わかりやすかった」などの点で高い評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料の作成	平成20年4月～	全ての講義においてWordによる資料を作成し配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 入学前後教育を担当  外部ワークショップに参加	平成22年4月～  平成25年10月	入学前後教育として「基礎学習（物理化学）のエッセンス、学ぶためのコツ」を担当している。 日本薬学会 第3回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ 「学習成果基盤型教育 (Outcome-based education) に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」に参加し、報告書を作成した。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Structural requirements for potent direct inhibition of human cytochrome P450 1A1 by cannabidiol: Role of pentylresorcinol moiety	共著	平成25年6月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 36(7), 1197-1203
(論文) Characterization of marmoset CYP2B6: cDNA cloning, protein expression and enzymatic functions	共著	平成25年4月	Biochemical Pharmacology, 85(8), 1182-1194
(論文) Regio- and stereoselective oxidation of propranolol enantiomers by human CYP2D6, cynomolgus monkey CYP2D17 and marmoset CYP2D19, Chemico-biological interactions	共著	平成23年2月	Chemico-biological interactions, 89(3), 146-152
(論文) The mechanism causing the difference in kinetic properties between rat CYP2D4 and human CYP2D6 in the oxidation of dextromethorphan and bufuralol	共著	平成21年3月	Biochemical Pharmacology, 77(5), 920-931
(論文) The roles of amino acid residues at positions 216 and 219 in the structural stability and metabolic functions of rat cytochrome P450 2D1 and 2D2	共著	平成20年3月	Chemico-biological interactions, 172, 11-21
III 学会等および社会における主な活動			

平成21年9月	平成21年度文部科学省科学研究費補助金(研究成果公開促進費)事業 第18回日本バイオイメーjing学会 学術講演会公開講座： 明日をになう君たちへ ～バイオイメーjingと理工系分野へのいざない～ 演題：「体の中で活躍する分子を見る－薬物代謝酵素CYPの活性中心とは－」

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体分子科学	職名 准教授	氏名 平岡 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
授業評価		平成22年	薬学部専門科目「生化学I」の授業評価において、総合評価が5点満点で4.10であった。このときの学内の平均値は3.55であった。薬学部開設後10年間で学内平均値を下回ったことは一度もない。
2 作成した教科書、教材、参考書			
「NEW 生化学 第2版」 廣川書店		平成18年4月	薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠した改訂版として廣川書店より刊行された教科書である。「II.5 タンパク質」の項、P114-P163を執筆担当し、薬学部専門科目、生化学Iの教科書として採用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
就実大学における教養対話演習—「うらしま太郎」を用いた高齢者疑似体験の取り組み—		平成21年	第129回 日本薬学会年会（京都）
就実大学薬学部における教養対話演習の評価 - KJ法、ディベートを組んだ演習を行って		平成21年	第2回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会（東京理科大）
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Gene expression profiles of necrosis and apoptosis induced by 5-fluoro-2'-deoxy-uridine	共著	平成20年	Genomics 2008 Vol.92, No.1 (9-17)
Antimalarial activity of endoperoxide compound 6-(1,2,6,7-tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol.	共著	平成23年	Parasitology Intertional, 60, 270-3
Antimalarial Activity of 6-(1,2,6,7-Tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol (N-251) and Its Carboxylic Acid Derivatives	共著	平成23年	Parasitology Intertional 60, 488-92
Plasmodium falciparum endoplasmic reticulum-resident calcium binding protein is a possible target of synthetic antimalarial endoperoxides, N-89 and N-251	共著	平成24年	Journal of Proteome Research October 12, 2012 Volume 11, Issue 11 Pages 4765-5108
Adenosine Kinase is a Key Determinant for the Anti-HCV Activity of Ribavirin	共著	平成25年	Hepatology. 2013 Oct;58(4):1236-44
III 学会等および社会における主な活動			
薬物乱用教室講師	2011年～2013年 岡山市立石井中学校、岡山県立岡山東商業高校		
学校薬剤師	2011年～2013年 岡山市立石井中学校、岡山県立岡山東商業高校		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物療法設計学	職名 准教授	氏名 小野 浩重
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 理解力を把握した授業  重要ポイントを認識した授業  講義内容のWeb上での公開	平成20年4月  平成22年4月～  平成24年4月～	「生命機能のシステム」の講義で、レポート課題に加えて理解できなかった点や疑問点を自由記述させ、次回の講義で補足説明を行っている。  「医療薬学」の講義で毎回小テストを行うほか、項目毎に国試の過去問題を紹介し、学生のモチベーションを高めるよう工夫している。  講義で用いた資料をweb上で公開している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 「薬剤師・看護師・医療系学生のための臨床医薬略語集」医歯薬出版株式会社を出版 栄養薬学・薬理学入門  新編 プログラム学習による病態と処方解析「消化器疾患」	平成22年12月  平成23年3月  平成25年3月	医療用医薬品、疾患、検査、医学的手技等の専門用語の略語集である。  薬と食物に関するコラムを随所に盛り込み、薬学と栄養学の橋渡しになるように構成されている。  薬剤師国家試験のガイドラインにある疾患と病態を中心に取り上げた処方解説書であり、Q&A形式を取り入れ、学生の視点に立った構成である。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「TPN事前実務実習の取り組みと課題」  「コミュニケーション能力の向上を目指した薬学対話演習の取り組みと評価」  「治験同意説明文書の作成演習を用いた文書表現力の評価法に関する検討」  「振り返りシートを活用した治験同意説明文書の作成演習とその評価」	平成20年9月  平成21年10月  平成22年11月  平成23年10月	第18回日本医療薬学会年会にて発表、無菌操作の基本的技能の修得において、ビデオ学習やチェックシートの活用が有用であることを発表した。  第19回日本医療薬学会年会にて発表、初回面談、OTC・サプリメント、禁煙指導をテーマとした演習で95%の学生から満足度が得られた。  第20回日本医療薬学会年会にて発表、実習講義に演習形式で治験同意説明文書の作成及び理解度テストを導入し、学習効果・評価方法を検討した。  第21回日本医療薬学会年会にて発表、治験スケジュールの文書作成演習において客観的評価における振り返りシートの有用性を評価した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップ  薬系国立大学・日本私立薬科大学協会の教科検討委員 共用試験（OSCE）評価者及びモニター  就実大学薬学部地域連携教育講座（卒後教育）を担当  「薬物乱用防止教育」講師  共用試験（OSCE）対策委員長	平成18年9月～  平成19年4月～  平成19年12月～  平成21年6月～  平成21年7月～  平成21年9月～	「薬剤師のためワークショップ中国・四国in岡山」にタスクフォースとして参加している。  薬事関係法規（2007～2009）、医療薬学（2010～）、薬剤学（2011～）教科検討委員  岡山大学でのOSCE評価者及び広島大学、岡山大学でのOSCEモニターとして事前・当日審査を行い、その結果を薬学共用センターに報告した。  本学卒業生及び薬剤師全般を対象とした研修会を年5回開催し、講師依頼や日本薬剤師研修センターへの研修会開催申請、報告を行っている。  薬物乱用防止教育を毎年、岡山城東高等学校で実施している他、就実中学校（H22）、玉島高等学校（H24）で実施した。  実習センターの他教員とともにOSCEを考慮した実務実習事前学習を実施し、OSCE直前の総合演習では実践形式の演習を行っている。	

岡山県薬剤師会薬局実習特別委員会委員	平成23年9月～	本学薬学部学生及び他大学学生の5年次薬局実習配属先の決定、薬局実習の円滑な実施をに向けて薬剤師会との連携を図っている。
学会誌のレフリー	平成24年3月	ISRN Pharmaceuticalsの糖尿病ラットにおける抗糖尿病活性及び毒性関連論文のレフリーを担当した。
「在宅患者の訪問薬剤管理指導等に係る実態調査」	平成24年8月	岡山県薬剤師会からの委託を受け、訪問薬剤管理指導実施薬局、対応可能薬局の調査を実施した。

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Radical scavenging activity of bisbenzylisoquinoline alkaloids and traditional prophylactics against chemotherapy-induced oral mucositis. Journal Clinical Pharmacy and Therapeutics	共著	平成21年	J Clinical Pharmacy and Therapeutics, 34
(著書) 薬剤師・看護師・医療系学生のための臨床医薬略語集	共著	平成22年12月	医歯薬出版株式会社
(著書) 栄養薬学・薬理学入門	共著	平成23年3月	講談社
(論文) Intestinal patches with an immobilized solid-in-oil formulation for oral protein delivery	共著	平成24年	Acta Biomaterialia, 8
(著書) 新編 プログラム学習による病態と処方解析	共著	平成25年3月	廣川書店

## III 学会等および社会における主な活動

昭和63年5月～	日本病院薬剤師会会員
平成4年2月～	日本薬学会会員
平成5年4月～	日本薬剤師会会員
平成9年5月～	日本DDS学会会員
平成9年12月～	日本医療薬学会会員
平成15年5月～	岡山県病院薬剤師会会員
平成15年5月～	日本医療薬学会認定・指導薬剤師
平成16年4月～	岡山県薬剤師会会員
平成17年4月～	広島県病院実務実習調整委員
平成18年9月～	「薬剤師のためのワークショップ中国・四国in岡山」タスクフォース
平成19年12月～	薬学共用試験（OSCE）評価者
平成22年4月～	岡山市学校薬剤師会役員
平成22年4月～	岡山県薬剤師会在宅介護特別委員会委員
平成22年12月、平成24年12月	薬学共用試験（OSCE）モニター
平成23年4月～	岡山県薬剤師会薬局実習特別委員会委員
平成24年11月～	岡山県保健福祉学会
平成25年3月～	岡山プライマリ・ケア学会
平成25年9月～	日本くすりと糖尿病学会会員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 応用薬学	職名 准教授	氏名 平本 一幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 演習問題の活用		平成16年度以降	衛生化学Iでは栄養化学に関する内容を、衛生化学IIでは食品衛生に関する内容を講義している。薬剤師国家試験科目でもあり、要点を整理し、他教科との接点が変わりやすいよう説明を工夫している。また、毎時間、演習問題を行うことで理解度の向上に取り組んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学CBT対策問題集 第94回薬剤師国家試験問題解答・解説 薬学CBT対策問題集 コアカリマスター「健康と環境」		平成20年 平成21年 平成21年 平成21年	日本医薬アカデミー 共著 評言社 共著 薬塾 共著 薬学ゼミナール 共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 薬学共用試験（CBT）問題精選委員 薬学共用試験大学システム委員			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Is nitric oxide (NO) an antioxidant or a prooxidant for lipid peroxidation?	共著	平成15年	Chem. Pharm. Bull., 51, 1046-1050
Protective effect of supplementation of fish oil with high n-3 polyunsaturated fatty acids against oxidative stress-induced DNA damage of rat liver in vivo.	共著	平成15年	J. Agric. Food Chem., 51, 6073-6079
Effect of supplementation of n-3 polyunsaturated fatty acid on oxidative stress-induced DNA damage of rat hepatocytes.	共著	平成15年	Biol. Pharm. Bull., 26, 1239-1244
Suppression of free-radical-induced DNA strand breaks by linoleic acid and low density lipoprotein in vitro.	共著	平成15年	Biol. Pharm. Bull., 26, 1129-1234
Effects of oxygen on the reactivity of nitrogen oxide species including peroxynitrite.	共著	平成16年	BIOL. Pharm. Bull., 27, 17-23
III 学会等および社会における主な活動			
～現在に至る	日本環境変異原学会、日本薬学会、日本酸化ストレス学会		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 代謝毒性学	職名 准教授	氏名 松尾 浩民
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 講義資料の Web 上での公開 マルチメディア機器を用いた授業	2012 年より  2007 年より	「薬物代謝学」および「医薬品安全性学」における配付資料をイントラネットにて公開している。  「人体の構造と機能」（教養科目）並びに「薬物代謝学」「医薬品安全性学」において、授業内容を視覚的に把握するために DVD やビデオ等の視聴覚資料を用いている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎科学実習・実習書 医療薬学実習 II・実習書	2007 年より  2007 年より	基礎科学実習・実習書書「実習 2 緩衝液をつくってみよう」を作成  医療薬学実習 II・実習書「実習 V 薬物代謝：アニリン $p$ -水酸化酵素活性の測定」を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 学外研修委員を担当 教務関連委員を担当	2007 - 2009 年  2009 - 2012 年	特に平成 21 年は委員長として研修旅行の企画・運営に携わった。  履修指導、時間割調整、研究室配属調整、単位認定等、教育活動上の重要事項に携わった。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Role of LBPA and Alix in multivesicular liposome formation and endosome organization.	共著	2004 年	Science, 303, 531-534
Functional characterization of adenosine transport across the BBB in mice.	共著	2005 年	Int. J. Pharm., 290, 37-44
D-threo-1-phenyl-2-decanoylamino-3-morpholino-1-propanol alters cellular cholesterol homeostasis by modulating the endosome lipid domains.	共著	2006 年	Biochemistry, 45, 4530-4541
pH-dependent formation of MCB-like closely stacked multilamellar vesicles of GM1/Bis(monoacylglycero)phosphate mixed membranes.	共著	2007 年	Biophys J., 92, L13-L16
日本薬学会第 25 年会報告 ～薬剤学の新たな潮流を～	共著	2010 年	薬剤学, 70, 281-283
III 学会等および社会における主な活動			
2010 年	日本薬学会第 130 年会・大会組織委員		
2010 年	第 47 回日本薬学会中四国支部学術大会・大会組織委員		
2010 年	日本薬学会第 25 年会・大会組織委員および優秀発表者選考委員会委員長		
2013 年	徳島リポソーム研究会 特別シンポジウム・組織委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 統合生物学	職名 准教授	氏名 工藤 季之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 講義内容のWebでの公開 e-learningシステムを利用した自習教材		平成19年4月～ 平成21年4月～	講義で使用したPowerPoint資料等を全てe-learningシステムで公開している。 講義内容の理解度を確認するためのミニテストをe-learningシステムで提供している。
2 作成した教科書、教材、参考書 実習書「基礎科学実習」 実習書「生物系薬学実習Ⅱ（遺伝子・微生物学）」 Powerpoint 資料の作成 「新入生のための大学でのまなび入門 [改訂版]」		平成19年4月～ 平成20年4月～ 平成20年4月～ 平成24年4月～	「実習レポートの書き方」と「細胞分裂と小さい生き物の観察」を作成した。 遺伝子実習に関して全般を作成した。 講義においてpowerpointによる資料を作成している。 「学習の3要素」と「実習レポートの書き方」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 入学前教育、初年次教育を担当 教養教育改革WGを担当		平成21年4月～ 平成25年9月～	学部内委員として、入学前準備教育、入学前セミナー、プレースメントテスト、初年次教育を担当している。 全学の教養教育改革WGのメンバーとして、新規の初年次教育カリキュラムの構築を担当している。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Corticotrophin-releasing hormone or dexamethasone regulate rat proopiomelanocortin transcription through Tpit/Pitx-responsive element in its promoter.	共著	平成19年7月	J. Endocrinol. 193: 279-290.
(論文) Knockdown of the bovine prion gene PRNP by RNA interference (RNAi) technology.	共著	平成19年7月	BMC Biotech. 7: 44.
(著書) 翻訳「バイオエレクトロニクス～理論から応用まで～」	共著	平成20年8月	株式会社NTS
(論文) Knockdown of severe acute respiratory syndrome corona virus (SARS-CoV) genes by small interfering RNA (siRNA) using siRNA-expression vectors and synthetic double-stranded RNA (dsRNA) as a model for siRNA design.	共著	平成21年2月	Genes and Environ. 31: 15-23.
(論文) Identification of mammalian Pit-1w, possibly involved in spermatogenesis in mice.	共著	平成23年9月	Gen Comp Endocrinol. 173: 289-294.
III 学会等および社会における主な活動			
平成18年5月～平成25年8月	岡山県技術士会理事		
平成19年5月～現在	公益社団法人日本技術士会生物工学部会中国地区担当幹事		
平成21年1月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部修習技術者支援委員会委員		
平成23年6月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部環境部会副部長		
平成25年8月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部幹事		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子機能生化学	職名 准教授	氏名 守谷 智恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
小テスト	平成23年10月～	「生体情報化学」において、前回の内容を確認するために、毎回講義の初めに小テストを行っている。	
e-learningを用いた学習	平成20年10月～	「生体情報化学」において、復習プリントを掲載し、学生の理解向上の一助とした。	
実習レポート	平成24年10月～	「生物系薬学実習I」において、実習レポートをチェックし、問題のある点等を指摘し、再提出をされ、学習の理解向上の一助とした。	
全教員参加による演習	平成20年4月～	「基礎数学」において、担当教員4名が参加する回をもうけ、演習問題の解説、個別指導を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第2回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会	平成21年11月	「就実大学薬学部における対話演習の評価-実務実習における実践的なコミュニケーションに及ぼす効果の検討-」（共同発表）について発表	
日本薬学会 130年会	平成22年3月	「就実大学における早期体験学習の実施とその評価」（共同発表）について発表	
日本薬学会 第131年会	平成23年3月	「早期体験学習の実施とその評価」（共同発表）について発表	
日本薬学会 第131年会	平成23年3月	「就実大学薬学部における教養対話演習の評価」（共同発表）について発表	
第5回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会	平成23年11月	「就実大学薬学部における教養対話演習の評価-社会的スキルの変化と満足度からの検討-」（共同発表）について発表	
第2回医療薬学セミナー「薬剤師のコミュニケーションの能力養成セミナー②」	平成23年12月	医療人マインドを育むために行う就実大学の取り組み～対話演習、SPの活用、薬剤師会との協働～（共同発表）について発表	
第6回日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会	平成24年11月	「SP参加型演習と薬学生の共感的意識」（共同発表）について発表	
第6回日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会	平成24年11月	「就実大学薬学部における対話演習の評価-実務実習における実践的なコミュニケーションに及ぼす効果の検討-」（共同発表）について発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
外部FD講習会に参加	平成24年3月	「FDのための情報技術講習会」に参加	
「教養対話演習」を担当	平成21年～平成24年	対話演習委員として、「教養対話演習」の計画実施に携わった。	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称

Asymmetric dimethylarginine, an endogenous NOS inhibitor, is actively metabolized in rat erythrocytes.	共著	平成24年	Biosci. Biotechnol. Biochem., 76, 1334-1342
就実大学薬学部における早期体験学習の実施と評価 -事前事後のアンケート調査から-	共著	平成23年	就実論叢, 41, 209-219
Hypoxia-Inducible Genes Encoding Small EF-hand Proteins in Rice and Tomato.	共著	平成22年	Biosci. Biotech. Biochem., 74, 2463-2469
Influence of neighbouring base sequences on the mutagenesis induced by 7,8-dihydro-8-oxoguanine in yeast.	共著	平成20年	Mutagenesis, 2, 509-513.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医療実務薬学	職名 准教授	氏名 島田 憲一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） マルチメディア機器を用いた講義	2013年4月～	講義「薬剤管理指導概論」においてクリッカー等を用いた双方向、習熟度確認可能なシステムを用いて講義をしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 「新編 プログラム学習による病態と処方解析」を出版 Powerpoint資料の作成	2013年3月 2008年4月～	講義「処方解析学Ⅱ」において教科書として使用する。ガイドライン等が理解できるよう工夫している（分担執筆） 全ての講義においてpowerpointによる資料を作成し配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「就実大学薬学部における早期体験学習の実施と評価―事前事後のアンケート調査から―」 病院・薬局実務実習における緩和ケア教育とその効果に関する検討	2012年2月 2013年2月	就実論叢第41号にて発表、早期体験学習の満足度や学習のモチベーション向上について調査したものである。 就実論叢第42号にて発表、実務実習が緩和ケア知識や意識に及ぼす影響を調査したものである。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） ICD講習会、健康食品管理士資格制度研修会、がん専門薬剤師集中教育講座等受講	2008年4月～	実務家教員として最新の知識を維持するため定期的に講習会に参加し研修している。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）薬剤師・看護師・医薬系学生のための臨床 医薬略語集	共著	2010年12月	医歯薬出版
（著書）新編 プログラム学習による病態と処方解 析	共著	2013年3月	廣川書店
（論文）実務実習事前学習における対話型シミュ レーターを活用した体系的コミュニケーション演習 の構築	共著	2010年7月	医療薬学第36巻7号
（論文）就実大学薬学部における早期体験学習の実 施と評価―事前事後のアンケート調査から―	共著	2012年2月	就実論叢第41号
（論文）病院・薬局実務実習における緩和ケア教育 とその効果に関する検討	共著	2013年2月	就実論叢第42号
III 学会等および社会における主な活動			
2008年4月～	岡山県薬剤師会薬局委員会委員		
2009年4月～	薬剤師のためのワークショップ中国・四国in岡山事務局		
2010年4月～	薬学教育協議会 病院薬局実務実習中国・四国地区調整機構 事務局長		
2013年4月～	岡山市介護認定審査会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。





(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物動態学	職名 講師	氏名 古林 呂之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・マルチメディア機器を用いた授業		平成22年4月～	講義において、図や写真をスライドで示し、学生の理解の向上の一助とした。
・ミニテストによる演習		平成22年4月～	講義では毎回ミニテスト形式で演習を行い、狭い範囲の積み重ねにより全範囲を理解できるよう工夫している。
・講義内容のWeb上での公開		平成19年4月～	講義で用いた資料をweb上で公開している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・薬剤学計算問題の解き方 物理薬剤学・製剤学改訂版 寺田勝英、高山幸三編（ネオメディカル）		平成24年12月	モデルコアカリキュラムに準拠した内容で、物理薬剤学及び製剤学に関する公式の理解を深めることを目的として分担執筆した。日本薬局方概論及び製剤学の講義の参考図書として使用している。
・薬の生体内運命 中島恵美編（ネオメディカル）		平成22年4月	モデルコアカリキュラムに準拠した内容で「薬動学 [2]」部分を分担執筆した。薬物動態学の講義で使用している。
・講義資料（薬物動態学、日本薬局方概論、製剤学）		平成20年4月～	講義内容をより深く理解できるよう、教科書の内容に新たな情報を加え、書き込み型の資料を作成した。毎年、改訂をしている。
・医療薬学実習テキスト 就実大学薬学部薬剤系編		平成17年5月～	実習の教科書として「日本薬局方製剤試験」、「薬物のタンパク結合率の測定とその解析」を分担執筆した。必要に応じて改訂をして折り、現在は第5版となっている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
In vitro study on the transport of zinc across intestinal epithelial cells using Caco-2 monolayers and isolated rat intestinal membranes.	共著	平成24年4月	Biological&Pharmceutical Bulletine, 36
難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発	共著	平成24年4月	シーエムシー出版
In vitro evaluation of nasal mucociliary clearance using excised rat nasal septum.	共著	平成24年6月	Biological&Pharmceutical Bulletine, 35
In vitro evaluation of the ciliary beat frequency of the rat nasal epithelium using a high-speed digital imaging system.	共著	平成25年6月	Biological&Pharmceutical Bulletine, 36,
非経口投与製剤の開発と応用—次世代型医薬品の新規投与形態の開拓を目指して—	共著	平成25年6月	シーエムシー出版
III 学会等および社会における主な活動			
日本薬剤学会	第27年会組織委員(2012)		
日本薬学会	第130年会組織委員(2010)		


- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	就実大学薬学部	講座名	医薬品合成化学
職名	講師	氏名	山川 直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
SBO到達目標の確認		平成25年4月～	講義「有機薬化学III」において、毎回の講義開始前に前回の内容に関する小テストを実施している。
演習形式の講義		平成25年4月～	講義「有機薬化学III」において、知識の活用方法として演習・解説を実施している。
授業評価		平成25年9月	講義「有機薬化学III」の授業全体の評価において、平均を0.46ポイント上回る高い評価を得た。
2 作成した教科書、教材、参考書			
専門書解説資料の作成		平成25年4月～	全ての講義において、専門書の内容を分かりやすく解説した資料を作成し配布している。
CBT形式問題集の作成		平成25年4月～	講義「有機薬化学III」において、SBOに対応したCBT形式の問題集を作成し配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
大学院教育改革プログラム合同フォーラム		平成20年2月	創薬研究者養成プログラムに関するポスター発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
入学前教育を担当		平成25年4月～	入学前教育として「DVDによる事前学習」を担当
教育改革実施プログラムの提案（学内教育研究助成）		平成25年10月	「対話演習型化学系薬学教育プログラム」を提案
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Comparison of pharmacokinetics between loxoprofen and its derivative with lower ulcerogenic activity, fluoro-loxoprofen.	共著 (筆頭著書)	平成 25年 8月	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> 28巻2号 pp. 118-124
(論文) Synthesis and biological evaluation of derivatives of 2-[2-Fluoro-4-[(2-oxocyclopentyl)methyl]phenyl]propanoic acid: Nonsteroidal anti-inflammatory drugs with low gastric ulcerogenic activity.	共著 (筆頭著書)	平成 24年 3月	<i>J. Med. Chem.</i> 55巻11号 pp. 5143-5150
(論文) Synthesis and biological evaluation of loxoprofen derivatives.	共著 (筆頭著書)	平成 23年 6月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> 19巻11号 pp. 3299-3311
(論文) Properties and synthesis of 2-[2-Fluoro (or Bromo)-4-[(2-oxocyclopentyl)methyl]phenyl]propanoic acid: Nonsteroidal anti-inflammatory drugs with low membrane permeabilizing and gastric lesion-producing activities.	共著 (筆頭著書)	平成 22年11月	<i>J. Med. Chem.</i> 53巻21号 pp. 7879-7882
(論文) Low direct cytotoxicity of loxoprofen on gastric mucosal cells.	共著 (筆頭著書)	平成 22年 3月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 33巻3号 pp. 398-403
III 学会等および社会における主な活動			

平成25年4月～平成26年3月	慶應義塾大学薬学部特任非常勤講師

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医薬品構造解析学	職名 講師	氏名 森山 圭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 実測データを用いた構造解析演習の導入 分子模型を多用した講義 小グループ単位での有機化学補講の開催	平成25年4月～  平成25年10月～  平成25年4月～	「有機構造解析学」の講義において、研究室での実測データを講義資料や演習課題として多く提示し、学生に興味を持ってもらうように努めた。  「天然物化学」の講義において、分子模型を多用して学生が立体化学を理解する一助とした。  有志の小人数グループ（4～8名）に対し、継続的に有機化学補講を行い、学力の向上に努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用分子模型の作成	平成25年5月	広い講義室でも全学生から見られるように、大きなサイズの分子模型を木材等を用いて自作し、各種講義で利用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 相互参観授業の実施	平成25年6月	学部FD委員会からの依頼を受け、教員間の相互参観授業（有機構造解析学）を行った。	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Site-specific biotinylation of RNA molecules by transcription using unnatural base pairs.	共著	平成17年8月	Nucleic Acids Res., Vol. 33, No. 15
Template properties of mutagenic cytosine analogues in reverse transcription.	共著	平成18年12月	Nucleic Acids Res., Vol. 34, No. 22
Cytostatic evaluations of nucleoside analogs related to unnatural base pairs for a genetic expansion system.	共著	平成19年10月	Bioorg. Med. Chem. Lett., Vol. 17, No. 20
Chemistry of bisulfite genomic sequencing; advances and issues.	共著	平成19年11月	Nucleic Acids Symp. Ser., No. 51
Effects of introduction of hydrophobic group on ribavirin base on mutation induction and anti-RNA viral activity.	共著	平成20年1月	J. Med. Chem., Vol. 51, No. 1
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 代謝衛生学	職名 講師	氏名 阿藤 寛明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） マルチメディア機器を用いた授業 講義のペーパーレス化 授業評価		平成15年4月～ 平成24年4月～ 平成25年4月～	全ての講義において図や動画をスライド上に示し、理解の向上の一助とした。 可能な限りペーパーレスとすることを目指し、必要ない部分からオンライン上でのやり取りに切り替え初めている。 全体の評価は比較的良好、筆記試験の結果等より概ね設定したSB0を達成できていると考える。
2 作成した教科書、教材、参考書 「衛生薬学実習」実習書の作成 スライドベースの穴埋め型講義資料の作成		平成19年～ 平成19年～	衛生薬学実習における手順、注意事項、手技の詳細について、簡便に一覧できるもので、実習の理解を深めるべくイラストを入れて解説している。 スライドの講義資料をベースに、要点を穴埋めとした講義資料を作成し、講義中に書き込めるよう工夫したプリントを配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 外部学生FDフォーラム参加		平成25年3月	岡山大学で開催された学生FDサミットに教職員メンバーとして参加した。各大学におけるFD活動の現状とこれまでの成果、学生主体で実行することのメリットと成果である企画講義の満足度等について聞き、教員側と学生側の認識の違い、これからの学生FDのあり方について討論した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) A novel aerobactin utilization cluster in <i>Vibrio vulnificus</i> with a gene involved in the transcription regulation of the <i>iutA</i> homologue.	共著	平成17年8月	Microbiol. Immunol.
(論文) The role of cytochrome p-450 in salt-sensitive stroke in stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	共著	平成20年7月	Hypertens. Res.
(論文) Mitochondrial HMG -CoA synthase partially contributes to antioxidant protection in the kidney of stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	共著	平成22年10月	Nutrition
(論文) trans-translation-mediated tight regulation of the expression of the alternative ribosome-rescue factor ArfA in <i>Escherichia coli</i>	共著	平成23年9月	Gen. Genet. Sys.
(論文) The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Disaster: A Report on Volunteer Activity for Radioactivity Screening of Temporary Returnees to the Evacuation Zone	共著	平成25年5月	Genes and Environment
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年10月	高血圧関連疾患モデル学会		

平成17年8月	日本薬学会

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医薬品情報学	職名 講師	氏名 毎熊 隆誉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
複数の教員による演習体制の強化	平成16年4月～	情報処理演習、教養・薬学対話演習、薬学への招待、医療統計学、医薬品情報学、応用薬学総合演習、実務実習事前学習において、1コマを複数教員が担当することで、学生個々の質問への対応、理解度に応じた指導、グループワークの支援を行っている。	
パソコン教室を用いた実践的演習の実施	平成16年4月～	情報処理演習、実務実習事前学習において、インターネット（Web上のデータベース、CD-Rの解析ソフト）を用いての調査およびデータ解析の実践的な演習を支援している。	
模擬調剤室などを含む病院薬剤実習センターでの実践的実習の実施	平成18年10月～	大学病院の薬剤部規模の施設を備えた病院薬剤実習センターにおいて調剤や注射薬混合などの薬剤師業務を現場に近い施設において実践的な実習を行っている。	
e-learningシステムを用いた対面授業の補完	平成18年10月～	講義資料の配布、講義に関する連絡、自習問題の提示、Web上でのグループ討論などに使用	
高齢者疑似装具、車イスを用いた体験演習	平成20年10月～	高齢者の身体症状を模倣できる装具および車イスに乗車する体験を通して、身体機能が不自由な方の心理を理解する一助になっている。	
模擬患者を積極的に活用した医療面接演習	平成20年10月～	医療コミュニケーション演習において、模擬患者とのロールプレイやフィードバックを取り入れている。	
授業評価	平成25年8月	特に複数教員で担当し、個々の学生に対応している科目や体験型の科目については学生の評価および満足度も高かった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
<病院・薬局実務実習>事前学習テキスト（評言社）	平成18年	薬剤師業務を視覚的に理解できるように写真や図を多く取り入れ、問題解決型の思考を養うための問題を多く盛り込んでいる。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
「病院実習におけるコア・カリキュラムを視覚化したヒト型モデルの作成と有用性」	平成21年	第19回日本医療薬学会（長崎）にて発表した。長期実務実習で用いる学生と指導薬剤師と大学教員の連携強化および到達度の視覚化を目的として作成したモデルである。	
「薬剤師に求められる医療コミュニケーション：現状、課題、そして展望—大学の立場から—」	平成23年	薬学コミュニケーションフォーラム2011（湯布院）にて発表した。薬学教育に求められる医療コミュニケーション教育の現状と展望について、模擬患者参加型の演習を中心に紹介した。	
「就実大学薬学部5年生の意識を変化させる現場薬剤師の講義-アドバンスト科目「漢方薬学」-」	平成23年	第50回中国四国支部学術大会（高松）にて発表した。薬学6年制教育における漢方医学教育の現状と学生の意識について調査した。	
「薬学生の共感的態度に与える模擬患者の影響」	平成24年	第22回日本医療薬学会（新潟）にて発表した。医療コミュニケーション教育において用いられる模擬患者の有用性について、学生の共感性を指標に検証した。	
「SP参加型演習と薬学生の共感的態度」	平成24年	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第6回大会（福山）にて発表した。医療コミュニケーション教育において、模擬患者を積極的に活用した演習を紹介し、その演習の効果を共感性の面から検証した。	

「漢方医学に対する薬学部5年生の意識」	平成25年	第52回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会（松山）にて発表した。薬学6年制教育における薬学生の意識調査、および、漢方専門薬局の薬剤師による講義が学生の意識に対する影響を調査した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
就実大学病院薬剤実習センター運営委員	平成16年～	就実大学の薬剤師教育を担う就実大学病院薬剤実習センター運営委員	
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップおよびビデオ講習会修了	平成18年～平成20年	厚生労働省薬剤師養成事業として認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップおよびビデオ講習会修了	
薬学教育における薬剤師業務実習を担当	平成21年～	薬剤師業務を学ばせる「実務実習事前学習」を担当	
薬学教育協議会フォーラム2010への参加	平成22年	長期実務実習の事前教育としての実務実習事前学習の実施方法や注意点について情報収集した。	
EBM教育に関わる各種ワークショップへの参加	平成18年～	CASP, CASP finding evidence workshop, GATEセミナー, 薬剤疫学の基礎と批判的吟味のワークショップなど定期的に参加し、情報収集している。	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Analysis using fluorescence polarization immunoassay for unbound teicoplanin concentration in serum.	共著	平成20年	J Clin Pharm Ther. 33, 357-363
（論文）Relationship between oral mucositis and high-dose methotrexate therapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	共著	平成20年	Int J Clin Pharmacol Ther. 46, 584-590
（論文）Radical scavenging activity of bisbenzylisoquinoline alkaloids and traditional prophylactics against chemotherapy-induced oral mucositis.	共著	平成21年	J Clin Pharm Ther. 34, 197-205
（論文）Protective effects of amifostine and cyclooxygenase inhibitor against normal human epidermal keratinocyte toxicity induced by methotrexate and 5-fluorouracil.	共著	平成21年	Basic Clin Pharmacol Toxicol. 105, 1-9
（論文）薬学生の共感的態度に及ぼす模擬患者の影響	共著	平成25年	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌. 11, 16-23.
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	岡山県病院実務実習 第8グループ（岡山南地区）担当者		
平成21年12月～現在	NPO法人 響きあいネットワーク・岡山SP研究会 正会員		
平成25年4月～現在	岡山県病院実務実習 第3グループ（岡山南地区）担当者		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体分析化学	職名 講師	氏名 齋藤啓太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
「初年度教育（薬学への招待・教養対話演習）」授業担当		平成19年～	薬学を学ぶ上で必要な基礎的な知識や意識のコミュニケーション能力を育てるため、対話のマナー、プレゼンテーション、ディベート、ロールプレイングなどを取り入れた少人数演習を行った。
「物理系薬学（4科目）」授業担当		平成19年～	物理系薬学に関する講義を分析化学、物理化学の内容を中心に行っている。講義のプリントを作成し、理解を深める
「卒業論文実習」実習担当		平成19年～	5年生より研究室に配属される学生に対する卒業論文研究の指導を行った。学生一人一人に研究テーマを与え、実験及び調査を行って、卒業論文をまとめさせた。また、成果が上がった学生には、学会発表の機会を与え、問題解決能力及びプレゼンテーション能力の向上を図った。
「基礎数学・基礎物理学」授業担当		平成20年～	薬学を学ぶ上で必要となる数学や物理の基本的知識を習得させている。薬学に使われる数学を確実に習得出来るよう、小テスト・演習で理解度を確認しながら、確実に解答できるように指導している。
「基礎科学実習・物理系薬学実習」授業担当		平成19年～	実験器具の正しい使い方や実験への取り組み方からはじまり、物理化学と分析化学の知識を利用した実習を行っている。日本薬局方に記載された方法に従って、分析化学関連の実習では、医薬品成分の定量分析に関する実験を行っている。いずれも薬品の取り扱いや装置・器具の基本操作などを通して、物理化学や分析化学の基本的な考え方を習得させている。また、単に実験結果のみに捉われず、基本操作を確実に身につけ、実験の目的が十分理解できるようにしている。
「医療現場における最先端分析技術」授業担当		平成22年～	本講義はアドバンスト科目であり、現場で活躍している分析技術者や研究者による特別講義を取り入れ、医療現場における分析業務の実際と最先端分析技術の概要を学ぶことにより、薬剤師や薬学部卒業生の職能をより身近なものとし、将来の進路の選択に繋がるようにしている。また、本学に設置されている最先端分析装置に直接触れさせ、モデル分析を通してその機能性や操作性、有効性を実感させるようにしている。
「卒業特別講義」授業担当		平成23年～	国家試験を念頭においた6年間の総まとめの講義である。過去の国家試験問題や要点をまとめたプリントを配布し、国家試験に対応できる学力を身につけさせる講義を行っている。
「教養教育科目：病気と環境」授業担当		平成24年～	公害、事件・事故などによる健康被害、生活習慣病などについて概説し、健康とは何かについて生化学的な講義を行った。また、近年の環境要因の疾病について理解させている。学生評価では、授業全体の評価は5点満点で4.24点（平均3.72点）と高い評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			

講義用プリント, 補助プリント, 演習問題	平成20年～	薬学を学ぶ上で必要となる数学、物理といった基本的知識や薬学の基礎を解説するプリントと練習問題、復習のための小テストをそれぞれ作成した。	
物理系薬学実習 実習書	平成19年～	物理系薬学実習の教材として様式を確立した。同書は現在に至るまで、版を重ねている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ブラックボードの活用 (基礎数学, 基礎物理学, 分子の構造と化学結合)	平成24年～	学生に対し、復習を兼ねた学習教材をブラックボード上に掲載し、学習への一助とした。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Determination of musty odorants, 2-methylisoborneol and geosmin, in environmental water by headspace solid-phase microextraction and gas chromatography-mass spectrometry.	共著	平成20年	J. Chromatogr. A, 1186: 434-437.
Determination of perfluorooctanoic acid and perfluorooctane sulfonate by automated in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-mass spectrometry.	共著	平成22年	Anal. Chim. Acta., 658: 141-146.
Determination of anabolic steroids in human urine by automated in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-mass spectrometry.	共著	平成22年	J. Pharm. Biomed. Anal., 52: 727-733.
Analysis of contaminant polycyclic aromatic hydrocarbons in tea products and crude drugs.	共著	平成23年	Anal. Methods, 3(2): 299-305.
Determination of ochratoxins in nuts and grain samples by in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-mass spectrometry.	共著	平成24年	J. Chromatogr. A, 1220: 1-6.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年6月	日本分析化学会入会		
平成21年4月	クロマトグラフィー科学会入会		
平成21年5月	日本環境化学会入会		
平成21年10月	環境ホルモン学会入会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 病態解析学	職名 助教	氏名 豊村 隆男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
授業内容の充実化	平成19年～	薬剤師国試合格を意識するため、薬学コアカリキュラム準拠の内容で授業内容の組み立ては行っている。しかし、薬剤師実務を行うにあたっては、教科書通りの知識だけでなく、毎年見直しが行われるような治療ガイドラインや、教科書未載の新薬の情報を提供していく必要があり、年度毎に内容の刷新を行っている。	
e-learningの効率的な利用	平成19年～	大学内で整備されているPC教育システムであるe-learningを利用している。主に、在宅で行える小テストを設置しており、問題集のように難度でも知識の確認ができるよう、コンテンツを揃えている。教員側から各学生の習熟度が確認できるほか、学生からも期末試験の出題傾向に対する不安が減ると好評である。	
授業評価の還元	平成19年～	大学内では、前期と後期とに分けて、無記名の授業評価アンケートを行っている。薬剤師国試合格を目指した授業内容なので、難易度や教える範囲の広さについては、変更する事は不可能である。しかし、その広汎な授業内容を少しでも身軽に修得できるよう、授業内容の再構築の一助としている。特に、自由記述欄にある意見は授業内容に対する直接的な意見が多く、よく参考にしている。	
実習における専門教科とのリンク	平成19年～	実習において、人体構成や病態生理の授業を想起させながら、実験で示される事実との関係を理解させるように働きかけた。実験上起こりうるエラーに対する自己処理を積極的に行わせ	
2 作成した教科書、教材、参考書 医療系薬学実習I 実習書	平成19年～	医療系薬学実習Iにて、学生は初めて動物実験を行う事になる。よって、実験手法の説明だけでなく、実験動物等の取扱いや倫理性を記載した内容としている。	
授業内配布資料・プリント	平成19年～	配布資料は、授業内容を補完する内容とするとともに、読み直す事で授業内容を思い出せる仕様とした。薬学コアカリキュラムをベースとした指導内容量が非常に多いため、説明し切れない部分を中心に記載するよう留意している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「薬学教育におけるヒト材料を使用した実習の実践」	平成23年3月	日本薬学会第131年会にて発表。医療系薬学実習で行っている、ヒト血液を用いた実習について、実習内容の紹介と、アンケートによる学生の取り組み意欲・意識調査した結果について報告した。	
「薬学領域における組織学実習の試み」	平成20年3月	第113回日本解剖学会にて発表。医療系薬学実習で行っている、ヒト組織切片を用いた観察実習について、実習内容の紹介と、参加学生の実験レポートの一部紹介を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) FD講演会への参加	平成19年～	就実大学で開催されるFD講演会には必ず参加し、近年の就学生に対する対応方法や、教育の実践法について、第一線の方々のお話を参考にし、自身の教育方に還元できるよう努めている。	
薬学部FD活動 相互授業参観への参加	平成19年～	学部内FD委員会を中心として、教員の教育力の向上を目的とした相互授業参観が行われている。オブザーバー側として参加し、様々な分野でこういった形の授業が行われているか学び、自身の授業にも連携を意識した形の、より良い授業を学生に提供できるよう努めている。	

Ⅱ 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
慢性炎症を基盤とする病態と制御・Chronic inflammation induced-diseases and their targeted-therapy.	共著	平成26年	就実論叢, vol. 43
薬学教育におけるヒト材料を使用した実習の実践・Physiological training utilizing human materials in pharmacy education.	共著	平成26年	就実論叢, vol. 43
生活習慣病の増悪化因子「HMGB1, AGEs-RAGE系」に対する創薬プラットフォーム構築	共著	平成26年	日本薬理学雑誌, vol. 143
薬学領域における組織学実習の試み	共著	平成20年	解剖学雑誌, vol. 83(2)
The $\alpha 3$ isoform of V-ATPase regulates insulin secretion from pancreatic $\beta$ -cells.	共著	平成18年	J. Cell Sci., vol. 119
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成22年10月～	日本薬学会 正会員		
平成11年8月～	日本分子生物学会 正会員		
平成11年5月～	日本生化学会 正会員		
平成22年3月	日本薬学会第130年会 組織委員会委員		
平成21年10月	岩国市立ミクロ生物館「人類の未来を明るくする!? 光るプランクトンたち」展示協力		
平成21年9月	第18回日本バイオイメーjing学会学術集会 協賛委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	就実大学薬学部	講座名	病院薬剤実習センター
職名	助教	高見陽一郎	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） PowerPoint資料の配布方法		平成25年9月～	分担当する講義では、PowerPointで説明を行うが、PowerPoint資料のプリントは講義終了後に配布し、講義中は講義内容をメモを取りながら聴講するよう指導している。これにより、講義内容の復習を促している。
2 作成した教科書、教材、参考書 PowerPoint資料の作成		平成25年9月～	担当するすべての講義でPowerPoint資料を作成し、配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Using medical simulators to increase understanding of physical assessment for pharmacy students 実務実習前の5年生を対象にした医療用シミュレーターによるPBL教育 双方向対話型PBL演習によるフィジカルアセスメント教育の実践		平成25年9月 平成25年9月 平成25年9月	The 13th Asian Conference on Clinical Pharmacyのシンポジウムで、平成25年4月に行ったアドバンスト科目「薬剤管理指導概論」の内容と評価について報告した。 第23回日本医療薬学会年会のシンポジウムで、平成25年4月に行ったアドバンスト科目「薬剤管理指導概論」の成果について報告した。 第23回日本医療薬学会年会のポスター発表で、平成25年4月に行ったアドバンスト科目「薬剤管理指導概論」の成果について報告した。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 特になし			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Identification of a novel biomarker for oxidative stress induced by hydrogen peroxide in primary human hepatocytes using the 2-nitrobenzenesulfonyl chloride isotope labeling method.	共著	平成22年4月	Hepatol Res 40:337-345
(論文) Proanthocyanidin derived from the leaves of Vaccinium virgatum suppresses platelet-derived growth factor-induced proliferation of the human hepatic stellate cell line LI90.	共著	平成22年4月	Hepatol Res 40:438-445
(論文) Pathogenic mutation of ALK2 inhibits induced pluripotent stem cell reprogramming and maintenance: mechanisms of reprogramming and strategy for drug identification.	共著	平成24年11月	Stem Cells 30:2437-2449
(著書) Liver Disease-Related Proteomics (Chapter 7)	共著	平成25年8月	Quantitative Proteome Analysis - Methods and Applications, p119-p140, Pan Stanford Publishing Pte. Ltd.

(論文) 地域医療型共同薬物治療管理 (CDTM) 導入の試み 一疑義照会の事後報告導入がジェネリック医薬品使用率及び医療費に及ぼす影響	共著	平成25年12月 (印刷中)	日本プライマリ・ケア連合 学会誌、第36巻4号
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成25年3月～現在	日本医療薬学会 一般会員		
平成25年8月～現在	日本環境変異原学会 一般会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医薬資源化学	職名 助教	氏名 佐々木寛朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
実習内容の改訂		平成21年4月～	「基礎薬学実習」及び「化学系薬学実習」において、薬学モデルコアカリキュラムに適した実習内容へ改訂に関する提案を行っている。
授業プリントに沿った授業形式		平成24年12月～	「天然物化学」において、穴埋形式のプリントの作成補助を行っている。これに沿って授業を行うことで、円滑にすすめることができ、学生が理解しやすくなるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
実習書の作成		平成21年4月～	「基礎薬学実習」及び「化学系薬学実習」の実習書の取りまとめの補助を行っている。
授業プリントの作成		平成24年12月～	「天然物化学」において、プリント作成の補助をしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
（論文）Ginkgetinのglucose配糖体の合成と $\beta$ -secretase阻害活性		共著	平成26年2月
（論文）New biflavonoids from <i>Cephalotaxus harringtonia</i> var. <i>fastigiata</i> (Cephalotaxaceae)		共著	平成20年1月
（論文） $\beta$ -Secretase (BACE-1) inhibitory effect of biflavonoids.		共著	平成22年6月
（論文）Structure-Activity Relationships of Biflavonoids for $\beta$ -Secretase (BACE-1)		共著	平成24年9月
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。

5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬剤系	職名 助教	氏名 井上 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 担当講義なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 特記事項なし			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Influence of formulation viscosity on drug absorption following nasal application in rats.	共著	平成19年7月	Drug Metab. Pharmacokinet. 22 (3), 206-211.
（論文）Transnasal delivery of methotrexate to brain tumors in rats: A new strategy for brain tumor chemotherapy.	共著	平成22年10月	Mol. Pharm. 7 (5), 1561-1568.
（論文）In vitro evaluation of nasal mucociliary clearance using excised rat nasal septum.	共著	平成24年3月	Biol. Pharm. Bull. 35 (6), 889-894.
（論文）In vitro evaluation of the ciliary beat frequency of the rat nasal epithelium using a high-speed digital imaging system.	共著	平成25年6月	Biol. Pharm. Bull. 36 (6), 966-973.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年9月～	日本薬学会 会員		
平成20年3月～	日本薬剤学会 会員		
平成21年5月～	日本DDS学会 会員		
平成21年7月～	日本薬物動態学会 会員		
平成20年5月～	米国薬学会（AAPS） 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子構造化学	職名 助手	氏名 加藤 久登
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） マルチメディア機器を用いた授業		平成24年5月～	実習科目「物理系薬学実習」において、補助として、実習内容をスライドで示し、説明することで学生の理解の向上の一助とした。
2 作成した教科書、教材、参考書 物理系薬学実習実習書の作成		平成25年5月～	実習科目「物理系薬学実習」で用いる実習書の作成に参加、学生に配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） <i>In situ</i> monitoring of photodynamic inactivation of the membrane functions of bacteria using electrochemical sensors.	共著	平成22年10月	Analytical Sciences vol.26 No.10
（論文）Continuous real-time monitoring of cationic porphyrin-induced photodynamic inactivation of bacterial membrane functions using electrochemical sensors	共著	平成23年7月	Photochemical & Photobiological Sciences vol.10 No.7
（論文）Xanthene dyes induce membrane permeabilization of bacteria and erythrocytes by photoinactivation	共著	平成24年3月	Photochemistry and Photobiology vol.88 No.2
（論文）センサーを用いた薬物作用の <i>in situ</i> モニタリング	共著	平成25年3月	分析化学（第62巻第2号）
（論文）Noninvasive analysis of volatile biomarkers in human emanations for health and early disease diagnosis	共著	平成25年6月	bioanalysis vol.5 No.11
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年2月～	日本薬学会会員		
平成24年5月～	日本分析化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。  
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

